

Argentina 1
アルゼンチン共和国

LA LÍNEA

「線」

Beatriz Doumerc, Ajax Barnes, ill.
Colihue, 2020

線とは点の連続で、途切れることなく続くものです。線とは、直線、曲線、横向き、縦向き、または他の線と平行、垂直になっていたりするような最小限の表現なのです。しかし Beatriz Doumerc と Ajax Barnes の本では、線は “簡素” である一方で “複雑” な新しい存在であるとし、まるで生きているように振る舞い反抗もする、と説明しています。この絵本は、協力し団結すること、自由であること、そして「太陽のように偉大な祖国」を創造することがテーマとなっています。発表されてからというもの、この作品は中南米をまばゆく照らしており、1975 年にはキューバの文学賞 Casa de las Américas 賞を受賞しました。以来、先駆的な作品として絵本史に名を刻むことになったのです。

Petit, El Monstruo 「かいじゅうの Petit」

Isol

CalibroscoPIO, 2013

世界的に有名な賞であるアストリッド・リンドグレン記念文学賞の 2013 年度受賞者である Isol は、主人公の破天荒な少年を通して、少年が日常生活で体験する矛盾を示しています。しかし、著者は結局のところ、概念的にも造形的にも文学的にも、この少年 Petit が実はごく普通の子であるとアピールしています。それこそ、少年の母が少年と同じように振る舞っていても。いわゆる女の子、男の子らしさからはかけ離れていますが、子どもたちの自然体の姿を Isol は捉えています。作者はこの作品で、道徳的ステレオタイプへの批判に磨きをかけています。これで Isol は、無二の絵本作家としてその立場を確固たるものにしたのです。

Obvio

「明白な」

Istvansch

Edebé, 2015

優れた作家として知られる Istvansch の持ち味が全面に出された作品です。作者は貼り絵の名手として知られ、正確に切られた色紙を整然と重ね合わせて絵を作ります。これは探検と発見の本で、強力なイメージが他のもののの中に薄れていき、オブジェクトが自明ではなくなりメタファーと美に変わります。標語として、問題を解決すること、自身の立ち位置を把握すること、観察すること、驚くこと、喜ぶこと、旅をすることを挙げています。鋭いユーモアと観察眼とともに、物事の不確かさ、直感、そして無限のセミオーシス（記号過程）といった共通の要素を盛り込んだ絵で読者を楽しませます。

Rompecabezas

「パズル」

Diego Bianki

Pequeño editor, 2013

「パズル」は、多様な作品の作者であり出版社 Pequeño Editor の創設者でもある、各方面で活躍する Diego Bianki が手掛けた作品です。作者は、絵本を通してあらゆる方法で私たち読者を驚かせてくれます。見てわかる物語を構築する箱の美しさだけでなく、共存について教える言葉のテキストによっても、私たちを驚かせてくれます。また、この作品は国際的な賞を受賞しているため、国外でも認知されています。賞の中には、IBBY バリアフリー児童図書も含まれており、これはこの作品が「他の人は自分とは違う人だけど、でもその人の背景に目を向けると、実は自分と一緒になんだ」ということを謳っているからだと言えるでしょう。

Contracorriente

「流れに逆らって」

María Wernicke

CalibroscoPIO, 2019

自身の持ち味である簡素で本質的な表現に忠実な手法を用い、詩的な描写をすることで知られる María Wernicke は、ページをめくる度に、読書が人間の人生にもたらすものを読者に発見させてくれるような作家です。この物語に出てくる男性は、日々自然と関わり合いながら商売をしています。ある日、本を愛する心優しい女性と出会います。この何気ない出会いが、男性を少しずつ文字に、ことばに、本の中の物語に、そして本が持つ宝物に、（流れに反して）近づけていくのです。Wernicke は、絵本というメディアでのみ表現し得る自然と文学の組み合わせで、存在そのものに対する美を描き出しています。

Clara Y El Hombre En La Ventana 「クララと窓のなかのおじさん」

María Teresa Andruetto, Martina Trach, ill.
Limonero, 2021

物語は、“触れる”ことで始まります。主人公クララのお母さんは、いつも洗濯物を手洗いした後に日光の下で乾かすのですが、この絵本の表紙の質感は、まさにその洗濯された服を思い起こさせます。風景画を多く盛り込んだこの作品は、茶、黄色の土の景色だけでなく、田舎の風までも読者に感じさせてくれます。この風景は、さながら森の中であるかのように読者を錯覚させ、クララを赤ずきんちゃんと重ねさせますが、この物語の場合はお婆さんや狼はおらず、代わりに大きな家と、家の中にいるおじさんが描かれています。作品では、本を介して育まれる友情に触れることができ、勇気を出せば自由を勝ち取ることができる読者に教えてくれます。

Un Coso

「あるもの」

Santiago Craig, Pablo Bernasconi, ill.

Limonero, 2021

「あるもの」は、馴染みはあれど名前がついていないもののお話です。なぜ名前がついてないのか、恐らくは望まれない監視や熟慮の結果、名前がそぎ取られてしまったためかもしれません。その「あるもの」は、時には私たちが軽んじているものに対して授けるような、名誉（もしくは不名誉）なものを表します。Santiago Craig と Pablo Bernasconi 両名によるこの一風変わった穴の開いた絵本は、主人公の「あるもの」は身じろぎせず静か、かつ新鮮味があって何物にも似ていない何かだということ、或いは、読む人によっては万物と似通ったものであると感じさせるのです。つまり、この作品の「あるもの」は何も成さず、一方で世界を世界たらしめる「あるもの」でもあるのです。

En Pausa

「時間を止めたら」

Eleonora Garriga, Sabina Álvarez Schürmann, ill.
Lecturita Ediciones, 2020

「もし〜だったら？」この魔法の呪文が、何千もの物語を世に生み出しました。この「時間を止めたら」の主人公には確固たる意志があり、自身が獲得したい超能力はどんなものか、また、その能力を得るには何をすれば良いのかを理解しています。物語は、簡潔な描写により人々を魅了する能力を持つ Sabina Álvarez Schürmann の手により、すばらしい絵が添えられています。鮮やかな色使いとシンプルな造形をもって、もし主人公の少女に時間を止める力があったなら、彼女はどんなにすごいことができるだろう……と読者に示してくれます。では、あなたならば、もし自分に超能力があったなら、どんなことをしますか？

Así queda demostrado 「これにて証明終わり」

Nicolás Schuff, Pablo Picyk, ill.
Ojoreja, 2019

文担当の Nicolás Schuff と絵担当の Pablo Picyk のコンビには、何冊か共作があります。両名による作品は、視覚的に強く惹かれるだけでなく、二人の表現手法でもって想像力が掻き立てられるのも特徴です。Picyk の絵は、非常に簡略、かつ非常に造形力があり、その色使いもまた非常に興味をそえられるようなものになっています。QUOD ERAT DEMONSTRANDUM (Q.E.D. “証明終わり”の意) は、数学者が数式の立証過程で最後に記すことばです。この作品では、馴染み深い事柄のいくつか、遊び心あふれる表現で論破されているのを目にすることができます。「遊び心」がありつつも、科学的な言い回しを放棄した訳ではないと見て取れます。

La Noche escondida

「隠された夜」

María José de Telleria

Periplo, 2020

「隠された夜」の絵により、María José de Telleria は、ボローニャの絵本画家の展示会にて入選しました。非凡な才能が光る作者は、不思議にあふれたこの絵本を通して、子どもたちの好奇心と冒険の世界へと読者を誘います。限られた色味を使うことによって効果的に作中の空気感を表現するのに成功しており、夜と物語の登場人物たちは共演し得ること、そして同時に、主人公の少女と仲間になれることをも示しました。彼女の無邪気さと詩的なことばによって、私たちは隠された夜を探す少女の旅に同行する勇気をもらうことができます。

Armenia 1
アルメニア共和国

Կապույտ գետածիռուկի և վարդագույն մկնիկի արկածները

「Bluey と Pinky の冒険」

Nouneh Sarkissian and Savannah Sarkissian • Savannah Sarkissian,

ill.

2019

皆さまに、大きな青いカバ Bluey と、小さなピンク色の
ネズミ Pinky をご紹介しましょう。ふたりは Square 氏が運
営する動物園で暮らしていましたが、ある日新しい家と新し
い家族のもとに引っ越しすることになり、彼らと一緒に住む
ためには覚えなくてはいけないことがたくさんあるのに気
が付きます。しかし、新しいお母さんとお父さんの愛情溢れ
る教えに支えられ、ふたりの素晴らしい冒険が幕を開けます。

Թագավորն ու վիշապը 「王さまとドラゴン」

Nouneh Sarkissian • Lala Sarkissian, III.

2010

昔々、ドラゴンを飼っている王様がいました。王様はドラゴンをととても愛していました。しかし、そのドラゴンのしっぽはあまりに大きかったため、お城の中でよく問題を起こしていました。というのも、階段を昇るのは特に問題はなかったのですが、反対に降りる際はひどい音を立ててしまうのです。この問題に、ドラゴンは早急に解決策を講じなければなりませんでした。

Կապույտ աղվեսը
「青いキツネ」

Lilit Altunyan
Zangak, 2016

この物語は、不思議な色をした子ギツネが主人公です。なんと、青色なのです。彼は、より身を隠すのに適した森を見つけるのが夢でした。ある日、キツネは今の家を捨てて、夢見た青い森を見つける旅に出ることを決意します。旅のさなか、彼は様々な森を通り抜けていき、ついに自身が望んだ森にたどり着きます。しかし驚いたことに、そこはなんと、最初に出発した森だったのです。この物語は、自身の夢を信じること、耐え忍ぶこと、そして自分を肯定することを教えてくれるものとなっています。

Խաղալիքների տունը
「おもちゃの家」

Hasmik Apoyan • Naira Muradyan, ill.
Zangak, 2019

「おもちゃの家」には、珍しくて見事なお人形がたくさんいます。彼らの持ち主が良い行いや悪い行いをするたびに、彼らは色とりどりのボールか灰色のボールで満たされるのですが、どちらの色合いのボールが多いかで、お人形たちは楽しくなったり惨めな気持ちになったりするのです。

Կախարդին + ագռավ
「魔女一人とカラス一羽」

Erazik Grigoryan • Anna Hakobyan, ill.
Zangak, 2021

世間はいつでも、老いた魔女とそのお供のカラスに対して悪口を言います。さらに、彼女たちには自分たちの擁護ができるだけの良い行いもできません。しかし、物語を読み進めていくとこの一人と一羽の姿が読者の笑いを誘う一方で、ときに彼らの境遇に心を痛めることもあるでしょう。そして最終的には彼女たちを愛さずにはいられなくなるでしょう。そして、ここが肝心なのですが、彼女たちが典型的な魔女とカラスの姿からかけ離れていることにすぐ気付くでしょう。

«Արանչեիկ», «Ձնեմարդը»

「奇跡のようなお話」 「雪だるま」

Edgar Tatikyan, Hovik Mkhitarian • Asya Kandilyan, ill.

Edit Print, 2021

こちらは、Edgar Tatikyan と Hovik Mkhitarian 両名の物語が 1 冊の絵本にまとめられています。この二人は、IBBY アルメニア主催の賞 2019 年 Contest of children's writers and illustrators にて次点に輝いた作家たちとして知られています。Mkhitarian の「奇跡のようなお話」は、ある犬と赤ちゃんの間の信頼、思いやり、そして愛をテーマとしています。Tatikyan の「雪だるま」は、勇気にあふれ友情に篤い雪だるまのお話です。彼は、何者も、誰も恐れていませんが、ただ例外として、除雪車と保健所から来る野犬取り締まりだけは恐れているようです。この雪だるまは、思いやりにあふれる友なのです。

Քաջալ ողնիւ

「ハリのないハリネズミ」

Nouneh Sarkissian • Rouben Grigorian, ill.
Zangak, 2021

小さなハリネズミには、生まれたときからハリが生えておらず、キツネさん夫婦は彼を食べたいと考えます。医者のアナグマ先生がリンゴを食べることを勧めると、森中の動物たちが赤ちゃんハリネズミのためにリンゴを持ち寄ります。彼がリンゴをすべて平らげると、身体からハリが生えてきたのでした。

Զոհողումիկը, Զսպասումիկը և
ուրիշները

「“やだ、やりたくないもん”君と、“やだ、
まてないもん”ちゃん その他のお話」

Karine Harutyunyan • Naira Aharonyan, ill.
Zangak, 2021

この絵本に収録されたおとぎ話は、就学前の子どもたちが直面するであろう年齢相応の恐怖や問題を乗り越えてもらうための物語です。お話には、それぞれ対象年齢と読書目的が設けられ、どのような状況下でこの問題が起こるのか、そしてその問題に対する適切な解決策をも示してくれています。この作品は、保護者だけでなく、就学前の子どもたちを相手にする職に就いている人々にとっても手引きとなることでしょう。

Armenia 9
アルメニア共和国

Գազարագույն գատիկի կորած
կետիկները

「斑点をなくしたオレンジ色のてんとう虫」

Yevgeniya Evoyan

Arevik Publishing House, 2020

これは、なくなってしまった自分の斑点を探す旅に出る、オレンジ色のてんとう虫のお話です。斑点は見つかりませんでしたが、新しい友達と出会い、てんとう虫はあるがままの自分を受け入れるのでした。この作品のテーマは、身体の色や斑点に関係なく手を差し伸べてくれる献身の精神、そして友情です。子どもたちはこのお話を通して、世界に存在する違いについて考える機会を与えられ、自身の特異性を喜んで受け入れられるようになるでしょう。対象年齢は、就学前、または小学校に通う子どもたちを想定しています。

Armenia 10
アルメニア共和国

Մարտիրոս Սարյան. Հավերժ
գարմանալու երջանկությունը
「マルティロス・サリヤン 永遠なる感覚
の喜び」

Lusine Dallaqyan • Martiros Saryan Artworks
Arevik Publishing House, 2021

この芸術家評伝シリーズでは、最初の 2 巻でゴッホとピカソという傑出した画家が取り上げられましたが、そのシリーズでアルメニアが誇る有名画家マルティロス・サリヤンも取り上げられています。彼の人生、重大な出来事や成功物語が簡潔にまとめられ、子どもたちにわかりやすく語られています。この作品の形式により、画家とその作品への興味をいっそう促します。加えて、本の中には数多くの魅力的なゲームが掲載されており、子どもたちの想像力、論理的思考力を育てるのに一役買うこと間違いなしでしょう。こちらは、就学前および小学校の子どもたちが対象の作品となっています。

Window 「まど」

Jeannie Baker

Walker Books, 2002

文章がないこの絵本は、窓から外に広がる手つかずの景色と自然の世界へと読者の視界を広げてくれます。景色は、生まれたばかりの赤ちゃんに可能性あふれる未来を約束し、新しい世界に歓迎しています。ページをめくる度に、作品は主人公 Sam の人生に起きる出来事を映し出し、同時に彼が生まれた村が町に、そして街に成長する度に、外の景色が移り変わっていく様子も見られます。物語は、窓の外に広がる自然と、自分の家の中に描かれている Sam を映し出しながら、読者に彼の人生を見せているのです。

各ページのコラージュは、一層発展する世界を前に、自然環境とのバランスを取ることの大切さをより強く私たちに訴えかけてきます。

Why I Love Australia

「オーストラリアが大好きなわけ」

Bronwyn Bancroft

Little Hare, 2016

「オーストラリアが大好きなわけ」は、色彩豊かなビジュアルと先住民族のスタイルで描かれた、言葉選びの作品です。多様な景色やその上に成り立つ自然環境への作者 Bronwyn Bancroft 本人の愛情が、色彩や動きある展開によって表現され、広がりある視点を読者に示してみせています。簡潔でありながらも想像を掻き立てるような文で、個性豊かな風景を描写しています。また、見開きのページそれぞれに小さく人物が描かれています。人物はクーラモンという伝統的な木製の皿を手にし、皿の中には煙を使った儀式に必要な干し草が入っています。この儀式は、自分たちの住まう土地・国に来訪した人々に、歓迎の意思を表す特有の伝統行事として知られています。

Animalia

「動物の世界」

Graeme Base

Picture Puffin, 1990

これは、一風変わったアルファベットの絵本です。それぞれの文字から始まる句が非常に洗練された頭韻法でもって表現され、そこに細密な絵が加わることで、さながらビュッフェ形式で文字習得のアイディアが提示されているように感じられます。例えば “An Armoured Armadillo Avoiding An Angry Alligator (怒るワニをやり過ごす、鎧で身を固めたアルマジロ)” と一緒に冒険を始めても、または “Zany Zebras Zigzagging in Zinc Zeppelins (亜鉛製の飛行船でジグザグに走るお調子者のシマウマたち)” と一緒に旅を終えても、ABC で作られた魅力的な世界への驚きとイメージを、読者は発見することになるでしょう。

各ページに紛れ込んでいる、作者 Graeme Base のミニキャラの存在もまた、幅広い読者を魅了するのに一役買っています。

Bear and Rat

『いつまでいっしょ?』

Christopher Cheng • Stephen Michael King, ill.
Puffin, 2021

パンダさんとネズミちゃんは、何をするのも一緒の大的仲良しです。その中でネズミちゃんは、パンダさんはずっと自分のそばにいて、手を繋いでいてくれるかな、と考えます。彼女は、これより大事な質問を投げかけてきます。Stephen Michael King の絵が見せる動きが、彼らの旅路へと読者を誘います。ふたりは、夜も昼も、寒くても暑くても、山を越え川を渡り、一緒に旅を続けます。パンダさんは荷物を背負い、未来に何があるのかを理解しています。

ふたりはすてきな力サを持っていましたが、いざ雨が降ってくると役に立ちません。ついにパンダさんはネズミちゃんを抱き上げると、“ずっと” ふたりで一緒に未来に向き合うべく、進むのでした。

My Two Blankets

「わたしの 2 枚の毛布」

Irena Kobald • Freya Blackwood, ill.

Little Hare, 2017

戦争により、Cartwheel と彼女のおばは、安全な国への避難を余儀なくされます。新しい国は慣れないことだらけで圧倒されてしまい、彼女は慣れ親しんだ故郷の言葉や思い出をもとに詩の毛布を織り始めます。公園にいた少女が、彼女に友達になろうと手を差し伸べてくれたことが功を奏し、新しい国の言葉が笑い声とともに新しい毛布を成していくのでした。穏やかで柔和なタッチの Freya Blackwood の絵で、Cartwheel とおばの姿が鮮やかな赤やオレンジで描かれる一方、新しい国は対比的に涼やかな緑や青で描かれています。

最後のページでは、故郷の文化を犠牲にすることなく、希望を抱けるようなイメージが見て取れます。

Are We There Yet?

「ねえ、まだ着かないの？」

Alison Lester

Viking, 2004

8歳の少女 Grace は、両親と二人の兄 Luke と Billy のみ
んなで、オーストラリア中をキャンピングカーで旅してまわ
った夢のような 3 か月間を思い起こします。旅の途中でし
たことや訪れた名所が、たくさんの絵や地図、図形で埋め尽
くされた旅のスクラップブックを通して Grace の言葉で語
られます。中には、小さい子たちのためになるようなちょっ
とした情報も盛りこまれています。

道中、Billy はことあるごとに、保護者であれば誰しものが
聞いたことがあるかもしれない言葉、“ねえ、まだつかない
の？”を口にし、それは家に帰り着くまで続きます。

作者 Alison Lester は、オーストラリア初の児童文学賞
子どものためのローリエットの 2012 年度受賞者に選定さ
れ、その他多くの文学賞を受賞しています。

The Rabbits

『ウサギ』

John Marsden • Shaun Tan, ill.

Lothian, 2008

『ウサギ』は、被植民者の側から見た、国の植民地に関する寓話です。姿の见えないナレーターが、最小限の表現で“ウサギ”の来訪を告げます。“ウサギ”は最初こそ友好的であったものの、徐々にその侵略者であることが明らかになります。この作品の形式としては、故意に絵をまばらにして不可思議な雰囲気なものにし、文章、絵ともに侵略に対する当惑の意を表現しています。奇妙な新文化の車輪が環境破壊を行うさまを、アリクイのような姿の土着の生き物たちが目撃者として見つめます。オーストラリアの植民地化という実際に起きた歴史的な出来事を、ウサギという侵略的外来種との類似で描いたのは、巧みな隠喩であるといえるでしょう。

Ella And The Ocean

「Ella と海」

Lian Tanner • Jonathan Bentley, ill.
Allen & Unwin, 2019

Ella は、干ばつに襲われた地に住んでいます。彼女は、父に、母に、Ben 兄さんに、そしておばあちゃんにも、海のことを尋ねます。みんなの答えは弱々しく、希望を失ったような内容でしたが、ただ一人おばあちゃんだけは、違う答えを披露します。一家は海へと赴き、“砕かれた夢が洗い流されるまで” 泳ぎました。家に帰っても変化はなかったものの、家族全員、元気が回復した様子でした。Jonathan Bentley による絵は、物語に勢いを与えるため、2 種の全く異なるカラーパレットを使っています。大地を連想させるような赤や茶色は干ばつに襲われた国、絶望する一家を描きます。青や、Ella の夢の原色は躍動する生命、心の落ち着き、回復された元気をそれぞれ表しています。

Sorry Day

「ごめんなさいの日」

Coral Vass • Dub Leffler ill.

National Library of Australia, 2019

この作品では、心動かす 2 つの物語が重なり合っています。オーストラリアの先住民の“失われた世代”への首相の謝罪演説が始まるのを、Maggie は母と一緒に人混みの中で待ちます。もう一方の物語では、先住民の子どもたちが家族から、自分の文化からさらわれてきた様が語られます。Maggie は一瞬母を見失い、恐怖をおぼえます。読者の子どもたちは、きっと彼女に自分を重ね合わせ、植民者から怯え隠れていた子どもたちの気持ちがわかることでしょう。Dub Leffler の写実的な絵は感情的で、読者の恐怖感を煽り、見開きページで配置された絵は、過去をセピア調、現在を淡い色合いで表現しています。また、本文には実際の演説の写真と、演説がなされた背景の解説も添えられています。

Mr Huff

「ため息さん」

Anna Walker

Viking, 2015

生きていれば、たまには“悪い”日だってあるものです。朝起きるや否や、Bill は「今日はなんだか良くない 1 日になりそうぞ」と不安になります。靴下が見つからない、雨が降り始めた、Bill の不安を示す大きなため息が、どこへ行くにも彼に付きまとっているように思えます。しかし、家に帰る途中、Huff さん（ため息さん）と Bill が水たまりの間を歩いていると、歩道がキラキラと輝いているのに気が付きます。遠くからは、小さい子どもたちの笑い声が聞こえてきました。Bill の顔に、笑みが浮かびます。明日がたとえ曇りの日でも、晴れる可能性があるからです。物事は好転させられることに Bill が気付くと、ため息でできた Huff さんの身体は消えていったのでした。

Jaguar, Zebra, Nerz

「ジャガーとシマウマとミンクの 1 か月」

Heinz Janisch • Michael Roher, ill.

Tyrolia Verlag, 2020

あなたは、ジャガーと名前が付いた月（1 月、2 月の “月” です）があるのを聞いたことがありますか？このジャガー月の間は、なにやら自分の背が伸びて優雅になったように感じ、皆があなたに尊敬の念をもって接します。シマウマ月も、なかなか素敵な月です。考えを巡らせると身体に縞が生まれ、何かを探求するのに最適な期間となっています。ミンク月もまた特別な月で、ぬくぬくと温かな期間が続きます。Christian Morgenstern の Wie sich das galgenkind die monatsnamen merkt（絞首台の子どもはどうやって月の名前を覚えているのか）という詩にインスパイアされ、Heinz Janisch と Michael Roher が美しく詩的なイヤブックスを作り出しました。

Austria 8
オーストリア共和国

Sternenbote - **Eine**
Weihnachtsgeschichte

「星の運び屋 クリスマスのお話」

Reinhard Ehgartner • Linda Wolfsgruber, ill.
Tyrolia Verlag, 2019

クリスマスは、特別な瞬間や願いごと、そして秘密に満ちた夢のようなひとときです。同時に、日常のありとあらゆる場面で星を目にする時でもあります。例えばクッキーの形やクリスマスツリーの飾り、それにお店のショーウィンドウでも星形を目にするかと思います。これは実は、歴史から見ると本質的なことであり、2000 年前に三賢者たちを、これから世界を永遠に変えることになる厩に生まれた子のもとへと導いたのも、星でした。

Glück gesucht 「幸せを探して」

Ulrike Motschiunig • Nina Dullek, ill.
G&G Verlag, 2020

母さんキツネが病気にかかってしまい、ちびキツネは母を助けるべく奔走します。「ちょっと運があれば」すぐに良くなる、と母さんが言うので、その“運”を見つけてあげるために、ちびキツネは旅に出ます。彼は森で出会った動物たち、リスやウサギ、カササギにも尋ねてまわりますが、幸せとは何か、皆それぞれ考えが違っているのです。意気消沈してちびキツネは家に戻りますが、彼を待ち受けていたのは、彼の帰りをこの上なく喜ぶ母さんキツネの姿。母にとっての一番の幸せは、彼が無事に家に帰ることだったのです。

Radieschenmaus und Kuschelgurke 「ラディッシュねずみとだっこキュウリ」

Miro Pofertl

G&G Verlag, 2021

Alma と Josef の家の隣には市場向けの農園があり、いつでも賑わっています。子どもたちは様々な草花や野菜、果物が育っていく様子を見に行くのが大好きでした。パパが市場に野菜を出品する際は、子どもたちも一緒について行きます。この作品は、たくさんの笑えるお話やレシピ、そして春夏秋冬それぞれの季節に役立つような、ちょっとしたノウハウも記されています。作者本人も、実はオーガニック農園に住んでいるとのこと。Miro Pofertl の作品は、環境保護やサステナビリティが重要なテーマとなっています。

Mouna va à l'école

「Mouna 学校へ行く」

Animata Hien Fofana • Claude Adjaka, ill.

Editions Ruisseaux d'Afrique, 2017

アフリカの国 ブルキナファソの西部にある Dora 村の学校では、そろそろ新学期が始まります。9 歳の少女 Mouna は、自分と同じ歳の子たちと同じように学校に通いたいと思っていますが、母親は彼女に水汲みや洗濯の手伝いをしてほしい様子。そこで Mouna は、思い切って学校に向かう子たちの後をつけて校庭から皆を観察し、何をしているのか教室の窓から中をうかがいます。しかし先生に見つかってしまい、彼女は生徒ではないので帰るようにと言われてしまいます。この絵本は、世界中に未だ実在する Mouna のような子のために、女の子が学校へ行くことの大切さを啓発しています。

Le caméléon de Codjo 「Codjo のカメレオン」

Gontran Semado

Editions Ruisseaux d'Afrique, 2002

Codjo が飼っているカメレオンは、他のカメレオンと同じように身体の色をまわりの風景に溶け込ませて身を隠します。しかし、彼はとても賢いカメレオンでもありました。彼は道で死んだふりをし、かわいそうと思った子どもたちがくれる食べ物を狙っているのです。そこに、ゾウが彼を訪ねてきます。ゾウは、彼がどのようにして良い暮らしを手に入れたのかを知っていました。しかし、カメレオンの言うことは、果たして全部が全部、役に立つものでしょうか？この作品の絵は水彩で描かれており、カメレオンの身を隠す戦法が絶妙なパステル調で表現されています。

Zannou : Sur les traces de Grand-père **「おじいちゃんの足跡をたどる」**

Béatrice Lalinon Gbado • Roger Boni Yaratchaou, ill.
Editions Ruisseaux d'Afrique, 2011

物語の語り手の Zannou は、すべてをおじいちゃんから教わっているティーンエイジャーです。釣り、嵐、市場でのやりとりなどを通じて、謙虚さや思慮深さ、そして正しい感情の抱き方を体得していきます。Béatrice Lalinon Gbado は、詩的な表現と味のある描写によって、情報と冒険を織り交ぜて伝える技量の高さを改めて読者に披露しています。また、Roger Boni Yaratchaou の手による雄大な絵が、大きな判型と上質な紙により表現されています。

Le village des papillons 「チョウの村」

Béatrice Lalinon Gbado • Akotchayé Divin J'X Agossa, ill.
Editions Ruisseaux d'Afrique, 2020

チョウの村では、青や赤、黄色や黒のチョウたちが、お互いに混ざり合うことなく草原で暮らしています。乾季の暑い日、彼らは川へと導かれました。そこでは、色を混ぜ合う雨が降るのです。ある晩のチョウの村で、チョウたちの色合いはお互いの色に混ざり合い、ともに暮らし始めるのでした。美しく簡潔な物語に、美しい水彩画が添えられています。

Kaléta

「カレタ」

Hermance Sènamì Dounoumansou

Editions Ruisseaux d'Afrique, 2018

幼い少女が、カレタを準備するグループの一員になることを望んでいました。カレタとは、毎年ベナンでクリスマスの前夜に行われる仮面の儀礼です。男の子たちは、自分たちの邪魔をされるのはごめんだと思っていましたが、彼女の祖父が少女に素晴らしい仮面を貸してあげると、態度を一変させます。少女自身が、それまでは男子の特権であったカレタそのものとなったのです。青灰色の背景とカレタの仮面の暖かな色合いの対比構造が素晴らしい絵本作品に完璧にマッチしており、作品のテーマである儀礼とそのタブーを、男の子たちの意見の一致により乗り越えることができたのです。

¡Sorpresa!

「サプライズ！」

Isabel Caero • Ximena C. Claire, ill.

Grupo Editorial Kipus, 2003

猫の Minina が、ある日謎の失踪を遂げます。飼い主である少女は、愛猫の姿を求めて家を隅々まで探します。小さな読者たちは少女の探索劇に参加し、手助けをしようとページに切り抜かれた窓を開け、絵の中で猫が隠れるのに最適な場所を探してみたりします。Minina は、もしかして柳細工のカゴの後ろにいないのでしょうか？それともテーブルの下でしょうか。この作品の絵は、中庭や土づくりのオープンといった、ボリビアならではの古い家の内装の特徴を明確に描き出しています。こうして作者は、読者と物語の間に共謀的なつながりを築くのです。

Comiendo estrellas

「星を食べる」

Gigia Talarico • Daniela Durán, ill.

Grupo Editorial La Hoguera, 2011

ある月明りの晩、二人の子どもたちと猫の影が反射するなか、Olivia が弟 Esteban に、星は食べることができるのだと説明しています。生きていれば、夜に時おり感じるぬくもりが、魂の平穏が、そして他者へのまなざしが、食べられるような距離までに人と星を近づけるということです。Esteban は姉と飼い猫の Lucero から、夢を見るだけでどこか他の場所に旅をすることができたり、胸の中にホタルがいるのを感じたり、手を伸ばしさえすれば星を食べることもできると教わるのでした。

La increíble tía Dorita

「すてきな Dorita おばさん」

Rosario Moyano

Espacio Simón I. Patiño/Plural, 2012

幼い子が、Dorita おばさんを待っています。お母さんによれば、おばさんは素晴らしい人で、人生でいろいろなことを経験してきた人なのだそうです。彼女は、他の誰にも聞こえないものを聞くことができたり、人の心の中が見えたりするというのです。それを聞いて子どもは、おばさんは月まで届くくらい背の高い女性で、身体に音声探知機を装備していると想像しますが、いざ彼女が姿を現すと、おばさんは目が不自由であるとわかります。Dorita おばさんは人当たりがよく、自然体の人です。おばさんは子どもを近所への散歩に誘い、自分に近所の様子を教えてほしいと申し出ます。そうして子どもは、星の声を聞くこと、そして自分自身を知ることが学ぶのでした。

El tren de la noche 「夜間列車」

Isabel Mesa Gisbert • Guiomar Mesa Gisbert, ill.
Espacio Simón I. Patiño/Plural, 2012

小さな子が近所の Francisca の家に預けられ、夜寝る時間まで一緒に遊んでいました。深夜ごろ、少年は列車が自分の部屋に侵入して何もかもを破壊すると感じました。少年の内面で繰り広げられるモノローグでは、列車は自分の部屋をめちゃくちゃにする破壊的な悪として描かれています。部屋に静寂が戻ると、少年は Francisca を探しますが、彼女の姿はおろか彼女の家までもが、そしてすべてが消えてしまっていたのです。少年は、死と消滅に直面しました。読者の中には、この列車が実は地震の暗喩であることに気付く人もいるかもしれません。そして実際、絵と文が大いに連想させますが、作者たちは、これを説明することもドラマチックにすることもしていません。

La fiesta de la vida 「生命の祝祭」

Liliana De la Quintana • Jorge Dávalos, ill.
Editorial Nicobis, 2013

乾季の間、先住民族アヨレオの人々は春の使者である Asojna 鳥を眠りから起こさないよう、静かに暮らします。しかし、音楽家の少年である Iquebi がうっかりマラカスの音で起こしてしまったため、祖父と二人で鳥の住処である洞窟に赴き、再度眠りに就いてもらえるよう奮闘します。もし Asojna 鳥が睡眠不足の状態で起きると、その年の春は食べ物が少なくなってしまうといわれているのです。この作品では、アヨレオの人々の精神や信仰が美しい絵を通して命を吹き込まれており、彼らの神話が作者の手によって子どもたち向けに見事に再話されています。

El misterio de las ranitas 「カエルミステリー」

Verónica Linares • Antonieta Medeiros, ill.
Grupo Editorial La Higuera, 2014

“緑の水” 沼では、カエルの Carolina が今日の買い出しに出かけます。彼女が帰るや否や、彼女の子どもたちのうちの一人が逃げてしまったと、トンボの Belula が報告してきました。加えて、その子がヴァイオリンを抱えていた、とも。Carolina が自分の子どもたちの人数を確認すると、どうやらいなくなってしまったのは Sofia だということが判明します。そのうち、子どもたち全員、彼らの持ち物を残していなくなってしまったのです。カエルの Carolina は、友達の助けを借りてこの謎に挑みますが、彼女たちを待ち受けていたのは途方もない驚きでした。作者は、詩やゲーム、しかけを通じて、小さな読者たちを魅了します。

El mundo de los bucefalitos

「Bucephalito の世界」

Paula Benedict de Bellot • Sebastián Amadeo, ill.

Grupo Editorial La Hoguera, 2014

「Bucephalito の世界」は、仕事をクビになってしまったごく普通のお父さんの物語です。しばらくすると、彼は美術の先生として学校に雇われますが、娘の Maité は心配で仕方ありません。なぜなら彼女の父は、絵の描き方など知らないからです。しかし父は娘の言葉に対し、“bucephalito” の描き方なら知っていると言います。今の仕事にしがみつくべくして描いてはいますが、どこことなくファンタジーの風味があるこの柔らかな物語には、新しい美術の先生が生み出した、架空の小さな動物たちが主人公となって命が吹きこまれているのです。

La media ch'ulla 「片方のくつした」

Roswitha Grisi-Huber

Grupo Editorial La Hoguera, 2018

これは、洗濯機の中で迷子になってしまった靴下のお話です。この片割れを失った靴下ちゃん(ケチュア語で “ch'ulla” と呼ばれます) は、洗濯機の水管を抜け出し、冒険を始めます。まずは川に、その次はエキゾチックな動物たちが住まうジャングルにたどり着きます。ついには、オニオオハシが靴下ちゃんをビーチに連れて行くと、そこである男の子と出会います。彼は単色の靴下を片方持っていましたが、その靴下が靴下ちゃんとペアになろうと申し出てきたのです。これはまるでふたりの出会いが運命づけられていたかのようで、この出会いをきっかけに、「ばらばらの靴下を身に着ける」ファッションが生まれるという、素晴らしい出来事が起きたのでした。

El árbol de Anselmo

「Anselmo の木」

Carolina Loureiro • Romanet Zarate, ill.

Loqueleo Santillana, 2018

砂漠地帯に住む少年 Anselmo には、木に出会うという夢がありました。そのため、彼は祖父と一緒に生まれて初めての旅に出ます。彼が出会うことになる木は、いったいどのような木なのでしょうか？彼が夢に見たような木でしょうか。これは、砂漠に住むアイマラ族の少年の “もう一人の自分” が生きたであろう人生の物語です。少年の一族は、木の生えないウユニ塩湖の近くに住んでおり、母語はアイマラ語であるにもかかわらず、学校では母語ではなくスペイン語を習わされているのです。

Rolando Volando

「空飛ぶ Rolando」

Claudia Adriázola • Claudia Ilanes, ill.

Espacio Simón I. Patiño/Plural, 2020

Rolando は、町に住んでいる落ち着きのない男の子です。日々突拍子もないことを考えついては、それがどのようなリスクをはらんでいるかを省みずにチャレンジしてしまいます。町の大人たちは、自分の子どもが事故にあっては大変と、Rolando と遊ばせようとしません。彼は独りぼっちですが、素晴らしいことを発見します。ある日を境に、Rolando の姿が見えなくなります。彼の姿は別の町で、それも型にはまらない彼のような人々が住む町で見つかったのです。美しい絵と詩的な文章で、作者たちは Rolando が目にしているであろう世界に私たち読者を招待してくれます。

Cameroon 1
カメルーン共和国

Matike l'enfant de la rue

「ストリートチルドレンの Matike」

Désiré Onana

Editions Akoma Mba, 2018

父から暴力を受け、幼い Matike はヌコンサンバの町を飛び出します。彼は道をさまよい、盗みや妙な仕事をした末、首都ヤウンデにたどり着きます。幸運なことに、彼はそこで住まいを提供してくれる “父” に会うことができました。彼が社会性を身に着け、心に抱く実父への憎しみを忘れるには、今しばらく時間がかかるでしょう。最終的には、Matike は実父と再会し、実父はもう彼を殴ることはない約束しました。この作品は、ミュンヘン国際児童図書館の賞を 1997 年に受賞しています。

Bella fait la classe

「Bella は授業をする」

Liliane Onguene-Mirtil

Editions Akoma Mba, 2017

Bella は、授業について行けていないクラスメイト Aminatou に、惜しげもなく自分の知識と時間を差し出します。Aminatou が両親の手によって結婚させられるのを防ぐためには、学校で好成績を修める以外に手立てがないとわかっているからです。ハッピーエンドで締めくくられる、少女に夢を与える美しい物語です。柔和であどけない絵でありながら、現実を描いています。この作品は、2000 年にフランス外務省主催の出版助成プログラムの対象作品に選出されました。

Vacances au village

「村での休暇」

Pierre Yves Njeng

Edition Akoma Mba, 2018

学校の授業が終わり、みんな長いお休みに入りました。ある子どもたちは街に行くことを選び、またある子どもたちは田舎に行くことを選びました。主人公の Nnemb は、家族みんなで田舎を訪れ、田舎での生活の楽しさを知るのです。この作品は、アメリカ合衆国の Boyd Mills Press から 1999 年に出版され、2000 年度のアフリカ児童文学賞オナーブックに選出されました。

Le vieux char

「古い戦車」

Vincent Nomo

Editions Akoma Mba, 2018

この作品は、良心をもった人々同士の忍耐と協力関係を描いています。戦争が、国のすべてを破壊し尽くしてしまいました。徐々に平和が戻ってくるにつれ、古い戦車とその兵たちが、国境からそう遠くないところで取り残されてしまいます。「村人には、鋤はあるが牛がない」と、Ojuku 伍長が兵士たちに話します。「錆びた戦車を村人たちに貸しましょう！」この物語は本当にあったお話で、大人さえも笑顔にしまう力をもっており、1997 年にダカールで UNICEF 賞を受賞しました。

Une merveilleuse grand-mère 「すてきなおばあちゃん」

Joël Eboueme Bognomo • Samory Ayi, ill.

Editions Akoma Mba, 2018

10 歳の少年 Nondo は、両親を亡くしてからおばあちゃんと暮らしています。ふたりはいつも一緒にいますが、この作品では、おばあちゃんの Balacia と Nondo との特別な関係に焦点が当てられています。子どもの目線で描かれるおばあちゃんのシンプルな描写は、繊細さと愛情の深さを感じさせます。結果的には、作品の言葉は少年の心の傷、そして彼が受ける愛情を明らかにするだけではなく、畑仕事やお話の時間といった、趣にあふれる彼の日常も描き出しています。平和に満ちた世界、人と人との美しいつながりにふさわしく、穏やかな絵と一緒に添えられています。この絵本は、2002 年にフランス外務省による出版助成プログラムの対象作品に選ばれました。

Cameroon 6
カメルーン共和国

Nzié et le lion

「Nzié とライオン」

Mballa Elanga Edmond VII • Kelly Ntep Adams ill.

Editions Akoma Mba, 2016

これは自分の冒険を語る、想像力豊かな Nzié 少年の物語です。Nzié は、Nkol-Nso'oh での休暇の日々を、冒険を探し出したり、ときに冒険を作り出したりしながら過ごします。

Madoulina, moi aussi je veux aller à l'école

「Madoulina 学校に通いたかった女の子」

Joël Eboueme Bognomo • Nafissatou Mohamadou Abbo, JEB ill.
Editions Akoma Mba, 2018

8歳の少女 Madoulina は学校が大好きで、いつか医者になるのを夢見ています。しかし、この年の学校が始まって、Madoulina はクラスに来られません。彼女のお母さんが貧しいため、彼女が市場で食べ物や揚げ物を売らないといけなのです。Madoulina は、とても落ち込んでいます。生徒たちが授業に来ない彼女をからかい、それが Madoulina をいっそう惨めにします。そこで、心優しい先生が彼女とお母さんと話し合い、どうやら Madoulina は学校に通えることになるようです。

Mélo et les copains

「Melo とおともだち」

Christian Daniel Ova'a

Editions Akoma Mba, 2018

小さな Melo はお休みの真っ最中ですが、何もする気が起きません。農場にお母さんと一緒に行くよりも、家にいたいのです。お母さんは、樽に水を貯めておくようにと彼に言いつけますが、Melo は言いつけのことなどすっかり忘れて遊びに興じてしまい、やがてお母さんが帰って来てしまいます…。

La fête des fruits

「フルーツ・フェスティバル」

Frida Akoa

Editions Akoma Mba, 2018

お母さんが市場からたくさんの美しい果物を持って帰ってきてくれました！これは、このおいしくて身体にも良い食べ物についてより知識を深めるのに、うってつけのチャンスです。写実的で温かみのある絵が、物語を彩ります。

L'arbre à merveilles 「望みの木」

Hervé Gaff • Vincent Nomo ill.

Editions Akoma Mba, 2018

Borongo 村は干ばつと砂漠化に見舞われた村で、少年 Iya は水を汲んでくる係でした。彼は砂漠の真ん中で、青々と葉を茂らせ、みずみずしい果実を実らせた木を発見します。この木は、まるで日差しと砂に抗っているようでした。この見事な木は村人たちの願望の対象となり、彼らはどんなことをしてでもこの木を持ち帰りたいと考えるのでした。作品の中の絵は素朴で簡潔、かつ写実的で子どもたちにも親しみやすく、ユーモアにあふれています。画家の描く線と技術は、カリカチュアへの愛から生まれたもので、ガッシュとアクリルを混ぜた絵具を使用し、艶やかな色遣いを生み出しています。

Africville

「アフリクビル」

Shauntay Grant • Eva Campbell, ill.

Groundwood Books, 2018

ノバスコシア州のハリファックス市で毎年夏に開催されるアフリクビルの元住民の再会フェスティバルで、少女は、この活気あふれるコミュニティの過去の姿に思いを馳せます。丘の中腹に建てられた色鮮やかに塗装された家々や、男の子たちがフットボールに興じる広場、子どもたちがこぞってラフティングに繰り出す池や、魚にあふれた釣り場、そして大きなかがり火を少女は空想します。現実に戻ってきた彼女は、現在の公園に足を運び、針となる投影棒に曾祖母の名前が刻まれた日時計のもとを訪れるのでした。Eva Campbell による豊かで活発な雰囲気絵はカンヴァスに油彩とパステルで描かれ、Shauntay Grant による散文的な文章と実に良くマッチしています。

On the Trapline

「わな道」

David A. Robertson • Julie Flett, ill.

Tundra Books, 2021

男の子と Moshom（おじいさん）が、かつて Moshom が育った北部の原生地域のわな道へと出かけます。そこで二人は木の実を摘んだり湖で魚を捕ったりして過ごしました。Moshom は、見覚えのある場所を示しながら、わな道での生活で覚えていることを孫に話して聞かせるのでした。Julie Flett の美しい絵は、紙に描かれたパステル画をデジタル加工しているもので、David A. Robertson の情緒あふれる文との組み合わせが素晴らしいものとなっています。世代を超えた絆を描く心のこもったこの物語には、Robertson が物語中に織り込んでいる先住民族クリーの用語解説も含まれています。この作品は、minwasin（美しい）な作品です。

Town Is by the Sea

『うみべのまちで』

Joanne Schwartz • Sydney Smith, ill.

Groundwood Books, 2017

この痛切な絵本は、ある晴れた朝に、少年が海の音で目を覚ますところから始まります。彼は友達を訪ねおじいさんのお墓参りをしたり、店に買い物に行ったりしますが、その間たびたび彼の意識は深い海底で石炭を掘っているお父さんに向かっていきました。いつかは、彼にその役割が回ってきます。彼は、炭鉱夫の息子なのですから。ジョアン・シュウォーツによる軽い語り口は、ノバスコシア州ケープ・ブレトンを舞台とした非常に控えめながら心に残るお話でもって、カナダ史の物語に命を吹き込んでいます。シドニー・スミスの目を見張るような絵は、まばゆいまでの海岸での日々と、炭鉱夫が採掘を行う暗い地下の対比を浮き彫りにしています。

When I Found Grandma

「私がおばあちゃんを見つけたとき」

Saumiya Balasubramaniam • Qin Leng, ill.

Groundwood Books, 2019

祖母が遊びに来てくれると聞き、Maya は喜びますが、その喜びは長くは続きませんでした。祖母の話し声は大きすぎ、礼拝の鈴の音は Maya を叩き起こし、しかも変な材料で料理をするのです。しかしそれでも、祖母と Maya は頑張って歩み寄ろうとします。あるおでかけの日、Maya は家族を見失ってしまいますが、祖母が家族のもとに帰る手助けをしてくれるのでした。Saumiya Balasubramaniam の物語は洞察に優れ、お互いの愛情を探り合いながら歩み寄っていく祖母と孫のほほえましい姿を、文化的交錯と世代間の違いを読者に見せつつ描き出しています。Qin Leng による可愛らしく印象深い絵がさらに物語を素晴らしいものにしており、祖母と Maya の深まる絆を照らし出しています。

L'arbragan

「Bertolt」

Jacques Goldstyn

Editions de la Pastèque, 2015

もしあなたが周りから変わり者扱いされている少年だったら、かつそれが苦痛でないのなら、木とお友達になってその木に Bertolt と名前を付けることができる素質があるといえるでしょう。その木は長寿のオークの木で、まるで巨大なひさしのような見事な枝の茂りは、身を隠すことができるだけでなく、家にも、迷路にも、砦にもなるのでした。春が訪れたある日、Bertolt は息絶えます。猫や鳥が死んでしまったときにはどうすれば良いかわかるものの、木が死んでしまったときは、一体どうすれば良いのでしょうか？ Bertolt は、友情を描いた特別な物語です。

Mingan, mon village: poèmes d'écoliers innus

「わたしのミンガン村」

Collective • Rogé, ill.

De la Bagnole (grouvelivre.com), 2012

「わたしのミンガン村」は、ケベック州の北部に住まう、先住民族インヌの小学生たち 15 名の顔と詩を集めた作品です。自身の話を聞いてくれると知った子どもたちは、自分たちの現実の困難や問題といったものではなく、自分たちを取り巻く美しい自然へと読者を誘います。絵を手掛けた Rogé は、子どもたちの写真を撮るのに時間をかけ、それから自身の卓越した絵筆を振るって、紙の上に彼らの表情を正確に描写してみせました。

Canada 9

カナダ

You Hold Me Up / ê-ohpiniyan

You Hold Me Up / Gimanaadenim

「あなたのおかげで」

Monique Gray Smith • Danielle Daniel, ill. Plains Cree edition: Mary Cardinal Collins Translator.

Monique Gray Smith • Danielle Daniel, ill. Anishinaabemowin edition: Angela Mesic and Margaret Noodin Translators.

Orca Book Publishers, 2018

Orca Book Publishers, 2021

これは、愛情というもののシンプルさや相手に敬意を払うことの大切さ、そして思いやりの気持ちを培う静かな物語です。若い読者たちは、お互いに愛情や理解を示したり、日々の中でどれだけ幸せであるかを実感したりすることに対して、この絵本を通じて勇気をもらえることでしょう。文学賞受賞歴がある Monique Gray Smith によるこの作品は、子どもたちやその教育者・保護者の間で癒しや調和について対話することを後押ししています。才覚に富んだ画家である Danielle Daniel による力強い絵が添えられたこの作品には、対訳版が 2 種類存在します。

Le Grand Antonio

「グレート・アントニオ」

Elise Gravel

Éditions de la Pastèque, 2014

一体何が彼をプロレスラー “グレート・アントニオ” にしたのでしょうか？彼の体重は馬並みで、かつては熊と決闘したこともあり、さらに一回の食事で鳥の丸焼きをなんと25羽分も平らげてしまうのです。この突拍子もない絵本で、国民から愛される作家兼画家でもある Elise Gravel は、心も身体も大きな超人であるアントニオ・バリチェビッチの物語を語っているのです。

团圆

「お正月の一家団らん」

Yu Liqiong • Zhu Chengliang, ill.

Hsin Yi Picture Book & Tomorrow Publishing House, 2008

幼い Maomao の父は遠く離れた場所で働いているため、家には一年のうち、旧正月にしか帰ってきません。最初こそ Maomao は父親のことをあまり思い出せませんでした、すぐに一緒に楽しくお団子を丸めたり、爆竹の音を聞いたり、道で竜舞を見たりしました。父が隠した幸運のコインを、Maomao は見事に見つけました！しかし、あっという間に父がまた出かける日が来てしまうのでした。この痛烈で力強い物語は、2009 年度の国内児童文学賞である豊子愷児童图画書獎に選出され、同じように家族が遠くにいる子たちの心に響くことでしょう。家族の愛は、時間や距離などものともしないほど強いのだと教えてくれます。

安的种子

「An（安）の種」

Wang Zaozao • Huang Li, ill.

Petrel Publishing House Co., Ltd, Second edition, 2015

和尚さまが、三人の小僧たちの Ben（本）、Jing（静）、An（安）それぞれに、1000 歳の蓮の種を渡しました。和尚さまは種を植えるように言いつけますが、育てる方法は教えませんでした。Ben（本）はあわてていて植える時期を考えなかったため、失敗してしまいます。Jing（静）は図書館で情報を集めるだけの知恵を働かせましたが、植物には日光が必要だという自然の摂理を無視したため、こちらも失敗してしまいます。その間 An（安）はといえば、まじめに勤めを果たしながら種を植える時期を待ちます。結果、彼の大切な蓮の花は、もっとも美しく花を咲かせたのでした。

鄂温克的驼鹿

「エヴェンキのヘラジカ」

GerelchimegBlackcrane • Jiu Er, ill.

Jieli Publishing House, 2018

内モンゴルの山奥で、GreeShek という名の老人が誤って母ヘラジカを射殺してしまいます。その母ヘラジカには子どもがおり、その子はみなしごになってしまいます。しかし驚いたことに、仔ヘラジカはそのまま老人の狩りの拠点にまでついて来てくつろぎ始めたばかりか、食料を食べ尽くし、そのまま寝床で寝てしまったのです。GreeShek はこの子をXiao Han（「小さなヘラジカ」の意）と名付け、それから一緒にトナカイの世話をしたり、食料を採りに出かけたり、村へと旅に出るという誘惑や危険と隣り合わせの冒険に繰り出します。しかし仔ヘラジカが徐々に大きくなるにつれ、GreeShek は、この子をこのまま人間の世界に置いておいてはいけない、と考えるのでした。

长坂坡

「長坂坡の戦い」

Xiong Liang

Tianjin People's Publishing House Co.,Ltd & Guomai Culture and Media Co.,Ltd. Beijing, 2018

深夜の京劇の劇場には人はいませんが、三国志演義の有名なシーンを再現する猫たちがいます。彼らは、声は大きくありませんし、プロの役者たちのような見事な身のこなしはできませんが、京劇への熱情や愛情は負けていません。猫たちは銅鑼や太鼓の音とともに、“生”（男性役）、“旦”（女性役）、“净”（隈取をした男性）、“丑”（道化役）の役にそれぞれ分かれて演じます。

一园青菜成了精

「野菜が小鬼 になった日」

Adapted from a North China rhyme • Zhou Xiang, ill.

Hsin Yi Picture Book & Tomorrow Publishing House, 2008

「野菜が小鬼になった日」は、力強く、想像力を掻き立てる子ども向けの詩集です。本来、野菜は菜園で静かに生きているものですが、この絵本では、野菜が生命力にあふれる躍動的なものとして登場しています。物語では野菜それぞれが芸術的に描かれ、作品をユーモアあふれるものにしています。

北京的春节 「北京の春節」

Lao She • Yu Dawu, ill.

21 Century Publishing House, 2014

この絵本を開くと、読者は春節の雰囲気や、ラバニンニク（ニンニクの酢漬け）を食べたり、かまどの神に祈りを捧げたり、寺院のお祭りを味わってみたりといった文化を体験することになります。この期間は、家族全員、特に子どもたちにとっては楽しく忙しい日々となります。人々の顔には笑顔があふれ、道は赤い提灯で埋め尽くされて春節の雰囲気を作りに上げています。

九色鹿

「九色の鹿」

Bao Dongni • Liu Jude, ill.

Beijing Normal University Press, 2014

敦煌の莫高窟 257 窟には仏陀が自分の前世について語った九色の鹿の物語を描いた壁画があります。「九色の鹿」は、その物語を絵本にしたものです。当時、仏陀は九色の鹿の王でした。その鹿は溺れた男性を助けた際、その男性に自分の居所を誰にも言わないでほしいと頼みました。ある晩、その国の王妃が九色の鹿の夢を見て、毛皮を自分の服にと求め、鹿を狩ってほしいと国王にねだります。男性は国王を狩りに連れて行きたい衝動を抑えられなくなり、それを知った九色の鹿は激怒しました。結果的には、国王は鹿を傷つけることはなく、一方で男性は全身にできものができ、王妃は嫉妬に狂って死んでしまったということです。

大闹天宫 「孫悟空、天界で大暴れ」

Ma De

Tsinghua University Press, 2014

この作品は、清華大学出版から発表されたシリーズの一冊です。西遊記の古典的な一幕で、孫悟空が天帝に差し向けられた兵たちを返り討ちにし、天宮をめちゃくちゃにしてしまうというお話です。こちらの有名な物語は、人間の自由への熱望と、封建時代の抑圧への反発心を表現しています。

萝卜回来了

「戻ってきたカブ」

Fang Yiqun • Yan Gefan, ill

Changjiang Children's Press (Group) Ltd, 2019

「戻ってきたカブ」は、中国の古典的な子ども向けのお話です。ある雪が降っている寒い日、ウサギが雪の中に二つのカブを見つけます。ウサギは、仲良しの友達のロバがこの雪深い寒い日にお腹を空かせているかもしれないと考え、一つをロバの家に置いておきました。ロバが帰って来てカブに気付くと、それを友達のヒツジの家に届けました。この寒空で、ヒツジがお腹を空かせているかもしれないと思ったからです。それからしばらくしてヒツジも同じことを考え、シカもそれになりました。最終的に、カブはウサギの家に帰ってきたのです。友情とは、素晴らしいものですね！

宝儿

「Bao'er」

Pu Songling • Cai Gao • Cai Gao, ill.

China South Booky Culture Media Co.,Ltd, Hunan Juvenile & Children's Publishing House, 2021

Bao'er は、元は「荒野の狐火」という名前で出版され、1993 年のブラチスラバ世界絵本原画展にて金のりんご賞を受賞した作品です。これは中国の古典である『聊斎志異』が元になっており、少年 Bao'er の知恵と勇気の物語です。話の中で、少年の目の色が場面によって青や黒に変化していますが、これは彼の揺れる心を描き出しています。水のように透んだ彼の目には全てが真実の姿で映りますが、大人の目には、その姿を見ることは困難です。これは、大人の目は経験と知識を通して物を見るため、子どものように単純に物を見るのが難しくなっているのです。こればかりは、慎重にベールを脱ぎ、少年のある種の透明性に学ばない限りは、どうにもならないでしょう。

Uhvati mi plavog medu

「青いテディベアを捕まえて」

Silvija Šesto • Vanda Čižmek, ill.

Ibis grafika, 2018

Svemir は 5 歳の少年で、誕生日に青く美しいテディベアをもらいました。お母さんは、なるべくきれいなままにしておきたいと、ラッピングペーパーをそのままにしておこうと考えますが、これに Svemir はがっかりします。しかし、ある日いとこが遊びに来て、ラッピングペーパーを破いてしまいます。これはテディベアを自分の家に連れ帰るためでしたが、それを両親も了承してしまうのです。これに Svemir はいたく傷つきましたが、長い年月の後、自分の息子と蚤の市を訪れた際、世界でもっとも美しいテディベアを見つけたのでした。Silvija Šesto は、クロアチアでも売れっ子の児童文学作家、ヤングアダルト作家のひとりです。

**Mrljek i Prljek mućkaju bljakavi napitak:
priča o pokvarenom zubu Mrljek and Prljek
「Mrljek と Prljek、ひどい飲み物をつくる
みにくい歯のお話」**

Jelena Pervan • Jelena Brezovec, ill.

Evenio, 2018

Mrljek と Prljek は、汚いもの、臭いものが大好きないじわるバイ菌です。ある日、ふたりは Prljek の祖母・Zmazanka おばあちゃんが昔作ってくれていたねばねばココアが飲みたいな、と思い立ちます。レシピも見つかり、自分たちがかつて愛したこのひどい飲み物を作ってみようとしします。これを作るには、この上なく汚くて臭い材料と穴が一つ必要なのですが、二人には当てがありました。それは、Lovro 少年の口の中です！彼は、歯磨きがとてつもなく嫌いだったのです。

「Mrljek と Prljek、ひどい飲み物をつくる」は、衛生観念を扱った絵本シリーズの一冊です。シリーズの他の物語としては、汚い手の話や髪を洗わない話、腐った歯の話やちらかった部屋の話があります。

Drveni neboder

「木の摩天楼」

Ivana Guljašević

Igubuka, 2015

摩天楼は、様々な人——あるいは動物たちの生活が交わる、興味深い場所です。この作品に出てくる木の摩天楼は、地下階から最上階に至るまで、モグラやハリネズミ、リスやツグミの家族、スズメやカササギ、それにカラスに出会い、それぞれの生活を見ることができます。彼らはそれぞれまったく異なる生き物ですが、ケンカもせずみんなで仲良く暮らしています。作者は、文学賞受賞歴がある作家、画家兼アニメーターで、この絵本は国内外の映画祭で上映されたアニメーションフィルムを原作としています。

Ogledalce

「鏡」

Grigor Vitez • Tomislav Torjanac ill. Illustrator Profile

Mozaik knjiga, 2016

森の中の空き地で、ウサギが鏡を見つけました。そこに映った自分の姿を見て、彼は鏡を自分の肖像画だと思い込みます。同じように、この鏡を己の肖像画だと考えるリス、カケス、クマとの間に口論が起き、これは自分の肖像画だ、とみんな譲りません。最終的に、この中で一番身体が大きなクマが自身の主張を通し、鏡を持ち去ります。家に帰ったクマは、早速仔グマたちに鏡を見せると、それを見た子どもたちは、これはお父さんが幼い頃の肖像画なのか、と考えるのでした。Grigor Vitez は、クロアチアにおける現代児童詩のパイオニアと言われています。また、この物語のために手がけられた絵は、画家として受賞経験がある Tomislav Torjanac によるものです。

Alma dimnjačarka

「エントツ掃除屋の Alma」

Sanja Lovrenčić • Ivana Guljašević ill.

Mala zvona, 2016

これは、幼くも腕は確かで、仕事を愛しているエントツ掃除屋 Alma の物語です。いつも体中がススまみれで彼女が通ると跡ができるほどですが日々エントツの中にあるもの、ないものを目にして過ごしています。本来、エントツの中には何もないはずなのですが、読者にはいろいろと不思議なものが見えることでしょう。中には、動物も見えたりします。あるエントツの中で彼女は、木や竜の絹のリボンを見つけたりしていました。Alma は、一見するとなんでもないような日々のことを、まるで奇跡のような大切なこととして扱います。しかし一方で、不可思議なものとは、彼女の場合、なんでもないような日々のこととして語るのです。

Ovca koja je željela puno novca

「お金がたくさんほしかったヒツジのお話」

Dijana Merey Sarajlija • Nika Sarajlija ill.

Authors publication, 2018

この絵本は、片面では「お金がたくさんほしかったヒツジのお話」ですが、もう片方の面では「自分のことしか考えなかったブタのお話」でもあります。オブロヴァツクの町に住むヒツジは富と名声を得ることが夢ですが、それが彼女の心と頭を曇らせています。ブタは強欲で冷酷ですが、ある日彼は上品で繊細な愛らしい花を見つけ、それが彼の世界の見方をたちまちに変えてしまうのです。独創的な絵や、ウィットに富み教訓的な文がこの絵本を特徴づけています。作者は、面白おかしくも穏やかに読者を詩に導き、私たちを取り巻く人間関係を、そしてただひとつの大切な愛というものを見直させ、物語に表現の独自性を感じさせる余地を与えてくれます。

Konradova prodavaonica ptica

「Konrad の小鳥屋さん」

Nena Lončar • Marijan Lončar ill.

Croatian Society of Writers for Children and Youth, 2018

作者はこの作品で Konrad という、鳥がとても大好きな少年の物語を取り上げています。少年は、鳥がケージに閉じ込められているのはきっと嫌だろうと考えます。おじが彼に、商品にするための鳥を捕まえてほしいと頼みますが、Konrad はかつてないアイデアを思いつくのでした。この絵本は、小学校入学前や小学校低学年の子どもたちを対象にしています。詩的な文章を通し、少年 Konrad の独創的な行動でもって、誰かの不幸の上に成り立つ幸福はあってはならない、ということを私たちに直接的に語りかけてくれています。鳥の歌声を楽しむのに、何も彼らの自由を奪ってまで飼いなす必要などない、ということですね。

Potruga

「探索」

Manuel Šumberac
Profil Knjiga, 2019

家からある一匹のせわしない犬が出てきて、探索を始めます。目当てのものが探し出せないでいると、近所の犬がやってきて彼の手助けをし始めました。またしばらくして3匹目、4匹目も姿を現し、探索に加わります。すると突然、庭が犬で埋め尽くされました。彼らはいったい何をなくし、何を見つけ出したのかを、読者はこの受賞歴のある画家兼アニメーターでもある Manuel Šumberac の絵本で知ることができるでしょう。この美しくシンプルな物語は、少ない言葉と心を打つような絵でもって友情の始まりを伝えています。本物の友情というものは、何か別のことをしているときか、別のものを探しているときに生まれるものなのです。

Trylleblik

「魔法の目」

Ane Bjørn
Gutkind, 2021

この世界には様々な魔法の道具があります。それこそ、予想外な場所に隠されていますが、探し方を知らなければ見ることもできません。「魔法の目」には、2つの物語があります。一方では、片目をつむってその上から2本の指で目を押さえると魔法の目が使え、と祖母から習った少女のお話です。これによって、魔法の道具を見つけることができます。もう一方では、街が破壊され一家が逃げ惑う様が描かれます。これは悲しくも心を動かす、簡潔な物語です。物語の全体像は、祖母が身に着けているショールの中に描かれた細かい描写を通して明らかになっていきます。この物語は普遍的なもので、特定の時代や戦争を表現しているわけではありません。

Jessy for evigt

「Jessy よ永遠に」

Mette Vedsø • Anna Jacobina Jacobsen, ill.
Jensen & Dalgaard, 2021

「Jessy よ永遠に」は、とある好奇心旺盛でたくさん質問をする少女の物語であると同時に、子どもと大人の心に有無を言わず栄養分を与えるような、哲学的な物語でもあります。とても遊び心溢れるお話と絵で、読者の想像力の遊び心も同様にくすぐられるものとなっています。また作品の中では、日々の出来事が、人生における大いなる疑問と混在しています。この絵本は、色々な側面から読み、理解することができます。Anna Jacobina Jacobsen の描く、見る者の感情に訴えかけるような大きな目の絵は、複雑で美しくも物悲しい雰囲気醸し出しています。対象年齢は6～10 歳です。

Denmark 3
デンマーク王国

Dengang Amalie fik sindssygt mange papforældre

「Amalie がたくさんのボーナスお父さん お母さんを迎えたお話」

Kim Fupz Aakeson • Signe Kjær ill.
Politikens Forlag, 2021

ここでは、大勢の父母を迎えた少女 Amalie の物語を、機知と皮肉でもって描いています。Amalie と両親は、この父母たちと一緒に暮らすことになり、結果様々な奇想天外な出来事が起きます。夕食の席では献立をめぐる激論が交わされ、また Amalie の就寝時間には、父母たちがそれぞれお話を読み聞かせするのが決まりとなり、全員分のお話を聞くのに、実に 3 時間も要しました。物語は皮肉的な距離を保って描かれていますが、これは、こんな大勢と関わって大変でないわけがない！と思わない読者はいないとの理由からです。幸い、Amalie の生活は最終的には落ち着きを取り戻します。それは、彼女の望んだ状態ではないかもしれませんが、それでも、ずっと良いものでした。

Donna finder hjem

「帰り道を見つけた Donna」

Merete Pryds Helle • Charlotte Pardi, ill.
Carlsen, 2021

「帰り道を見つけた Donna」は、自分の家族の居場所を見つける素敵なお話です。子犬の Donna は、きょうだいたちが皆売りに出されてしまうと、ひとり雪の中に繰り出します。ひたすら歩き続け、母やニンゲンたちを呼び続けますが、誰にも彼女の声は届きません。湖にたどり着くと、そこで足を止め、アイススケートに興じている子どもたちの姿を見つめます。子どもたちが Donna を家に連れて帰り、愛情たっぷりにお世話をし、獣医と元の飼い主に電話をすると、ついに Donna に新しい飼い主が見つかるのでした。自分が最終的に住む家は、生まれた家とは違うかもしれませんが、これがまさに Donna が「帰る家を見つける」ことなのでした。この作品の対象年齢は、5～8 歳です。

Fiskepigen 「魚の女の子」

Soren Jessen
Gyldendal, 2020

「魚の女の子」は、未知の時代の物語です。これは気候変動をめぐるディストピア作品で、まわりの水位が上昇しているある丘の上の廃屋に取り残された、姉と弟のお話です。両親は、ある日仕事に行くと言って出かけたきり、帰ってきません。この状況に弟は順応できず焦る気持ちにさいなまれると、物に頭を打ち付けるクセがあります。主人公である姉のほうは、この状況をなんとかしようと行動し、かつ弟を慰めることに精いっぱい心を砕いています。「魚の女の子」は、力強く困難でありながらも、心を動かされる物語です。読者は、時おり文と絵の間で生じる異なるストーリーの食い違いを関連付けて読まなくてはなりません。対象年齢は 8～12 歳です。

Mormor & Mormor

「おばあちゃんとおばあちゃん」

Rebecca Bach-Lauritsen • Charlotte Pardi, ill.

Høst & Søn, 2020

「おばあちゃんとおばあちゃん」は、祖父母と孫との愛情を、そして無条件で与えられる愛情のもとで生まれる絶対的な安心感を描く、簡潔な素晴らしい物語です。また、この作品は、よそとの違いをどう他人に説明するかという、子どもにも大人にも難しいであろう内容についても語っています。主人公の仲良しの友達は、二人のおばあちゃんたちの違いを知りたがり、きっとおばあちゃんとおじいちゃんとは、何かが違うのだらうと友達は考えます。一方の主人公は、その違いをどう説明しようか四苦八苦しますが、結局のところ違いなんてないのかも、という結論にたどり着くのでした。対象年齢は 5～8 歳です。

En fin sten

「すてきな石」

Anne Sofie Allermann • Anna Margrethe Kjærgaard, ill.
Jensen & Dalgaard, 2020

海辺での散歩中、Orla はペンギンのような形の小石を見つめます。そこに他の子どもたちもやってきて、Olivia はその石をアザラシ、Otto はサメのようだと考えました。子どもたちが海水浴をしていると、親が彼らを呼びます。父親が名前を呼ぶと、そこで初めて読者は、主人公の名前が Orla ではなく Olga であると知ります。ただ、主人公が男の子でも女の子でも、さして問題ではないのです。さながら石の形がペンギンやアザラシやサメでも、あまり問題ではないように。「すてきな石」は、ありのままの自分であること、居心地の良い自分であることについて、丁寧に語るお話です。作品の絵は、作風・色使いともに繊細で、最善の形で物語を完璧なものにしています。対象年齢 4～8 歳。

Her gik Victoria

「Victoria の足跡を追って」

Glen Ringtved • Charlotte Pardi, ill.

Gyldendal, 2020

「Victoria の足跡を追って」は、死を扱った穏やかな物語です。主人公は母と死別してしまいました。見開き 12 ページの中で、私たちは母の断片と、彼女が遺した足跡を知ることになり、作品では後者に焦点が当てられます。話が進む中、読者はおのずと主人公のこと、そして彼女がどのように母の死と向き合おうとしているのかを知ることになります。この作品では、感傷的になったり、暴力的になったり過度に不安定になったりもしません。子どもの声は適度に語られており、彼女が悲しみにさらされ、それを克服する力もまた示されています。とても美しい物語で、この普遍的かつ難しい問題を表現するうえで、幼い読者たちをもっとも優しく導いている作品です。

Ud af det blå 「ある日突然」

Rebecca Bach-Lauritsen • Anna Margrethe Kjærgaard, ill.
Jensen & Dalgaard, 2019

少年が古い家に一人で暮らしていました。すべての物に
所定の場所があり、日々することも時間が決まっています。
遊ぶ時間になると、サボテンとかくれんぼをする、静かで寂
しい暮らしです。毎日これが繰り返される中、ある日変化が
起きたら、と考えます。サボテンは倒れ、鉛筆が折れ、花壇
には足跡が。少年が図書館で「足跡」を辞書で引くと、クマ
の足跡は分かりやすい、クマは木の実を食べ洞窟に身を隠す、
とあります。隠れた相手を見つけるには、かくれんぼが一番
です。クマは、テーブルの下で見つけられました。この時から
家は賑やかになり、物は壊れ、変化のない日常は消えました。
「ある日突然」は、文章も絵も詩的で、美しい物語となってい
ます。

Da Mumbo Jumbo blev kæmpestor 「Mumbo Jumbo が巨人になったときのお話」

Jakob Martin Strid
Gyldendal, 2018

「Mumbo Jumbo が巨人になったときのお話」は小さい村が舞台の物語です。森での散歩のあと、Mumbo Jumbo が謎のキノコを口にすると、たちまち彼は巨人になります。村の友達のおかげで、静寂湖のほとりの暗黒森に住む魔女バーバヤーガならば、彼を助けられることをつきとめます。Mumbo Jumbo と仲間たちは、長く険しい冒険の末、魔女の住処にたどり着きます。しかしここで彼は「有名になりたいのか。特別扱いされ、畏怖されたくはないのか」と質問を投げかけられます。しかし Mumbo Jumbo はいずれも望まず、ただ元の自分に戻ることを望みました。Mumbo Jumbo は元の姿に戻ることができ、友達も彼を祝福します。物語は、友情と、他と違う姿になることとを行き来するものとなっています。

Dominican Republic 1

ドミニカ共和国

Un regalo de gracias: la leyenda de la Altagracia

「Gracias からの贈り物 Altagracia の伝説」

Julia Álvarez • Amaya Salazar, ill.

loqueleo Santillana, 2005

オリーブの苗が枯れてしまい、このままでは一家がこの植民地の農園を放棄することになるかもしれないと Maria は心配します。するとある晩、何百もの太陽をぶら下げた木々に覆われた、美しい女性が夢に現れました。太陽だと思っていたものは実はオレンジで、Maria の両親がかつて故郷スペインのバレンシアで食べたのと同じようなものでした。夢をみたその日に、Maria と一家がオレンジの種を植えると、種はたちまち見事なオレンジの果樹園となり、農園を救ったのでした。しかし、あの夢の女性は一体誰だったのでしょうか。そしていつか、また彼女に会える日は来るのでしょうか。この作品は、ドミニカ共和国でもっとも愛される作家のひとりによる絵本です。

Dominican Republic 5

ドミニカ共和国

De ronda por mi país: poesía para niños

**「故郷を旅してまわって 子どものための
詩集」**

Margarita Luciano López • Julio César Martínez, ill.

CICAP, 1997

この絵本は、幼い読者たちをドミニカ共和国中に連れて行ってくれます。道中、読者たちは各地域の特徴の多様性を理解したり、さらにまわりの環境を知ったりすることで、この国の起源に触れることを歓迎されているように感じるでしょう。また、物語の中で読者たちは、歴史的建造物やドミニカ共和国の一員であることを誇りに思う理由を発見することになります。この詩集は、生きる上で起こりがちな挑戦や成長の場面で絶望感にさいなまれた際、いわゆる安全地帯となってくれることでしょう。

De la A a la Z

「A から Z まで」

César Sánchez Beras • Kilia Llano, ill.

loqueleo Santillana, 2017

このアルファベットを扱った絵本は、リズムや喜び、そしておもむきのある素敵な旅に私たちを連れて行ってくれます。この作品では、言葉遊びを通じてまるで燃え盛る炎のような木が育ち、ハンモックが揺れ、オザマ川がうねり、アオサギが山の上で羽を休めています。この絵本は、子どもたちに何回でも作品を読ませるようにいざない、色鮮やかで美しい絵をゆっくり堪能してほしいと誘うのです。

Dominican Republic 7

ドミニカ共和国

SuperNiños

「スーパーキッズ」

Anya Damirón • Pablo Pino, ill.

Algar Editorial, 2019

これは私たちに備わった特殊能力を発見する作品で、皆が持つ長所を意識させるような物語です。この素晴らしい絵は、特別な手助けを必要とする人の“できないこと”ではなく、彼らのもつ可能性を表現しています。これは、受け入れること、物事に寛容であること、そしていじめないことを描いた面白いお話で、前向きさに焦点が当てられ、読者の子どもたちに多様性を尊重すること、そして自分が自分であることがいかに素晴らしいかを伝えています。そしてもちろん、他の皆だけでなく、自分の中の特長にも光を当てることが大事なのです。私たちは皆それぞれに弱みがあり、そして自分自身をユニークたらしめる強みがあるのですから。

La cocina de mi abuela

「おばあちゃんのキッチン」

Virginia Read Escobal • Edward Reyes, ill.

loqueleo Santillana, 2019

Carlitos は、少数民族ココロのおじいちゃん・おばあちゃんと夏休みを過ごすのを楽しみにしています。サン・ペドロ・デ・マコリスの街にあるバテイの村では、友達と野球をしたり、おじいちゃんとカニを獲ったりすることができますが、一番のお気に入りには Ñola おばあちゃんのキッチンに入ることです。ここでは、グラグラに沸いた鍋や謎の食材、食欲をそそる香りが漂っています。料理は女性のすることだとおじいちゃんはいいますが、Carlitos はいつか立派な料理人になるのが夢です……それとも、野球選手になるのでしょうか？ この素晴らしい絵本は、ドミニカ共和国でも最も特異的な地域の一つである東部への旅へと読者を導いてくれます。

Dominican Republic 10

ドミニカ共和国

Dominicanas fuera de serie: +150 mujeres que transformaron la República Dominicana

「ドミニカの素晴らしい女性たち ドミニカ共和国を変えた 150 人の女性のお話」

Geraldine de Santis • Kilia Llano, ill.

Geraldine de Santis - self-published, 2018

「ドミニカの素晴らしい女性たち」は、ドミニカ共和国の成り立ちに精力的に関与した女性たちの人生を紹介する絵本シリーズです。この作品を通して若い読者たちは、500 年間で活躍した 150 もの女性パイオニアたちの物語を知ることになります。主人公たちは、実に様々な分野で突出していた人物たちで、政治や芸術、経済や文化、科学、スポーツやその他の分野から輩出された人たちでした。取り上げられているのはタイノ族女性酋長 Anacaona から始まり、ドミニカ独立戦争の女性兵士 María Trinidad Sánchez、最初の国旗をデザインした Villa 姉妹から女性活動家として有名な Mirabal 姉妹に至るまで登場しており、読者の家族全員に夢を見ることをすすめ、それを達成するための熱意を抱かせることでしょう。

Egypt 1
エジプト・アラブ共和国

**Layali Shahr Zizi; Hekaya dakhel hekaya
داخل حكاية شهرزي زي ليالي
حكاية داخل حكاية**

「Shahr Zizi の夜 物語の中の物語の中の物語...」

Hadil Ghoneim • Sahar Abdallah ill.

Al-Balsam Publishing House, 2020

この物語は、Amroyar という少年が、腕と脚を骨折し、
みじめで怒りっぽくなったことから始まります。Amroyar
はギプスを着けたまま動けず、落ち込んで不機嫌になり、
Dina Zuzu のような友達が彼から離れていきます。Dina
Zuzu が姉の Shahr Zizi に愚痴ると、Shahr Zizi は彼の様
子を見に行きます。Amroyar はまるで囚われの哀れな魔人
のように見えました。Shahr Zizi は、「（アラビアンナイト
の）漁師と囚われの魔人」というお話で、すぐに彼を物語の
とりこにします。10 日間、Shahr Zizi は彼に物語を語りま
すが、物語の中から常に別の物語が始まるのです。物語の魔
法は消えることはなく、物語る力に終わりはありません！こ
の本は、2020 年にイッティサーラート児童文学賞を受賞し
ました。

Egypt 2
エジプト・アラブ共和国

Demeshk Qeset Madinah هين قصة دمشق 「ダマスкас 街の物語」

Alaa Mortada

Al-Balsam Publishing House, 2019

Kitkitkan という少年が、おばさんにシリアの伝統衣装 Qinbaz を作って欲しいとねだります。でもおばさんは、ダマスкасという街について彼がどれほど知っているか、尋ねます。Kitkitkan は、答えを求めてダマスкасについて調べはじめます。誰が造ったか、水はどこから引いているか、空や天気はどんな様子か。これは、作者が愛する街の起源と進化を描いた情熱的な物語です。シリアの家の独特の建築様式も紹介しています。この物語は、子ども達に文化遺産を遺すという使命を持つ作者の、美しい絵と語りで描かれています。この本は、2019 年にイッティサーラート児童文学賞を受賞しました。

Fakkar bi Ghayrak **بغري كفكر** 「他者を気にかけてよう」

Mahmoud Darwish • Sahar Abdallah ill.
Tanmia Publishing and Distribution, 2018

高い評価を受けるパレスチナの国民的詩人、故マフムード・ダルウィーシュの希望の詩に、自らのイラストで命を吹き込むことにより、Sahar Abdallah は、すべての年齢の子どもに向けたこの絵本で、人類に対する希望を描いています。この詩は、私たちはひとりではない、だからこそ、人生という船旅で、日々の戦いや困難に立ち向かうとき、この世界には気にかけるべき他者がいるということを思い出させてくれます。この絵本はトロントで開催された詩と絵の展覧会で展示されました。また、2018年にイッティサーラート児童文学賞を受賞しています。

Oreedo an Akkoona Solhifah **أريد أن أكون سلحفاة**

سلحفاة

「私はカメになりたいの」

Amal Farah • Usama AbullEla ill.

Shagara Publishing House, 2016

みんな私に聞くの「どうしてカメになりたいの？」って。私は笑って答えるわ、「私はただ、カメになりたいの」「どこへ行くときも自分の家を運んでいきたいの」って。Amal Farahの世界では、絵本は私たち一人ひとりの内なる子どもに語りかけます。彼女の絵本は、夢や展望、交わされなかった会話を思い出させてくれます。これは、カメのユニークな点について、人生における大きな疑問について、そして何よりも、幼い心とわかちあい楽しめる言葉で大きな考えを包み込むことについて書かれた物語です。この本は、2016年にイッティサーラート児童文学賞を受賞しました。

Egypt 5
エジプト・アラブ共和国

Al Khiroog Min al Fokaa الفقااعة من الاءروء 「せまい世界を飛び出そう」

Dr. Ibrahim Wassim Shalaby • Dr. Hanadi Sleit
Al-Balsam Publishing House, 2015

自分探しの辛い旅を経て、Samer は難しい疑問を抱きます。癌との戦いの果てに、彼は悲しむのだろうか、それとも怒るだろうか？驚いたことに、生まれ変わった彼は、優しく親切な人間になっていました。彼はより聡明で、自己中心的ではない人間に成長し、長い間、せまい世界の中で生きてきたことに気づいたのです！闘病という旅を通して、彼は時間、お金、エネルギーを与えたり、献血したりすることについて学ぶようになります。癌と闘う子どもたちの苦悩について Ibrahim Shalaby 博士が豊富な見識と経験から書いた、ヤングアダルト必読の魅力的な本です。この本は、2015 年に イッティサーラート児童文学賞 YA 部門を受賞しました。

Egypt 7
エジプト・アラブ共和国

Seraakh Khalf Al Abwaab **للأبواب خلف رصاخ**
「ドアの向こうのさけび声」

Rania Hussein Amin • Magdy Al-Shafee, ill.
Nahdet Misr Publishing Group, 2016

怒鳴り合いやけんかが絶えない 2 階建ての集合住宅で、
ドアマンの娘である Rummana と、住人の Loza は固い友情で結ばれています。ふたりは不可能なミッションに挑み、
次から次へと冒険を始めます。まだ子どもだけれど、ふたり
はこのアパートに平和と調和をもたらし、住人たちに扉と心
を開いてもらおうと決意します。著者 Rania Amin が、変化
をもたらそうとする登場人物を巧みに描き出すことで、物語
は読者を、閉ざされた扉の向こう側の、大人たちの決定的瞬間と人生へといざなうのです。この本は、2016 年にイッティサーラート児童文学賞 YA 部門を受賞しました。

أجوان Agwan
「Agwan」

Noura Noman

Nahdet Misr Publishing Group, 2013

これは、ふるさとの星を破壊され、同じ種族の人々が全滅し、家族も友人も助けも失って、たったひとり取り残された、Agwan について描いた SF 小説です。Agwan が最悪な状況に陥ったとき、彼女の中に隠されていた力が解き放たれます。彼女は、自分を取り残されてしまった残酷で暴力的な世界で生き残り、運命を変えるための戦いを通して、読者を様々な惑星や種族の元へと導くのです。アラビア語の児童文学では珍しい、このパワフルなヤングアダルト SF 小説は、2013 年にイッティサーラート児童文学賞 YA 部門を受賞しました。

Oud-al Sanabil السنبال عود

「麦の穂」

Affaf Tobala • Hanadi Sleit ill.

Nahdet Misr Publishing Group, 2013

王様は娘達の結婚に干渉しないと決めました。すると、ある賢い男が、宮殿のバルコニーの下に求婚者を集めてはどうか、と提案しました。お姫様たちがたらししたショールをつかんだ幸運な男が、姫と結婚して幸せになれるのです。バルコニーの下には群衆が殺到し、お姫様たちはショールをたらししました。しかし、一番若いお姫様は同じようにしませんでした。父王に従うことを拒んだお姫様と、犬の姿をした麦の穂の物語が始まります！著者の Affaf Tobala は 2021 年にイッティサーラート YA 部門を受賞し、高い評価を受けています。Oud-al Sanabil は、数々の賞を受賞し、2013 年にイッティサーラート児童文学賞を受賞しました。

Teery ya Tayara طيارة يا طوي

「飛べ、凧よ…飛べ！」

Amany El- Ashmawy • Hanadi Sleit

Nahdet Misr Publishing Group, 2011

Zahraa は両親を亡くした小さな女の子で、父親のいとこ
と暮らし始めます。新しい家族の一員になり、おばさんは彼
女が大変な時期を乗り越え、新しい生活に踏み出すための手
助けをしてくれます。でも、小さな Zahraa はいつも悲しく
孤独を抱えているのです。彼女が色とりどりの凧の作り方を
学び、それを飛ばせるようになったとき、癒しが始まります。
この本は、2011 年にイッティサーラート児童文学賞を受賞
しました。

El Salvador 1
エルサルバドル共和国

Casitas y Cusucos

「小さい家とアルマジロ フェルナンド・ ジョルトの伝記」

Alejandra Labbé de Ábrego • María José Llort, III.

Libreria Uca, 2019

この本は、フェルナンド・ジョルトの人生と作品を、魅力的な方法で語っています。ジョルトは、芸術を通して国の文化を守ろうとした、エル・サルバドルのアーティストです。

El Salvador 2
エルサルバドル共和国

Corazón de Papel 「紙のハート」

Silvia Pira • Doris Meléndez, ill.
DPI Ministerio de Cultura, 2020

この物語は、本屋さんにいた頃からの全人生を語る、小さなお話の本が主人公です。この本は Tomás が 6 歳になるときに、彼のおばあちゃんに買い求められました。ここ何年もの間に起きた冒険や不運な出来事が伝えられます。

La Calabiuza

「ラ・カラビウサ」

Uriel Anaya • Marta Gavidia, Melissa Ruiz, ills.
Innovación Digital, 2020

例年同様、Juan は自分の街で開催されるラ・カラビウサの祭に参加するのを楽しみにしています。しかしその夜は、彼が想像もしなかった、笑いと恐怖に満ちた大冒険が、彼を驚かせるのです。

El Salvador 4
エルサルバドル共和国

Timi en la oscuridad

「暗闇の Timi」

Guadalupe de Zaghini • Francisco Rivas, ill.

Editorial Casa Azul, 2021

Timi は惑星 Tuki の住人です。彼は暗闇をととても恐れていて、いろいろな想像をしてしまいます。素晴らしい物語の中で、Timi は恐怖を克服することができるようになります。

Teto y su disfraz pintoresco

「Teto と絵のように美しい衣装」

Carolina Cuenca • Eduardo González, Eduardo Rodríguez, ills.
Aeiou Leamos juntos, 2017

Teto は Suchitoto の町に住むおじいちゃんを訪ねて、何かがおかしいと気づきます。みんなが笑ったり幸せになったりする休暇なのに、みんな悲しそうなのです。おじいちゃん
は、Teto が町の伝統を救い、みんなの喜びを取り戻すのを
助けます。

El Salvador 6
エルサルバドル共和国

El Cerdito con alas 「羽の生えたコブタ」

Amada de Rivera • Francisco Rivas, ill.

Libreria Uca Sin Editorial, 2020

農場で生まれたコブタは、背中に羽が生えているという単純な理由で、母ブタやきょうだいたちから除け者にされてしまいます。しかし、ある仔牛が、なんとかコブタを囲いの中に入れると、母牛はコブタを受け入れ、お乳を与えました。

Perdí a mi mama

「おかあさんとはぐれて」

Cristina Alvarenga • Sarah Ramírez, ill.

Self-Published, 2021

市場は物を売ったり買ったりする人でごったがえしています。活気があって騒々しいです。Leti はお母さんと一緒にそこにいました。突然、何かが起こって、お母さんを見失ってしまいました。彼女は迷子になって、どうしたらよいかわかりません。

Nacido para volar

「飛ぶために生まれた」

Isabel Barrientos • Moisés Hernández, ill.

Self-published, 2021

Dárdano 機長と一緒に、彼の人生における 2 つの危険な瞬間の物語の中に飛び立ちましょう。それは、刺激的な状況、困難な決断、予想できない結果に満ちた旅であり、困難を乗り越えるためには技術と大胆さが不可欠なのです。

El Salvador 9
エルサルバドル共和国

El Tubófono

「チューブ・フォン」

Rafael Felipe López Urbina • Fausto Pérez Mármol, ill.

Self-published, 2007

小さな町のふたりの住人は、とても独創的です。何度も失敗を重ねた後、町全体の利益のために実践するプロジェクトを、ついに成功に導きます。

Muna

「たまご」

Julius Oro • Lilian Härm, ill.

Post Factum, 2017

小さな Aino は卵をもっています。彼女はゆで卵が大好きで、仲良しの猫や犬にもわけてあげようと思います。ところがキッチンのお母さんのところへ行ったとき、Aino は卵の半分をベンチの上に置いて行ってしまいました。戻ってきたときに卵は残っているのでしょうか？この本の元の版は1975年に Eesti Raamat から出版されました。

Sinivant

「Sinivant」

Aino Pervik • Catherine Zarip, ill.

Tammeraamat, 2020

青い象の Sinivant は、パパとママの大切な坊やです。ママが患者さんの歯を治療し、パパがオーケストラでバイオリンを演奏している間、Sinivant は幼稚園に行かなければなりません。はじめは、幼稚園なんてちっとも好きではありませんでしたが、サイの女の子 Aretta、ラクダの男の子 Kurt、ウサギの女の子 Betty と出会って、幼稚園がとても楽しいところだと気付きました。一緒に遊んで、お絵かきをして、食べて、お昼寝していると、あっという間に時間が過ぎていきます。とくに、公園に行ったり、お外で走り回ったり、お友達の誕生日会の時はなおさらです。でも夜になると、Sinivant はパパとママと過ごします。

Jussikese seitse sõpra 「Jussike の7人のともだち」

Silvi Väljal
Avita, 2003

Jussike は日曜日が大好きです。日曜日を心待ちにしながら、彼は面白い平日にも出会います。平日にも、みんなが学ぶべきことがあるのです。この本の元の版は 1964 年に Eesti Raamat から出版されました。

Hundi sõbrad

「オオカミのともだち」

Ilmar Tomusk • Catherine Zarip, ill.
Tammeraamat, 2018

森はクリスマスの季節です。木々や藪や地面は分厚い雪に覆われています。森の動物たちはプレゼントをもらいました。サンタさんはオオカミに新しいスケート靴をくれました。鏡のようにすべすべの氷の上を滑っていくのは何と楽しいことでしょう！しかし突然、このかわいそうな動物は滑って、不運なことに転んで足首をひねってしまいました。オオカミは友達に助けを求めましたが、クマもキツネも手助けする時間がありません。すると、野ウサギが湖のほとりにやってきて、痛みで吠えるオオカミを見つけます。

Virmalised 「オーロラ」

Gerda Märtens
Koolibri, 2020

シロクマの Jon は大忙しです。朝は、素晴らしい北極の日の出を撮影します。午後は、町の広場を観光して回っている外国から来たクマの観光客たちから、ビッグ・ヴァイキングの銅像の前で写真を撮ってくれと頼まれます。Jon も、ここが世界で一番良いところだと思っています。しかし、ある晩、シロクマたちがコミュニティセンターでダンスを楽しんでいた時に、外で雨が降りだしました。雨は朝までにやまないどころか、次の日まで続きました。Jon はどうするのでしょうか？

Väike armastuse lugu

「ちいさなラブストーリー」

Tia Navi • Kadi Kurema, ill.

Päike ja Pilv, 2018

Triinu-Liis はミトンをふたつ持っていて、それぞれの手に1つずつはめています。ある日、左のミトンがポケットに入っていると、ポトンという音が聞こえました。好奇心にかかれて、左のミトンが外を覗いてみると、右のミトンが落ちていたのです！左のミトンは、ひとりぼっちのミトンが最終的にどうなるか、よく知っています。彼らはたいてい、知らないうちに、ゴミ捨て場でカラスやカモメにつつかれることになるのです。左のミトンは、どうやって自分の最愛のパートナー、つまりそれなしでは二度と完全だと思えない仲間がいなくなったと、小さな女の子に伝えればいいのでしょうか？

Jänes Juliuse arvuti

「ウサギの Julius のコンピューター」

Leelo Tungal • Regina Lukk-Toompere, ill.

Tammerraamat, 2019

ある日、ウサギの Julius は、ずっと欲しかったコンピューターをもらいました！妹のソリも、兄のスキーも、Julius には平凡すぎる気がします。Julius のお父さんは、アイコンをクリックする方法や、ゲームのやり方を教えてくれました。なんて楽しいのでしょうか！ゲームでは、オオカミから逃げたり、キャベツを積み上げたり、ニンジンを投げたりします。でも、彼のお気に入りにはトラ狩りゲームです。それはとてもハラハラするゲームなので、彼は兄や妹と遊ぶことはおろか、眠ったりご飯を食べたりする時間ありません。トラをすべて捕まえた時、Julius は自分が全く違う世界にいることに気づきます。

Kimalane Karla ootab vihma

「雨を待つマルハナバチの Karla」

Tia Navi • Regina Lukk-Toompere, ill.

Päike ja Pilv, 2019

Karla という名の小さなマルハナバチは、板のように平らに刈り取られ、お花のひとつも咲いていない芝生の上をブンブン飛んでいます。ふと甘い香りをかぎ取ると、その香りをたどって、2 階の素敵なバルコニーへとやってきます。そこには、たくさんのお花が咲いていました！ベニバナインゲン、キンレンカ、クマツヅラ、キンギョソウ、それぞれみんな、成長する魔法の力を持っています。お水をあげる必要がありますが、このバルコニーの持ち主である Oskar は、とてもきちんとお花に水をあげています。ところがある日、この一家が休暇で田舎へ行ってしまう、鉢植えの植物は干上がってしまいます。

Juurtega aed

「根がはえた庭」

Piret Raud

Tänapäev, 2020

昔、大きな森の中に、小さな木が生えていました。しかし、ある日チェーンソーがやってきて、小さな木は強制的にどかされてしまいました。大変な旅の果てに、小さな木は、長く滑らかな小道と、とても珍しい花や木がきちんと並んでいる素晴らしい庭園にたどり着きます。そこではみんな、深い根をはっていました。「それが一番大事なことだ」とみんなは小さな木に言います。彼らはその素晴らしい庭に小さな木が留まることを許す代わりに、根無し草でいることを完全にやめるよう言います。すぐに一羽の鳥が庭に舞い降りました。一番大切なのは根ではなく、全く別のものだと、鳥は信じているのです。

Emme draakon

「ママのドラゴン」

Piret Jaaks • Marju Tammik, ill.

Päike ja Pilv, 2019

ママの中にはドラゴンが住んでいて、時々火を噴きます。例えば、私が床にジャムを落としたり、マグに入ったココアをベッドにこぼしたり、ママの舞踏会用のドレスに穴をあけたりしたときに。ドラゴンは私がそういうヘマをやらかすことが嫌いで、出てきて吠えるのです。それはたぶん私のせいだと思います。ママは、私がドラゴンを呼び出せることを知りません。なぜなら、そうするための魔法の言葉を知っているのはママだけだからです。ママは、ドラゴンがとても嫌になっているので、魔法の言葉を忘れてしまいたいと思っています。それでも、自分だけのドラゴンを持つのは素晴らしいことだと思います。

Koirien Kalevala

「犬たちの歴史物語」

Mauri Kunnas

Otava, 1992

これはフィンランドの民族叙事詩で、スリル満点の冒険であり、犬、オオカミ、猫の視点で語られた英雄物語です。昔むかし、世界がまだ若かったころ、はるかかなたのカレワラの地に、毛むくじゃらの野生の犬の一族が住んでいました。暗い北部に住む隣人は、意地悪で邪悪なオオカミの群れでした。犬とオオカミの間の地に暮らしているのは、小さいけれど強い猫の部族です。犬とオオカミは森の主導権をめぐって争っており、しばしば激しい言い争いを引き起こしていました。

Mumindalens Alfabet

「ムーミン谷のアルファベット」

Annika Sandelin • Tove Jansson ill.

Förlaget, 2021

「ムーミン谷のアルファベット」は、アルファベット入門書であり、不思議なムーミン谷の紹介にもなっています。この色鮮やかな ABC 本で、読者は作者の愛するムーミンだけでなく、未知の生き物クニットや、原作の魅力的な登場人物にも出会えます。すべてのムーミン愛好家に発見の喜びをくれる美しい本です。イラストは、原作のムーミン一家の物語からとったものです。児童文学作家で詩人の Annika Sandelin が、詩を書き、私たちを言語の旅へと連れて行ってくれます。読者は、あちこち旅をしながら、アルファベットがどのように使われるのか知ることができます。この現代の古典は、一緒に声に出して読むのに最適です。

Sinä olet superrakas

「あなたはとても愛されている」

Ninka Reittu

Otava, 2017

これは、世界的に知られる絵本作家による、愛とスーパーヒーローについての風変わりな物語です。父と息子は、愛とは何か、どんな風に感じるものなのか、どんな風に機能するのか、という答えを見つけるために、素晴らしい冒険を共有します。愛とは何があっても続くものなののでしょうか？わかりやすい、コミックのスタイルで描かれた、愛のスーパーパワーについてのこの優しい物語は、どこにでもいる父と息子、そして人生のスーパーヒーローたちに向けて作られています。

Hur gick det sen?

『それからどうなるの?』

Tove Jansson

Förlaget, 2017

これは、ムーミン、ミムラねえさん、ちびのミイを描いた、トーベ・ヤンソンの最初のムーミン絵本です。ムーミントロールがムーミンママに頼まれたミルクを家に持ち帰る途中、ちびのミイを探しているミムラねえさんに会います。ふたりは一緒にミイを探しますが、ムーミン谷の様々なキャラクターたちに出会います。この革新的な絵本では、ページごとに一部が切り抜かれていることで、物語の展開が変わります。スウェーデン語版は 1952 年、英語版は 1953 年に初版が出版されました。

Vesta-Linnéa och monstermamman 「Vesta-Linnéa とモンスターママ」

Tove Appelgren • Salla Savolainen ill.
Förlaget, 2016

いつもと変わらない一日になったかもしれません。でも、今朝の始まりは最悪でした。まず Vesta-Linnéa は新しいタイツを履きたくありませんでした。それから彼女とママは、ほぼどこの家庭でも議論されるようなことで、言い合いになりました。そしてとうとう、Vesta-Linnéa のママは怒り狂ったモンスターママになってしまいました！親も子も機嫌が悪くなり、些細なことでお互いに口論を始めるという、小さな子どものいるたいていの家庭ではおなじみの家族の情景です。この本は、たくさんの温かく、ユーモアあふれるイラストで、このような状況に対処する方法を描いています。

Tatun ja Patun päivitetty Suomi 「これがフィンランド」

Aino Havukainen, Sami Toivonen ill.
Otava, 2017

フィンランドについて描いた史上もっとも面白い本です！Oddsville からやってきた Tatu と Patu の兄弟は、興奮と好奇心をもってフィンランドを旅します。ふたりはフィンランドの伝統、民話、壮大な過去と現在について調べます。伝統的なフィンランド料理を堪能したり、サンタ・クロースに会ったりもします。そのすべてを、フィンランドやフィンランド人について学びたいすべての読者に向けて、詳細にレポートしています。

Molli

「Molli」

Katri Kirkkopelto

Lasten Keskus, 2013

Molli は大きな庭の真ん中に一人で暮らしている、小さくて気難しい生き物です。でも、彼女には夢があります。こっそり秘密を打ち明けたり、静かに並んで座ったり、何でも一緒に考えたりする友達が欲しいのです。そして何よりも、ありのままでいられるような友達が！

Mur, eli Karhu

『くまのムルはじめてゆきを見る』

Kaisa Happonen • Anne Vasko ill.

Tammi, 2016

今は冬。森ではすべてのくまが冬眠します。でもムルは眠れません。彼は頑張って寝ようとしますが、飽きてしまい、とうとうみんなを残して家から抜け出すことにします。そして、雪に覆われた世界を探検するのです。けれども彼は考えます。見た目はくまだけど、冬眠できない自分はそもそもくまなののでしょうか？これは、不眠症と個性と自分らしさを見つける、美しい物語です。

Siiri ja sotkuinen Kerttu 「Siiri と汚い Kerttu」

Tiina Nopola • Mervi Lindman ill.
Tammi, 2004

Siiri は、親友の小さい Otto の誕生日パーティーに出かけます。パーティーで、彼女は今まで会った中で一番汚い女の子に出会います。小さい Otto のいとこの Kerttu です。Kerttu は他の子どもたちとは違います。洋服はとっても汚れているし、ミートボールはみんな食べてしまうし、Siiri に向かってミートボールを投げたりもします！Kerttu は Siiri の友達があこがれるほどクールな子です。そして、Siiri はひとりぼっちになってしまいます。最後に、Siiri は Kerttu と男の子たちとも仲良くなる方法を見つけます。これは、Mervi Lindman の素晴らしい絵とともに語られる、友情と誠実さの物語です。

Cap!

「勇気！」

Loren Capelli

Éditions Courtes et Longues, 2019

勇気！これは、自分自身への挑戦です。少女が、両手を額に当てて森に向かいます。私たちは彼女が迷い込んだ広大な景色の中で、彼女の赤いセーターを追いかけます。絵も自分で描いている作者は、異なる視点をかけ合わせています。私たちは、時には手探りする少女の手のアップを、時には木々の広大なパノラマをワイドショットで、またある時には彼女が見ているものに近づいて一緒に見ることができます。赤いセーターがほどけていく幻想的な情景は、少女が風景の中に溶け込んでいく様子を想起させます。

Une histoire qui...

「そだっていく物語」

Gilles Bachelet

Seuil Jeunesse, 2016

作者は、寝る前の読み聞かせの様子を、登場人物を変えて12回繰り返して描いています。左ページの状況を反映した物語を、命を持った本が、右ページで表現しています。竹の部屋に住むパンダ家族には、成長していく物語を、セイウチの家族には、氷が溶ける物語を。幼児向けのこのとても優しい本には、Gilles Bachelet の特徴であるユーモアと緻密さがみられます。

Pomelo découvre

「ポメロがみつけた」

Ramona Bădescu • Benjamin Chaud

Albin Michel Jeunesse, 2018

ポメロはピンク色で、丸い目とひととき長い鼻を持つ、2002 年からよく知られたキャラクターです。ポメロの絵本は、シュールな世界での散歩や旅を通して、身体感覚や感情とどのようにむきあうかということを、とても詩的な方法で描いています。楽しさ、退屈さ、速さ、遅さ、恐怖、愛、共有など、ポメロが発見する繊細な事柄を際立たせるために、絵と文は常に一体となって効果を発揮します。

Le Ruban

『リボン』

Adrien Parlange

Albin Michel Jeunesse, 2016

2016 年に上海で陳伯吹国際児童文学賞を受賞した『リボン』は、本の形状に特徴があります。各ページは、本に取り付けられた黄色いリボンと連動しています。絵とリボンが互いに補い合うことで、意味が生まれます。このしかけで、リボンは、ヘビの舌、ティーポットから注がれるお茶、脱走を暗示する切り落とされた独房の柵、などに変身します。シンプルなしかけですが、とても効果的で、美しく躍動的です。

Les bottes 「ブーツ」

Antonin Louchard

Seuil Jeunesse, 2018

かわいそうな子ウサギの災難は、いつも私たちを笑わせてくれます！休み時間ですが、雨が降ってきました。この本の主人公は、長靴をはかなければなりません。でも、物事は見かけほど簡単ではないのです。彼の先生も、次第にいらいらし始めます。子どもの日常生活における厄介な状況が、教師と登場人物の間の、反抗的でばかばかしいやり取りに変わります。先生が登場しないので、物語はウサギの表情に焦点が当てられています。優しさに満ちた絵で、愉快的失望を表現する方法を知っている名手による、素晴らしい絵本です。

C'est Mon arbre 「これはわたしの木」

Olivier Tallec

L'Ecoles des Loisirs, 2020

独占欲の強いリスは、自分の所有物を「私の木」「私の松ぼっくり」と呼びますが、ふと疑問に思います。「もし私の木が私のものでなかったらどうなるのだろう？」と。木を守るために壁を建てることを考えつつ、主人公は、「その後ろには何があるのだろう？」と思います。この本は、私たちが持つ財産への執着、嫉妬、好奇心の、おかしなばかばかしさを描いています。文章はリスの考えを端的に表現しており、絵は動きや表情豊かな目の表現など、漫画から着想を得ているようです。文のない最後の見開きページでは、とても柔軟な方法で読者に解釈をゆだねています。

France 7
フランス共和国

Un Grand Jour de Rien

『なんにもおきないまほうのいちにち』

Beatrice Allemagna

Albin Michel Jeunesse, 2016

雨の日、森の近くの田舎の家で、語り手は一緒にいない父親のことを思いながら、ゲームでどんどん火星人を殺していきます。書きものをしているママは、息子がゲームに時間を費やしているのを見るのが我慢できません。しかし、外へ散歩に出かけると、つまらない一日が魔法のような一日に変わる出来事が起こります。詩的なイラストは、ゲームから逃げだす火星人や、森の影、登場人物の悲しみなど、さまざまな種類の現実を、シンプルかつ表現力豊かなディテールで描いています。

Björn

「Björn」

Delphine Perret

Éditions Les fourmis rouges, 2016

Björn はほがらかで思いやりのあるクマです。彼はイタチ、アナグマ、リス、キツネ、フクロウ、ウサギ、鳥と一緒に森に住んでいます。この 6 つの愉快的詩の物語では、彼にあらゆる出来事が起こります...そして時には何も起こりません！でも、Björn にとっては、「何もない」日も良い日なのです。Delphine Perret は、この愉快的小さい仲間たちを通して、違いと尊敬、友情と自由と発見について語ります。この繊細で優しい小さな本は、表現力豊かで様式化された線描画で描かれています。

Buffalo Belle

「Buffalo Belle」

Olivier Douzou
Rouergue, 2016

「彼 (il) が彼女 (elle) になり、彼女が彼になるとき」。

Buffalo Bill は Buffalo Belle になりました。とても表情豊かな鉛筆画と、「彼」と「彼女」という音節を混ぜ合わせて、Buffalo Bell というタイトルと同様にジェンダーを混乱させる、詩的な文章を通して、私たちは、少女から中性的なティーンエイジャーになるまでの Annabel の道程をたどります。ジェンダーとは、解剖学的な事実ではなく、個人を構築することなのだ、ということを提案するために、新しい言語を生み出している、とても興味深い絵本です。

Tiens-toi droite

「まっすぐ立って」

Rémi Courgeon

Milan, 2018

ジューグー（ベナン）の Adjoa は、美しく誇り高い女性で、生涯ずっと頭に重い荷をのせてきました、彼女は「空に向かってできるだけ高く」まっすぐに立ちます。この重みと不自由は、象徴的であると同時に現実的でもあります。Adjoa は、非常に強い勇気と人間性を示し、運命を全うするために、自分自身をそれらの不自由から解放できるでしょう。

「まっすぐ立って」は美しいフェミニスト宣言であり、緑と黄土色の刺激的なイラストで描かれた、オリジナルのラブストーリーです。

Mag ich! Gar nicht! Ein Reim- und Magenbilderbuch

「これすきじゃない！ぜんぜん！ 詩とお なかの絵本」

Werner Holzwarth • Theresa Strozyk, ill.
Klett Kinderbuch, 2015

好みは人によって違います。ある人は好きでも、他の人には吐き気を催す料理かもしれません。子どもたちが、自分の好きな料理を友達と分け合おうとしている様子が、愉快的絵で描かれています。子どもたちは順番に、その料理にぎょっとして、食べようとせず、テーブルの下にいる大喜びの犬に与えます。各ページの愉快的詩は、次のように終わります。

「テーブル (Tisch) の下の Waldi は、魚 (Fisch) 以外はなんでも食べます」最後に鰻が Waldi の鼻先に落ちてくるまで、犬のお腹が、目に見えて変化していきます。言葉の使い方と視覚的なユーモアは、人それぞれの味の好みについて語るだけでなく、詩を生み出すのです。

Germany 2
ドイツ連邦共和国

Anton und seine Freunde. Drei Geschichten in einem Band

「Anton とともだち 1冊になった3つの 物語」

Ole Könnecke

Hanser Verlag, 2012

「Anton と女の子たち」の Anton は、砂遊びに夢中で、自分のすごさを見せびらかします。バケツやおもちゃの車を持っているし、目をつぶって滑り台を滑ることもできます。しかし、女の子は Anton が泣き出すまで彼に興味を示しません。「Anton は魔法（手品）ができる」では、大きな帽子で物を消してみせます。魔法のようです！絵による語り、制限された美しい線、抑えた色味のアクセント、簡潔な文章によって、Könnecke は日々のひとこまを、面白く切れの良い短い物語に仕上げています。読み手は、登場人物よりも多くのものを見ることで、一歩先にいるのです。それは、すばらしい喜びです。

Die Geschichte vom Löwen, der nicht schreiben konnte

『じがかけなかったライオンのおうさま』

Martin Baltscheit
Beltz & Gelberg, 2012

百獣の王は、読書が好きなライオンの女の子に恋をしました。力が強い王ライオンは、周囲を震え上がらせることはできますが、文字が読めません。そこで彼は、猿、キリン、カバ、ハゲワシ、ダンゴムシに、彼の名前で、憧れの女の子に手紙を書かせます。手紙は書き手の個人的な性格を伝えてしまい、王ライオンが伝えたいことは書かれていません。王ライオンが怒って吠えたと、ライオンの女の子が彼に気づいて、手助けを申し出てくれました。大胆でカラフルなイラストと、生き生きとした会話、鋭いユーモアによって、この物語は、読み書きを学ぶことは価値のあることだと確信させてくれます。

Alles Familie!: vom Kind der neuen Freundin vom Bruder von Papas früherer Frau und anderen Verwandten

「みんな家族 お父さんの前の奥さんの弟 の新しいガールフレンドの子ども、とその 他の親戚」

Alexandra Maxeiner • Anke Kuhl, ill.
Klett Kinderbuch, 2010

これは、多様性の現れと、「代替」という概念をもった家族について、説明し描いた本です。作者は平等に、客観的に、そしてユーモラスに描きます。この本に登場する家族は、牧歌的な避難場所ではなく、変化しつづける共同体です。絵は時に文章を豊かにし、時に語られないものを視覚化しています。ウィットに富んだ挿絵は、説明的な文章を補完し、そうすることで、この本は事実を扱いながらも物語絵本の面白さとしての価値を獲得しています。ジョークは描かれている家族（のメンバー）を犠牲にするものではなく、むしろ彼らの独自性を価値あるものとしています。

Germany 5
ドイツ連邦共和国

Lindbergh : die abenteuerliche Geschichte einer fliegenden Maus

『リンドバーグ : 空飛ぶネズミの大冒険』

Torben Kuhlmann

NordSüd Verlag, 2014

1907 年、ネズミとりの発明により、ハンブルクの街は闘いの場となりました。多くのネズミは逃げ出し、小ネズミだけが残されてしまいます。船で逃げる計画は、猫により失敗します。そこで、小ネズミは飛ぶことにしました。図書館の本や図面を頼りに機械を組み立て、空飛ぶ奇跡を作り出すのです。そして、最後には、ニューヨークに降り立ちます。緻密で写実的な画風と、セピアを基調にした配色で、絵が現実と空想の要素を融合させています。壮大な街並みと、魅力的な機械の描写と、懐かしいイメージを描いた冒険物語であり、とても楽しく読むことができる物語です。

Zwei für mich, einer für dich

「2つはわたしに、1つはあなたに」

Jörg Mühle

Moritz Verlag, 2018

分け合うのは難しいことです。特に、奇数のキノコをクマとイタチの間で公平に分けようとする。クマは大きいので、たくさん食べなければなりません。しかし、イタチはまだ成長期なのです。キノコを調理したのはイタチです。でも、キノコを集めたのはクマなのです！では、誰が、3つ目のキノコを手に入れるのでしょうか？生き生きとした線で描かれた登場人物たちは、生意気だけど賢い議論をしますが、これによって、子どもたちは自分と彼らを同一視することができます。この物語では、不公平だ、うらやましい、損をしている、という感情が非難されることなく、ユーモラスに描かれているのです。

Ich bin für dich da!

「あなたのためにここにいるよ！」

Jochen Till • Zapf

Tulipan Verlag, 2017

ヤマアラシがトウモロコシを見つけて、自分と世界に満足します。それにしても、水滴はどこから落ちてくるのでしょうか？陽気なヤマアラシは、自分の頭の上で、キリンが泣いているのに気づきます。そこで、キリンが悲しむ原因を突き止めようと決意しました。カラーを多用したイラスト、それに添えられた短い文章は、2匹の動物の具体的な状況を描き、喜びと悲しみだけでなく、慰めとそして最後に友情について描き出します。この絵本の抑えられた形式は、読者に考える余地を与え、語り合うことを促しています。

Germany 8
ドイツ連邦共和国

Dr. Brumms verrückte Woche: Sieben Geschichten von Dr. Brumm in einem Band

「Dr. Brumm のおかしいっしゅうかん 1冊になった Dr. Brumm の7つの物語」

Daniel Napp

Thienemann-Esslinger Verlag, 2020

不器用で注意力散漫なクマの Dr. Brumm とその友人である、金魚のマッコウクジラは、毎日冒険をしています。泳ぎに行き、電車で旅をし、ハイキングや旅行に出かけ、megasaurusを発掘し、テレビを見て、ハチミツを食べたりします。問題は細部にあり、それが言葉と絵で表現され、面白く、多様性があってユーモラスです。愉快的な混乱が、楽しい表情や、評価の高い登場人物を通して、子どものような視点で描かれています。この絵本は、アイデア満載で、声に出して読んだり、様々な発見をしたりするのがとても楽しいので、子どもたちに大人気となりました。

So weit oben

「ここまでたかく」

Susanne Straßer

Peter Hammer Verlag, 2014

家の高い窓辺においしそうな香りのケーキがあります。クマは、ケーキが欲しくて見上げますが、小さすぎて手が届きません！でも、ブタと犬とウサギとニワトリとカエルがトコトコとやってきて、助けを申し出てくれたので、はしごはどんどん高くなっていきます。そこへ、子どもがやってきます。作者の絵は、はっきりとした構成でありながら、細やかなディテールに満ちています。文章は子どもに向けて、生き生きとした方法で、目を輝かせるように語られています。ドキドキするような、願いと希望と失望と、思いがけない展開の物語です。

Seepferdchen sind ausverkauft 「タツノオトシゴはうりきれです」

Constanze Spengler • Katja Gehrman, ill.
Moritz Verlag, 2020

Mika のお父さんは、締め切りのある難しいお仕事を家でやっています。約束した湖へお出かけする時間も取れません。そこで、お父さんは無謀にも Mika にお金を渡して、ペットを買うことを許可しました。そうして Mika を忙しくすることで、静かに仕事ができるかもしれないと思ったのです。Mika がペットショップから、次々と動物を持ち帰って、お父さんが再び Mika と向き合う時間がとれるまでの、空想的な物語が始まります。これは文字で書かれていないけれど、絵の中にたくさんの発見がある、波乱万丈で、おかしくて、びっくりするような絵本です。親も子もたくさん共感する可能性のある事柄を描いた物語です。

Guadeloupe(France) 1

グアドループ

Mon petit pays à moi : poème en tissu et broderie

「私だけの小さな国 布と刺繍の詩」

Laurence Sancéau

ditions Courtes et longues, 2019

グアドループで授与される、カリブ海青少年図書賞を受賞した本作は、数千種類の布地で作られています。カリブ海のカーニバルのように、この物語は、緑が青々と茂り、時には予測不可能でもある自然の影響下にあって、とても親しみやすい人々と居心地の良い家で過ごす、熱帯地方の生活の喜びを語っています。これは、誰もが母国に対して持つ結びつきについて語っている本です。

Guadeloupe (France) 2

グアドループ

Le galet bleue

「小さな青い石」

Laure Cuirassier • Viva Cuirassier, ill.

Editions Jasor, Pointe-à-Pitre (Guadeloupe) , 2014

母親に連れられた少女は、魔法の青い小石の助けを借りて、新しくやってきた隣家の恐ろしい犬を前にして、恐怖を克服できるようになります。詩的な文章はグアドループの動植物を想起させます。

Guadeloupe (France) 4

グアドループ

L'homme qui repeint le ciel

「空に色をぬる男」

Quincy Gane

ditions N g Mawon, Baie-Mahault, (Guadeloupe), 2021

空を青に塗り替える男は、世界がまだ眠っている間に仕事を始めます。しかし、彼が昼間に空を青く塗るなら、誰が夜にそれを塗り替えるのだろう、と彼は疑問に思いました。

そこで彼は夜になるまで森の動物たちに質問し、「星を描く女」を見つけます。暗い色調のイラストと青色をふんだんに使ったこの美しい絵本は、夜から昼への変化を詩で伝えてくれます。また、男性と女性の互いに補い合う関係性についても繊細に私たちに語りかけます。

Binta, la petite vendeuse Ülkesinde 「Binta 小さな店員さん」

Boubacar 1er Diallo • Irina Condé, ill.

Editions Ganndal, 2007

7 歳の Binta は、父方のおばさんと一緒に暮らすために村を出ることを喜んでいますが、しかし、父親が自分を使用人としておばさんに売ったということを、彼女は知りませんでした。首都コナクリに到着すると、彼女は市場で一生懸命働かなければならないということを知ります。彼女は Ramatou おばさんから残酷な虐待を受けます。搾取され、虐待され、しばしば食べ物や水を奪われ、彼女は病気になってしまいます。幸いなことに、彼女は最終的に母親の暮らす生まれた家に戻り、二人は大笑いします。

Alpha, le petit cireur

「Alpha は小さなくつみがき」

Boubacar 1er Diallo • Robert Koumassadouno, ill.

Editions Ganndal, 2008

Mamadou Alpha はドンゴル・トゥマ出身の青年です。彼は学校に通わず、貧しい家族を残して村を離れることを余儀なくされました。良い稼ぎを得ることを望んで、おじと一緒に住むためにコナクリにやってきました。そして、路上で靴磨きになることを決心します。路上で働く難しさに直面して、彼は病気になってしまいます。彼はこの状況をなんとか改善することができるのでしょうか？

Il était une fois...La forêt sacrée 「聖なる森」

Nicolas Condé • Irina Condé, ill.
Editions Ganndal, 2020

11 歳の Koné はもう、神聖な森に入って村の儀式に参加できる年齢です。出発の少し前に、恐怖を克服する勇気をもつこと、勝利への努力をすること、という知恵を祖母からさずけられました。彼は家族に名誉を授けるために「ペット」となる動物を獲得しなければなりません。この動物は生涯を通じて彼の仲間として仕えてくれるのです。Koné はどうやって任務を成功させるのでしょうか？

Le garçon qui mouillait les poules 「にわとりをぬらした少年」

Yves Pinguilly ; Sarang Seck • Florence Koenig, ill.
Editions Ganndal, 2020

Didi が生まれたとき、川が氾濫しました。母親は彼が水の魔神の加護のもとに生まれたのだと言いました。成長するにつれて、彼はあらゆることで母親の真似をするようになり、彼女と同じように、頭に小さなひょうたんを乗せて川へ水を汲みに行きました。ある日、頭にひょうたんを乗せて村に帰ってくると、彼は同年代の子どもたちにばかにされます。

La fille de l'eau

「川からやってきた女の子」

Yves Pinguilly · Sarang Seck · Florence Koenig, ill.

Editions Ganndal, 2020

Djibril はギニアのサバンナを流れるミロ川の近くに住んでいます。彼は美しい若い女性が、不思議なことに水の上を歩いているのを見ました。彼は狂おしいほどに彼女を愛し、彼女と結婚するために、3つの試練を乗り越えます。良い夫になり、決して彼女を殴らないと約束しますが、彼はうっかり彼女を3回殴ってしまいます。水の少女は永遠に川に帰ってしまいました。母親から子どもたちに託されたこの地域の水、植物、木々の秘密のおかげで、彼らの3人の息子は偉大な癒し手になりました。

De surprise en surprise

「おどろきがいっぱい」

Odette Roy Fombrun • Patrick Charles, ill.

Editions Henri Deschamps, 2001

Ti Dane と妹の Mercilia は、カーニバルに参加するために、Tifa おじさんから首都ポルトープランスに招待されました。彼らにとっては驚きの連続です。すべての見世物や人込みに圧倒され、彼らはおじさんを見失ってしまいます。ふたりの子どもたちにとってなんと心細いことでしょう！彼らはおじさんを見つけられるでしょうか？この人気の高い祭りのあらゆる装飾を、カラフルなイラストで表現し、ハイチの文化を巧妙に紹介している本です。

La fête du cerf-volant

「凧揚げまつり」

Dominique Batrville • Chevelin Djasmy Pierre, ill.

Les Editions Haïtiennes, 2000

これは、Domino 地区の子どもたちのための大きなパーティーです。凧揚げ大会が開催されるのです。風の友達 Laurent は、コンテストの優勝を狙っています。しかし、Hercules は、Laurent の優勝を阻むために、怪しい不正な企みを実行します。どちらがコンテストで優勝するのでしょうか？公正さと自信だけが常に報われるのだということを示す物語です。

La dame aux pois

「豆をもらった魔女」

Mimi Barthélémy • Marie Denise Douyon, ill.

Les Editions Haïtiennes, 2011

年老いた魔女の Ti Madame は、彼女のもとに身を寄せていた商人からエンドウ豆の種を 3 粒もらいました。彼女はハイキングに出かけることにし、その途中で自分が持っていた種を角と交換し、角を牛乳と交換し、そうして続けていくうちに、彼女の卵と交換したくない草へびに遭遇し、Ti Madame は丸呑みにされてしまいます。しかし、彼女は魔法の力のおかげでなんとか逃げ出すことができました。この冒険以来、彼女は自分の力を使って周囲の人たちに良いことをしようと決めました。

Tout sur la soupe de giraumon 「Giraumon スープのすべて」

Carole Devillers • Rodchield Lamothe, ill.

Les Editions Haïtiennes |, 2019

自由のスープ、独立のスープ。 200 年以上にわたり、Giraumon スープはこう呼ばれてきました。このスープは、ハイチの独立記念日である元日に供される、伝統的な料理です。この絵本は、高く評価されているその特別な味を生み出す、作り方と材料を、詳しく紹介しています。このスープはユネスコの無形文化遺産として登録されたばかりです。

Les chasseurs de nuages

「雲を追う者」

Tamara Durand • Chevelin Djasmy Pierre, ill.

Les Editions Haïtiennes, 2006

Plicploc の町では、雲を追う者たちがやってくるその日まで、ずっと雨が降り続くため、住民はいつも灰色の顔と重い心を抱えています。彼らの秘密とは何でしょうか？この絵本は、私たちの気分が環境に影響を与える可能性があるということを示しています。

Anna va à la bibliothèque

「Anna 図書館に行く」

Carole Devillers • Rodchield Lamothe, ill.

Les Editions Haïtiennes, 2016

Anna は Deschapelles 図書館に行きます。彼女はそこで
の一日の様子を順々に教えてくれます。みんなにとっても愛さ
れている少女、Anna の新しい絵本は、子どもからお年寄り
まで、地元の図書館に行き、読書やそれにまつわる活動によ
って得られる幸福を見つけるように、読者を誘います。

Tortue et les bêtes-à-ailes

「カメと羽のはえた動物」

Joujou Turenne • Styves Phanor, ill.

C3 editions, 2017

なぜ亀の甲羅はひび割れているのか知っていますか？この物語は、その理由について書いています。亀は、羽のある動物だけが招待される母なる自然のお誕生日パーティーに出席するために羽を作りました。美しい絵が添えられた物語は、自分が本気で欲しいと望んだものを手に入れるために、不可能なことは何もないのだと教えてくれます。

Bénisoit, champion de vitesse

「Bénisoit はスピードチャンピオン」

M Etienne • Chevelin Djasmy Pierre, ill.

Les Editions Haïtiennes, 2012

子どもにもお年寄りにも大人気のヒーロー、愉快的口バの Benisoit が再び帰ってきて、彼のさまざまな才能のひとつをみせてくれます。今回、彼はレーシングカーを運転し、偉大な世界チャンピオンと対戦します。Benisoit は多くのファンを幸せにするために、レースの勝者となれるでしょうか？

L'aventure de Kibou le vèvè 「Kibou の冒険」

Gary Victor • Francisco Silva, ill.

C3 editions, 2017

死ぬまで権力を手にしたい、狂気の大統領による恐ろしい欲望のために、ハイチのブードゥー教のシンボルである Kibou は、あちこちで指名手配されています。旅の途中で、彼は脱出を手助けしてくれる音楽家、詩人、ダンサー、そして少女 Miah に出会います。Kibou が自分の星座に戻るためのドアを開ける方法を見つけるまで、彼らはとても慌ただしい冒険をすることになります。この本は子どもたちの好きな、ドタバタの旅を描いています。

Hungary 1
ハンガリー

100 magyar népmese: a Magyar népmesék sorozat teljes kiadása

「ハンガリー民話 100 選 ハンガリー民話 選集」

Kecskemétfilm Kft (editor) • Eszter Gyuricza (publisher)

Alexandra, 2020

この物語集は、ハンガリー文化の真の宝です。採録されている物語は、有名なテレビアニメ「ハンガリー民話」からとったもので、何世代にもわたってよく知られています。家族みんなにふさわしい内容で、子どもたちを民話の伝統に親しませる役割も果たします。この物語集は、人気のあったアニメシリーズの物語を集めた、ユニークな物語集です。

Hungary 3
ハンガリー

Egy kupac Kufli

「Kufli がいっぱい」

Dániel András

Pozsonyi Pagony Kft, 2017

このカラフルな絵本の主人公は Kuflis です。しかし、彼らは何者なのでしょう？三日月型のロールパンでもなく、虫でもありません。Kuflis それぞれが、7 つの異なる特性を持っています。生き生きとして鮮やかで面白い絵は、素敵で幸せな物語と同じくらい楽しいです。

Öreg néne őzikéje 「おばあさんと小鹿」

Anna Fazekas • Emy Róna, ill.

Móra Ferenc Ifjúsági Könyvkiadó ZRT, 2020

この物語は 1952 年に初めて出版され、それ以来、この物語を知らない幼稚園児はほとんどいないでしょう。この韻文で語られた物語は、信じられないほどの人気を博し、児童文学の真の古典となりました。傷ついた小鹿が気のいいおばあさんに手当てをされて、健康を取り戻すお話です。物語の後半で、小鹿が成長して産んだ子鹿もおばあさんのの手当てが必要になったとき、鹿は再び戻ってきます。これは、親、子ども、祖父母、孫にも人気のある数少ない物語のひとつです。

Hungary 5
ハンガリー

Az ezüst hegedű 「銀のヴァイオリン」

a Fésűs • Katalin Csomor, ill.
Szent István Társulat, 2020

Éva Fésűs の物語は、古典と民話の伝統を上手に組み合わせています。彼女のヒーローたちは愛らしく、器用で、賢く、物語は感動的で教訓的です。

Borsi az erdőben

「森のなかの Borsi」

Viktória Emese Gáll • Dorottya Sziert-Szabó, ill.
Ringato, 2019

ダックスフントの Borsi は、飼い主である音楽家の Vica と一緒に旅に出かけます。旅の途中、彼らは森の野生動物に出会い、そうこうしているうちに、いくつかの歌が頭に浮かびます。覚えやすい韻文と美しい絵が一体となったこの本は、その形状とあいまって、小さなお子さんにもきっと喜ばれるはずです。

Hungary 7
ハンガリー

Égigérő fű

「空たかくのびる草」

a Janikovszky • László Réber, ill.

Móra Ferenc, Ifjúsági Könyvkiadó ZRT, 2014

子どもたちは物語の始まりから終わりまで、大人の世界を少し垣間見ることができます。そして大人も、注意深く読めば、子どもの心がどのようなものか、もう少し理解できるでしょう。多様な登場人物、未知のプロット、そしてたくさんの秘密。この夏は、太陽の光、静けさ、そして自信にあふれています。

Éjszakai kert 「夜庭」

Erzsi Kertész • Réka Zsoldos, ill.
Cerkabella, Könyvek Kft, 2021

夜庭は、鳥さえも足を踏み入れていない場所であり、誰も歩いておらず、その周辺でさえ町の人々からも避けられています。神秘的な場所、日陰になった隅、風変わった探偵、そしてあらゆる種類の奇妙な生き物が夜の庭を特別なものになっています。

Boribon és Annipanni

『ブルンミとアンニパンニ』

Veronika Marék

Pozsonyi Pagony, Kft., 2016

こぐまのブルンミは、よく晴れた夏の午後にイチゴを探しに出かけます。彼は靴、シャツ、そして帽子を見つけました。湖のほとりでは、アンニパンニが服を探して泣いています。ふたりが出会うことですべてうまくいったので、一緒にイチゴを探しに行くことになりました。素敵な文章は記憶に残りやすく、幼い子どもたちも絵を見ながら自分で物語を語ることができます。

Pöttyös Panni

Mária Szepes • Anna F. Györffy, ill.

Móra Ferenc, Ifjúsági Könyvkiadó ZRT, 2020

この本が最初に出版されてからほぼ半世紀が経ちました。シンプルなストーリーと愛らしいキャラクターは、当然ながら多くの読者の人気を集めています。彼女の名前は、水玉模様の服だけではなく、彼女が患った水疱瘡にちなんで名付けられました。そのため、彼女は Pöttyös Panni という名前になりました。忍耐強く機知に富んだおばあちゃんは、おしゃべりな孫娘と読者の両方に日常生活のことを教えてくれます。幼稚園に行く年齢になるまでに、彼らは世界について多くのことを学びます。

Iran 1

イラン・イスラム共和国

پیرزن و نوروز عمو Amoo Nowruz va Pirezan

「ノウルーズおじさんと老婦人」

Asadollah Shabani • Hemadeddin Javadzadeh ill.

TUTI Books Fatemi Publishing Co, 2020

イランの伝統では、ノウルーズ（春分）おじさんは春の到来を告げる愛すべき人気者です。人々は彼のために窓やドアを開け、彼の到着を見守ろうと平原に駆けつけます。でも、誰よりもノウルーズおじさんに会いたい人がいます。毎年、この有意義な人生を送る老婦人は、庭を掃除し、ハフト・スーンという、「س」の文字と発音で始まる名前の 7 つの象徴によって飾られた机のそばで、彼を待ちました。この芸術作品の、美しく創造的な絵は、色と光で田舎の雰囲気表現し、明快で魅力的な物語は、伝統と文化を伝えています。村、イランの衣装、ノウルーズの祭典、自然と平和への賛美は、この物語のもっとも重要な要素です。

Arash: گوقصه مردن داختن تي ر حكي ت : آرش
Hekayat-e Tir Andakhtan-e Mard-e
Ghessegoo

「Arash 矢を射る語り手の物語」

Marjan Fouladvand • Pejman Rahimizadeh, ill.

Ofoq, 2011

昔々、イランはトゥランと戦い、一部を支配されました。両国は、矢を射って国境を決めることにしました。イランの兵士で、農民、語り部でもある Arash だけが射手として志願しました。彼は山に登り、イランの国境を広げるために、自分の物語と人生のすべてを矢に込めました。文学的、文明的に豊かなイランの歴史には、古代の神話や英雄がたくさんいます。射手の Arash はイラン神話の英雄であり、自己犠牲と勇敢さの象徴です。Arash は自分の人生を愛していますが、子どもたちから反対されても、祖国のために犠牲になり、英雄的な語り手と射手として、伝説の地を作りました。

بہار ہا بچ Bache-ha Bahar

「ほら！はるがきたよ」

Nima Yushij • Hoda Hadadi, ill.

Mirmah, 2018

この本は、コラージュの技法を用いたイラン北部の絵が添えられた二——マー・ユーシージの詩集です。子ども向けですが、詩や芸術に興味のある大人にも魅力的です。子どもに社会の共通文化を教え、美しいものを鑑賞する力を育むこの本は、偉大な現代詩人二マー・ユーシージの肖像を描いた絵から始まります。春の花を詰めたバッグを背負った優しい老人の絵で、イラン文化のババ（お父さん）やノウルーズ（春分）おじさんを彷彿とさせます。続くページには、色とりどりの服の子どもたち、川で洗濯をする女性、幸せな結婚式、田んぼで働く女性、漁をする男性などが現れ、最後に冒頭の老人が夕日に向かって歩く姿が描かれています。

سبز بلوط Baloot-e Sabz

「みどりのオーク」

Azam Mahdavi • Afrooz Gholizadeh, ill.

Fanni Iran, 2019

心優しい少年 Zhivan は、毎日リスの友達に会いに行きます。ある日、リスが迷子になってしまい、Zhivan はリスを探しにオークの森へ向かいますが、そこで奇妙な光景にでくわします！「みどりのオーク」は友情、自然、野生動物について描いた物語で、現実とファンタジーが融合し、堅牢な建物から想像の旅へと、読者をいざないます。絵は色彩豊かで、オーク材、クルド人の衣服、名前など、クルディスタンの文化的特徴で構成されています。読者はまた、野生動物や環境を保護することが任務の公園の自然保護官と出会い、彼らが自然や、野生動物や、植物を大切にしているということを知ります。

باران، آفتاب و قصه ی کشی Baran, Aftab va
Ghese-ye Kashi

「雨と太陽とタイルの物語」

Nader Ebrahimi • Najva Erfani, ill.

Nazar, 2015

昔々、街の賢い統治者は、すべての人々が集まって彼と話すことができるように、大きくて美しいホールを建てることにしました。画家の Gorgin と息子の Bahram が壁の装飾を担当しました。彼らは何日もかけて、人目を引く模様で壁を装飾するために尽力しますが、たびたび問題に直面します。ある時は雨が降って色が洗い流され、またある時は太陽が装飾を痛めてしまい、そのたびに彼らの努力は無駄になってしまいます。読者は、カーシャーンの無名なアーティストを通してタイルの作り方を知ることができます。優れたデザインのオリジナルのタイルを作ることは、イラン美術史における優れた技能のひとつです。

های پروانه با چتری سفید Chatri Ba Parvane-
haye Sefid

「白い蝶の模様の傘」

Farhad Hasanzadeh • Ghazaleh Bigdeloo, ill.

TUTI Books Fatemi Publishing Co, 2017

子どもは目標を達成する過程で、恐怖や障害という問題に直面します。対応する力があれば、乗り越えられます。問題解決の方法には3つの段階があり、「白い蝶の模様の傘」ではそれが用意されています。まず、子どもたちは問題の原因を理解し、次に解決策を探し、最後にあらゆる方法を模索し、最適なものを選びます。この本では、登場人物たちはそれぞれ問題に直面しますが、すべて解決策があります。少しの時間で新年の準備をしなければなりません。理髪店でまだ散髪していない子、服が出来るのを待っている子、花を売り終わってない子。彼らの問題は解決されます。協力とは、良い気分を他の人に伝えることなのです。

رنگ هفت اسب هفت Haft Asb, Haft Rang

「7頭の馬、7つの色」

Mohammad Hadi Mohammadi • Noushin Safakhoo, ill.

The Institute for Research on the History of Children's Literature,
2017

少女は空想の中で馬を7頭飼っていました。1頭目は色が無いので、みんなから1色ずつもらいました。7頭目は場所が無いので、みんなから場所の一部をもらいました。また1頭目は、考えや想像力が無いので、みんなからもらい、心が満たされました。馬たちが旅立つことになり、それぞれ色、場所、考えや想像力を少女に与え、少女は喜びで満たされました。この物語では、色と想像力の間には互いに象徴的な関係があります。朗読に適した本で、夢、考え、想像力について一緒に話し合い、友情、協力、許しの感覚を強め、子どもたちに書くことを促します。

Hich Khand Nam-e Avaz Namikonad Ra Rahesh Vafani Heych

Toofani Rahesh Ra Avaz Namikonad

「決して進路を変えない嵐」

Seyed Ali Shojaee • Sara Miari, ill.

Neyestan, 2017

少年は嵐が近づいていることを村の人々に知らせるために急ぎますが、人々は彼の作り話だと思えます。子どもたちは少年を信じて、洪水から村を救うために壁を作ろうとしますが、十分な力がありません。著者は、言葉と行動の間に距離があることを巧みに描写し、世界の出来事に無関心でいてはいけないと、読者に伝えようとしています。絵は文章とよく合っています。子どもや10代の若者への教育でもっとも重要なことは、特別な才能を育むことができるように、社会生活のスキルに関連した考えを教えることです。この本は子どもたちにそのようなスキルを与えます。

با زرافه خوراک

پشت Khorak-e

Zarrafeh Ba Salad-e Lakposht

「キリンのスパゲッティとカメのサラダ」

Reza Dalvand

TUTI Books, Fatemi Publishing Co, 2017

スパゲッティが嫌いな少女は、ある日、食卓にスパゲッティがあるのを見て、不機嫌になります。母親は創造的な方法で、娘の考えを変えようとします。スパゲッティを使ってキリンを作り、サラダのレタスをカメの形に盛り付けるのです。目の前にあるお料理は、もはやスパゲッティとサラダではありません！この物語では、辛抱強い母親が、創造力と想像力で工夫し、無理やり食べさせるのではなく、子どもを喜ばせます。その結果、少女は好みが変わるだけでなく、食べることを楽しみ、次の食事を待つようになります。さらに、この本を読むことで、大人も幼い子や日々の仕事に対応するための、より創造的な方法を見つけるでしょう。

يا لکاکى تو To Lak Laki Ya
Darkoob?

「あなたはコウノトリですか、それともキ
ツツキですか？」

Ali Khodaei

Institute for the Intellectual Development of Children and Young
Adults, 2012

この本は絵を使ったゲームです。コウノトリがゾウに、フクロウがヤギに、ヤギがキツネに、動物たちの色や形が次々と変化していきます。これは、ゲームのような創造的な作品です。簡潔で美しい形を使い、創造的な方法で、著者は 18 匹の動物を見せてくれます。読者は、単純な形から新しい形を造りだす方法を学びます。この本は、新しく独創的な芸術作品に触れ、遊ぶことで、創造力を育み、子ども達の美的感覚を向上させます。イラストレーターはページを折り込んで本を作成していますが、これはゲーム・ブックともいえます。折り込まれたページをたどると、興奮、喜び、発見の世界が生まれます。

Eva and the Perfect Rain

「Eva のかんぺきな雨」

Tatyana Feeny • Tatyana Feeny, ill.

The O'Brien Press, 2019

Eva は新しい傘をさして外に出かけるのが待ちきれません。しかし、傘を使うには、それにふさわしい完璧な雨が必要です。Eva は、暴風雨から雷雨まで、あらゆる種類の雨が降るあいだ辛抱強く待ちますが、彼女が求めている雨は降りません。そしてついに、完璧な雨が降り、色とりどりの花と美しい虹をもたらしてくれました。これは予期せぬ出来事に対処する方法を教え、アイルランドに降るいろいろな種類の雨を祝福する、優しい物語です。パステル調のイラストとミクスト・メディアの模様が、ポタポタという雨音と美しく響き合います。天気につわる単語リストも付いています。

The President's Glasses 「大統領のメガネ」

Peter Donnelly
Gill Books, 2017

大統領は非常に重要な文書に署名するためにダブリン城へ出かけますが、眼鏡を忘れてしまいました。大統領のハトは眼鏡を届ける任務を受け、街の中へ飛んで行きます。この本は、ダブリンの特徴的な建物を、ウィットに富み、愛情のこもった鳥観図で描いたものです。大胆かつスタイリッシュな絵は、細部にまで愛らしい工夫が施されており、何度も読み返したくなります。短い文章と完璧に調和した絵が組み合わさって、大笑いの結末へと導きます。ダブリンを知っている人や知りたい人にとって魅力的で楽しい、モダンクラシックな本です。

An Táin

「クーリーの牛争い」

Colmán Ó Raghallaigh • Barry Reynolds, ill.

www.leabhar.com, 2006

「クーリーの牛争い」はアイルランドの子どもなら誰でも知っている物語であり、世界でもっとも偉大な叙事詩のひとつとみなされています。Colman O Raghallaigh は、この作品で女王 Méabh によるクーリーの街の茶色い牡牛探求の物語に命を吹き込み、「Tain」または「Tain Bo Cuailnge」の新しい心躍るような再話となっています。これは、英雄 Cú Chulainn を描いたアルスター物語群のもっとも重要な物語のひとつです。この物語は、アルスターの戦士たちが病に倒れる中、若き Cú Chulainn がひとりで侵略者に抵抗する姿を追っています。この素晴らしいグラフィック・ノベルでは、気高さ、勇気、悲劇が巧みに融合されています。

Ireland 4 アイルランド

Míp

Máire Zepf • Paddy Donnelly, ill.

Futa Fata, 2020

受賞歴のある作家 Máire Zepf が文を書き、Paddy Donnelly が美しい絵を描いた、この心温まる絵本は、たちまち幼い子どもたちの間で大人気になりました。物語は、MIP と呼ばれる小型ロボットが火星に向けて宇宙を大冒険する様子を追います。MIP は火星で生命の痕跡を見つけるという使命を帯びており、この赤い惑星の写真を地球に送る任務を負っています。宇宙探査には危険なこともありますが、道中には、愉快的結果をもたらす挑戦もいくつかあります。ご存知のとおり、冒険、ドラマ、ユーモアは、優れた児童文学の特徴ですが、この物語にはそれらがたつぷりと詰まっています。

Geansaí Ottó

「Otto のセーター」

Sadhbh Devlin • Róisín Haheesy, ill.

Futa Fata, 2020

Otto はおしゃれな男の子です。彼のおばあちゃんは、着心地の良いウールのセーターを Otto に編んであげるのが好きです。問題は、おばあちゃんの手編みのセーターが、Otto の高いファッションセンスと完全に食い違っていることです。どうしたら、おばあちゃんの気持ちを傷つけずに伝えることができるでしょう？ Sadhbh Devlin が語るこの愛らしい物語は、質感と温かみに満ちた Roisin Haheesey のイラストによって完璧に補完され、登場人物の感情をとらえて、読者を物語の世界に連れて行きます。この本はどの年齢層にとっても魅力的で、少年とおばあちゃんとの心温まる絆がきつとすべての読者に笑顔をもたらすでしょう。

Cá Bhfuil Puifin Beag?

『パフィンちゃんどこにいるの？ スケリッグ島のぼうけん』

Erika McGann • Gerry Daly

The O'Brien Press, 2019

アイルランドの沖合にあるスケリッグ・マイケルの神秘的な島々を舞台にした、この冒険好きな鳥の楽しい物語は、大人も子どもも同じように魅了します。この島は無人島で、最近ではスター・ウォーズの映画撮影にも使用されました。この物語は、ニシツノメドリの両親が、いなくなった赤ちゃん パフィンちゃんをかくれんぼ遊びのように探す物語です。彼らは島の他の野生動物たちに助けられ、家族が再会するために力を合せます。この本の特徴は、スケリッグ・マイケルの風景と野生動物を描いた美しいイラストです。そして、島とそこに暮らす野生動物についての役立つガイドもついています。

The Pooka Party

「Pooka のパーティー」

Shona Shirley Macdonald

The O'Brien Press, 2018

Shona Shirley Macdonald は、この美しく描かれた絵本で、アイルランドの民話に登場する変身動物 Pooka の魅惑的な物語を語ります。少し心寂しく、孤独を感じていた Pooka は、友達を作るために盛大なパーティーを開くことに決め、たくさんのゴブリンや魔法の生き物たちを招待します。この楽しいパーティーには、音楽モンスターや、いたずら好きのゴブリン、その他たくさんの風変わりなキャラクターが集まり、楽しくはしゃぎ、食べ物を取り合いを繰り広げます。活気に満ちた魅惑的な絵は読者を魅了し、孤独や孤立から楽しみ、友情、親密さへの、視覚的な旅へと読者を案内します。

The Sleeping Giant 「眠る巨人」

Marie-Louise Fitzpatrick
The O'Brien Press, 2019

マリー・ルーズ・フィッツパトリックは、眠る巨人の伝説に、現代的なひねりを加えています。アイルランドの沖合には、まるで海の中で眠っている巨人のような島があります。伝説によると、この島は巨人がドルイド僧によって眠らされたときにできあがりしました。この物語は巨人を再び目覚めさせますが、巨人が古い友人や仲間を探して散歩に出かけたので、大混乱が起こります。フィッツパトリックが使用した穏やかな色使いは、物語を完璧に補完します。絵も緻密に描きこまれていて、読み聞かせにぴったりのお話です。

Granuaile: The Pirate Queen

「Granuaile 海賊の女王」

John Burke • Fatti Burke, ill.

Gill Books, 2018

歴史的アイコンである Granuaile (グラニューエール) の物語は、ファッティ・バークのユニークで間違えようのない絵とともに、この豪華な本の中で美しく簡潔に語られ、ページをめくるごとに、彼女はひとときわ生き生きとしてきます。16世紀のアイルランドの少女である Grainne O'Malley (グラニーヤ・オマリー) が望んでいたのは、海に行くことだけでした。彼女は髪を切り、船員の格好をして海に出かけました。短い髪のため、彼女にはすぐに Granuaile (毛のない Grainne) というあだ名が付けられました。彼女は O'Malley 一族の当主となり、その城はアイルランドの西海岸に点在していました。彼女は海賊女王として知られるようになりました。

Mise agus an Dragún

「ぼくとドラゴン」

Patricia Forde • Steve Simpson, ill.

Futa Fata, 2012

この楽しい物語では、勇敢で想像力豊かなクマがドラゴン退治にでかけます。恐ろしい暗い森や、火を噴くドラゴンの煙がない限り、あらゆる状況に対応できる装備を彼は整えました！ Simpson はクマの豊かな感情をうまく表現しており、彼の絵は楽しくて面白いです。この物語はユーモアに満ちており、大人も子どもも魅了します。

Il fatto è

「ほんとはね」

Gek Tessaro

Lapis, 2014

アヒルの子は、他の動物たちがどんなに池に飛び込ませようとしても、頑固に抵抗します。動物たちは成功するどころか、自分たちのほうが次々に水の中に落ちる羽目になります。この本は「自分を貫くこと、勇気、小さいものから大きいものへ、または弱いものから強いものへの仕返しを讃えている。子どもの頑固さと大人の知ったかぶりについての物語でもあり、幼い子どもたちは成長する過程に好きなだけ時間をかける権利があるということを請け合っている」と評されています。

Il Venditore di Felicità 「幸せ売り」

Davide Calì • Marco Somà, ill.
Kite, 2018

Piccione 氏は幸せを売る露天商です。幸せは、この絵本のテーマです。お客さんは、さまざまな種類の鳥たちで、20 世紀初頭のファッションに身を包み、木の枝の上にある想像力に富んだデザインの家に住み、瓶詰にされた幸せを買っていきます。たくさんの幸せを手に入れることができるのは誰なのでしょう？ より多くの瓶を買うと幸せになれるのでしょうか？ 調和と想像力、洗練された皮肉が込められた、この冴えた本の文章と絵は、物語を読んだり聞いたりする人や、美しい絵を見る人を楽しませてくれます。

Nel Mio Giardino il Mondo 「庭のなかの世界」

Irene Penazzi

Terre di mezzo, 2019

一匹の猫をひきつれ、赤いボールを持った三人の子どもたちが、全てのページに登場します。この本では、言葉を使わずに、いくつもの庭の使い方が示されます。子どもたちは自由を満喫し、即席で作ったテントの下で寝転んで本を読んだり、種を植えたり、果物を取って食べたり、張り子の像を作ったり、庭に息づく植物や動物、全ての物を楽しみます。季節が巡り、冬が訪れ、雪が降ると、子どもたちは窓から庭を眺めます。不思議なできごとが起きる庭では、あらゆるものが依然として生きています。

Il Palloncino Rosso

『あかいふうせん』

Iela Mari

Babalibri, 2004

赤い風船の冒険です。ページをめくるごとに、リンゴになったり、蝶になったり、花になったり、傘になったりします。文章による語りのない作品ですが、驚きと変化に溢れています。1967年に出版され、今でも子どもたちに語りかけ続けているこの絵本は、時の経過によって色あせることなく、文字のない物語を通して現実の複雑さを伝える真の名作です。絵と絵のつながりによって物語が進む様子は、子どもの頭の中のようにもあります。

Tararì Tararera

『タラリタラレラ』

Emanuela Bussolati

Carthusia, 2009

タイトルを翻訳し忘れたわけではありません！存在しない言葉なのです。この本では創作された言語が使われており、たいていはオノマトペのように聞こえます。言葉には意味を見出せなくても、物語は感じさせられます。色彩豊かな絵とともにピリプ一家の冒険が描かれ、小さな末っ子ピリプ・ビビは森へ迷い込み、やっかいごとを求め、探検をしたいあまりに反抗的になります。迷子になることの怖さ、無謀、陽気さ、救出してくれる存在との出会い、叱られること、家族と再会する喜びが描かれています。普遍的な作品です。

Orso, buco!

「くまさん、穴だよ！」

Nicola Grossi

Minibombo, 2013

クマが道に迷い、巣穴を探しています。探している間に、クマは他の動物たちの巣穴に落ちてしまいます。一匹、また一匹と、動物たちはクマについて行きます。物語はとても単純で、子どもたちが大好きな繰り返しのしくみを使っています。この本の独特なところは、とても短い文章を使っており、それがほとんど線を使わず、色のついた形で描かれたシンプルなイラストに完璧に合っている部分です。子どもたちの興味を惹く粹な楽しい絵本で、リズムと活気で子どもたちの交流を促します。

‘45

「1945」

Maurizio A.C. Quarello

Orecchio Acerbo, 2017

この本では、第二次世界大戦終結の年のイタリアが描かれ、章のタイトルにのみ言葉が使われています。絵の中では、敵やパルチザン、恐怖や飢餓が季節の移り変わりとともに描かれています。主人公はある女性で、彼女が物語の筋を進めます。女性の夫はパルチザンで、息子は兵隊です。女性は不安と恐怖を抱えながらも、家に入ってきた若いドイツ兵に食べものを与えます。イタリアがナチスドイツの占領から解放された日、女性はドイツ兵と再会しますが、彼は囚われの身となっています。女性が彼へ向ける視線は、あらゆる戦争の非人道性に対する力強いメッセージとなっています。

La Cosa più Importante

「いちばんたいせつなこと」

Antonella Abbatiello

Fatatrac, 1998

ウサギにとっていちばん大切なのは耳が長いことですが、キリンにとっては首が長いことの方が重要です。こうして、動物たちの間で熱のこもった議論が始まり、それぞれが自分の持つ特徴がいちばん大切だと主張します。一方で、絵の中では、議論に参加している動物たちに、話している動物にとっていちばん大切な特徴が付け加えられた姿が描かれます。いちばん大切なものはなんなののでしょうか？お互いの多様性と独自性を豊かさとして捉えることを薦めるメッセージを読み取ることができます。この本には楽しい繰り返しや、驚くような折りたたみページのしかけもあり、読み聞かせに最適です。

I Cinque Malfatti 「完璧じゃない五人」

Beatrice Alemagna
Topipittori, 2014

不完全な五人が、一緒に暮らしています。一人は穴が開いていて、一人は折りたたまれていて、別の一人はとてもくたびれていて、もう一人はさかさまで、最後の一人はとてもおかしい……というよりも、失敗作です！五人は不完全でも幸せでしたが、ある日、きれいな男性がやってきて、彼らに間違っている、役立たずだと思わせようとしています。ですが、不完全な五人は自分自身と、自分たちのもつ欠点が生み出す可能性に満足しており、最後には、完璧な男性はばからしい思いをすることになるのです！一般的な見方をひっくり返す、明るくユーモラスな物語で、普通であることの定義がどれほど複雑かを示しています。

Professione coccodrillo

「ワニの職業」

Giovanna Zoboli • Mariachiara Di Giorgio, ill.
Topipittori, 2017

この本には、人間の服を着たワニが出てきます。朝起き、注意深く服を身に着けて出かけ、地下鉄で街を横断し、アッと驚く職場にたどり着くまでの彼の日常を追いかけます。文字を使わず、カラフルな絵で表現することで、時系列順に描かれる場面が続いていくさまを引き立てます。グラフィック・ノベルのようなレイアウトで、繊細さとユーモアをもって語られるこの物語は、思いがけない結末を迎えます。

Fanico et le savon magique

「ファニコと魔法のせっけん」

Muriel Diallo

Les classiques ivoiriens, 2015

Muriel Diallo は「ファニコ」と呼ばれるアフリカの伝統的な職業である洗濯屋に光を当てています。仕事の世界が物語の形で書かれています。洗濯屋の Thalès の仕事ぶりはひどく、それを不満に思う客の Mia は、先祖代々に伝わる方法で作った貴重な黒い石鹼を Thalès に渡します。その石鹼は「くたびれた服に活力を与え、生き生きと」させます。色彩豊かでダイナミックなイラストは、さまざまな技法をとっても心地よい形で組み合わせて描かれています。巻末のドキュメンタリーページでは、洗濯屋の仕事場である水路の周辺の水や草、土壌の汚染について警告されています。

Il fait nuit depuis deux jours

「二日間の暗闇」

Béatrice Lalinon Gbado • Roger Boni Yaratchaou ,ill.

Mili Ruisseaux d'Afrique & Vallesse, 2019

村でおじいさんが亡くなり、その一人息子が精霊によって選ばれ、共同体のリーダーとなるための試練に挑むことになりました。おじいさんの孫とその家族を暗闇が覆います。試練については何も書かれませんが、最初の数行を読んだだけで、生きて帰れない可能性があるということがわかります。権力が責任・犠牲と同義である世界の持つ、重々しく厳粛な雰囲気、画家による鉛筆の筆遣いと、平筆でぬられた動きを感じさせるブルーグレーの色彩によってうまく表現されています。

Ivory Coast 3
コートジボワール共和国

Les quatre frères
「四人兄弟」

Bienvenue Gnimpo N'Koue • Ayoutouf Guédégué, ill.
ditions Ruisseaux d'Afrique, 2019

農家の四人兄弟が狭い土地で一緒に暮らしています。留守にしている間に、誰かが自分たちの敷地を訪れていることに気付いた兄弟は、交替で見張りを立てることにします。ですが、嵐の間も見張りに立ち続けたのは、末っ子の Donta だけでした。そして、彼は全ての試練に打ち勝ちます。簡潔に書かれた素晴らしい物語です。この本の挿絵は 2018 年にアフリカの児童書のイラストのための Hervé Gigot 賞を受賞しました。

もこもこもこ

たにかわしゅんたろう さく、もとながさだまさ え

文研出版, 1977

しーんと静まりかえった夜明けの大地。青く広がる空。突然、こぶのような何かが”もこ”と現れる。”もこもこ”と大きくなった何かのとなりに、今度はキノコのようなものが”によき”と現れる。ページをめくるごとに何かは別の形に激しく変化し消えてしまう。再びしーんとした夜明けの大地。抽象的な形と明るい色彩、詩人による言葉の響きが醸し出す不思議な世界は、子どもを楽しませ、想像力を刺激する。

さがしています

アーサー・ビナード 作、岡倉禎志 写真

童心社, 2012

広島平和記念資料館に収蔵された 2 万 1 千点の中の 14 点の遺品を、広島産花崗岩である議員石の台にのせて撮影した写真絵本。石の表面にうつるかげからも、原爆投下前の人々のくらしが想像できる。写真にそえられた「いただきます」「がちゃっとあけて がちゃっとしめる」「あそぼ あそぼなにしておそぶ？」のことばを、弁当箱、鍵、ビー玉たちはたしかに聞いただろう。遺品は、失われた持ち主のぬくもりと本来の役目、そして、ここに残されたわけを今もさがしつつける。

ぐりとぐら

なかがわりえこ, おおむらゆりこ [著]

福音館書店, 1967

お料理と食べることが大好きな、野ねずみのぐりとぐらは森で大きな卵を見つけ、かすてらを作ることにした。かまどを作り、まきを集めて大きな鍋を火にかけて……。すると森の中にいいにおいが広がって、動物たちが集まってきた。ふんわりやけたかすてらをみんなで食べる。幼い子が大好きな「食べる」というテーマや、やさしい、リズムカルな文体は、子どもの心をつかみ、楽しい絵本の世界に引き込む。

かさじぞう

瀬田貞二 再話、赤羽末吉 画

福音館書店, 1966

びんぼうなじいさんが、年越しの日にお手製のあみがさを売りに行くが、全く売れない。そのまま帰る途中で、雪まみれのじぞうさまを見て、そのあみがさをかぶせてあげた。その夜、じぞうさまはお返しに、じいさんの家の前が宝の山になるほどの贈り物を贈る。扇面の画面に、紙質とにじみを活かし、様々な雪の質感の違いが描かれている。

文章は児童文学の創作・翻訳・評論で活躍した瀬田貞二。
絵は国際アンデルセン賞画家賞を受賞した赤羽末吉。

くだもの

平山和子 さく

福音館書店, 1981

写真のように精密に描かれた、さくらんぼ、すいか、もも、ぶどうなど、表紙を含めて 11 種類の果物。まるごとの果物の姿とその名前の次には、そのまま食べられるようにお皿に盛りつけ手渡される果物を描き「さあ どうぞ」とすすめる言葉が添えられる。普段食べている果物を絵本の中に見つけ、子どもは手を伸ばす。乳児からたのしめる。平山和子には、ほかにも『いちご』『たんぽぽ』など、植物の成長を描く作品が多い。

旅の絵本

安野光雅 著

福音館書店, 1977

この絵本に字はない。主人公の旅人はただひたすら、中欧ののどかな田園風景や町を旅する。風景や時間の経過を俯瞰して眺める構成は、日本の絵巻物を思わせるという説もある。細やかなタッチを楽しむと同時に、主人公を画面からさがしたり、昔話の登場人物等を発見する楽しさもある。シリーズは全9巻、欧米の他に中国や日本を旅する巻もある。著者は小学校教員を経て絵本作家となる。1984年国際アンデルセン賞受賞、2020年没。

11 ぴきのねこ

馬場のぼる 著

こぐま社, 1967

いつもはらぺこの 11 匹の猫たちは、遠くの湖で怪物のように大きくて強い魚を、なんと子守唄で眠らせて捕まえる。ところが、いかだに繋いだ大きな魚は、闇夜が明けた時には骨だけになっていて、その代わり、猫たちのお腹はタヌキのようにまんまるに！思ったままに行動する猫たちのおおらかな物語は子どもたちの共感を呼ぶ。加えて漫画家が描く猫たちの絵は親しみやすく、愛嬌たっぷり。全 6 冊あるシリーズはどれも子どもたちに広く支持されている。

わたしのワンピース

西巻茅子 著

こぐま社, 1969

ある日、空から白い布が落ちてくる。うさぎがその布で作ったワンピースを着て花畑へ行くと、なんと白いワンピースは花柄模様になる。雨が降れば雨の模様に、星空を飛べば星の模様に、ワンピースの柄は変化する。子どもの想像力をかきたてる絵本。幼児画にも見えるタッチは親しみやすく、文章もリズムカルで楽しい。著者は 1939 年生まれ。東京芸術大学工芸学科卒。リトグラフ、エッチングなどを学んだ。

さわるめいろ

村山純子 著

小学館, 2013

もりあがる透明樹脂インクで一枚の紙に一度に印刷し、じゃばらに折ることで 10 ページに製本された。この方法により、点字絵本は日本で広く普及しはじめた。シリーズ 3 冊のうち、この巻では、麻の葉、青海波、亀甲などの多くの日本の伝統文様がデザインされている。目の見える子も見えない子も 両手の指で触図を触りながらゴールをめざす。指先の感覚に集中できる子どもには、大人も顔負け。だれもがいつしよに楽しめる。

とべバッタ

田島征三 作

偕成社, 1988

バッタは敵から隠れながら生きていた。おびえた生き方が嫌になり、バッタは悠々と大きな石の上で日向ぼっこをはじめ。すぐに敵がやってきてバッタを襲う。バッタは必死にジャンプし、ヘビをへこまし、カマキリをばらばらにした。これ以上、高く上がることができなくなったとき、バッタは自分に 4 枚の羽があることに気がついた。躍動感あふれる絵のタッチが生きようとするバッタを力強く表現する。

Korea (Republic of) 1

大韓民国

감기 걸린 날

『かぜひいちゃった日』

Dongsoo Kim

Borim Press, 2002

『かぜひいちゃった日』には、子どもころの行動が描かれています。羽のないアヒルの群れと、女の子が風邪を引いたことには、どんな関係があるのでしょうか。お話は、新しいダウンジャケットから始まります。ある日、女の子はジャケットから羽毛が出ているのを見つけます。夜になり、そのことを考えながら眠りに就くと、寒がっている羽のないアヒルを夢に見ます。女の子がジャケットから羽をばらまくと、アヒルたちは暖かくなりますが、女の子は暖を取れなくなります。この本には、子どもの想像力と、動物への愛情が描かれています。

Korea (Republic of) 2

大韓民国

노란 우산

『きいろいかさ』

Jae Soo Ryu • Dong Il Shin

Borim Press, 2007

ソナタのように、この本は言葉ではなく音楽で楽しみます。作品は文字を使わずに書かれています。読者は、雨の日に学校に通う子どもが持っている黄色い傘を目にします。黄色い傘と、他の色とりどりの傘が色とリズムのハーモニーを作り出します。付属の CD には、絵に合わせた 14 曲の短いピアノ曲が収録されています。この本に文章はありませんが、雨の日の美しさが語られています。ニューヨーク・タイムズ紙は『きいろいかさ』を 2002 年の「ブック・オブ・ザ・イヤー」に選びました。

Korea (Republic of) 3

大韓民国

마음의 집

『こころの家』

Hee Kyung Kim • Iwona Chmielewska

Changbi Publishers, 2010

『こころの家』は「心はどこにあるのか」「心とは何か」「心は誰のものか」という3つの問いかけを通して、読者を自己との哲学的対話へと誘います。読者は、詩的な文章やイメージを通して、他者を理解し、コミュニケーションをとる方法を学ぶことができます。キム・ヒギョンによる内省的な文章に、ポーランド人アーティストのイヴォナ・フミエレフスカが幾何学的な形を用いた抽象的で躍動的なイメージのイラストをつけています。この本は2010年、ボローニャ・ラガッツィ賞ノンフィクション部門を受賞しました。批評家は、「短く優雅な詩」のようであり、「世界の見方」が込められていると称賛しました。

Korea (Republic of) 4

大韓民国

만희네 집

『マンヒのいえ』

Yoon Duck Kwon

Gilbut Children Publishing Co., 2016

この本では、「家」はただ住むためだけの場所ではなく、住んでいる人の歴史や遺産、友人、家族、思い出と結びついていることが示されています。マンヒの家族は、狭いアパートに住んでいましたが、たくさんの部屋に広い庭、三匹の犬も飼っている祖父母の家へと引っ越します。マンヒは大家族として暮らす楽しさをたくさん見つけます。読者は、20 世紀の韓国の家庭の日常生活をより深く理解することができます。私たちは家庭を当たり前のものと思っているかもしれませんが、人生の本質が最もよく現れるのは「家」ということに気づかされます。

설빔

『ソル빔 お正月の晴れ着』

Hyun Ju Bae

Sakyejul Publishing Ltd., 2007

この物語では、韓国の文化の中の旧正月の大切さを知り、韓国の伝統衣装であるチマ・チョゴリを着る体験をすることができます。元旦のための衣装は、刺繍入りの靴下に、虹色の縞模様の上着、真紅のスカート、暖かい毛皮のベストと刺繍入りの靴、幸運のお守り、赤と金のリボン、ポシェットに、黒いサテンの帽子という豪華なものです。読者は、幼い女の子が元旦のための新しい衣装にどれほどわくわくしているかを体感できます。本の随所に素晴らしい文化的ディテールが散りばめられており、美しい絵と流れるような文章で表現されています。

십장생을 찾아서

『十長生をたずねて』

Hyang Rang Choi

Changbi Publishers, 2007

女の子は、おじいちゃんと長い間一緒にいました。ある日、おじいちゃんは重い病気で入院してしまいました。女の子はおじいちゃんが良くなるように祈りながら、太陽、山、水、岩、松、雲、不老草、亀、鶴、鹿という 10 個の長寿のシンボル（十長生）を集める旅に出ます。これらのシンボルは、韓国の伝統的な家具や色彩を使ったイラストでうまく表現されています。特に興味深いのは、それぞれのシンボルが、布、絵画、螺鈿細工の筆筥、刺繍、キルティングなど、さまざまな素材を使って表現されていることです。

Korea (Republic of) 7

大韓民国

아씨방 일곱 동무

『あかてぬぐいのおくさんと 7 にんのなか
ま』

Young Kyung Lee

BIR Publishing Co., Ltd., 2009

この物語の舞台は、若い奥さんが服を縫っている部屋です。奥さんには針仕事のための物差し、はさみ、針、糸、指ぬき、のしごて、火のしという、七人の友達がいます。ある日、奥さんが居眠りをしてしまったとき、七人の仲間たちは縫いものにいちばん大事なのは誰かについて言い争いをします。その後、縫いものができるのは全員のおかげであり、友達の助けがなければ針仕事が成り立たないということにみんなが気づきます。読者は、全てのものに価値があることに気づき、韓国女性の日常生活や伝統的な韓服への理解を深めることができます。

엄마 마중

『かあさんまだかな』

Tae Joon Lee • Dong Sung Kim, ill.

Borim Press, 2013

小さな男の子が、路面電車のホームでお母さんを待っています。路面電車が乗客を乗せて到着するたびに、男の子は運転士に、かあさんは？と尋ねます。ついに一人の運転士が、そんなに電車に近づいたら怪我をしてしまうと男の子に注意をし、お母さんが来るまでじっとしているように言います。時間が経ち、風が吹き、雪が降るなか、子どもはお母さんが来るまで辛抱強く待っています。落ち着いた色彩の水彩画は、1938年のソウルで見られただろう人々や風景を捉えています。文章とイラストの完璧な融合が、シンプルながらも感動的なお話を語ります。

Korea (Republic of) 9

大韓民国

파도야 놀자

『なみ』

Suzy Lee

BIR Publishing Co., Ltd, 2017

この言葉のない絵本は、海辺での子ども的一天を完璧に捉えています。カモメの群れに続いて、女の子は海岸で波が砕けるところまで嬉しそうに走っていきます。木炭とアクリルでゆるやかに描かれた絵は、水のようにカーブして流れ、遊び心が反映されています。特に子どもとカモメの表情と身体表現にそれを見出すことができます。灰色を基調とした世界に青色が使われることで、この物語の主人公の女の子と並ぶ主役である海に目がいきます。ニューヨーク・タイムズ紙は、2008年の最優秀絵本賞リスト 10冊に『なみ』を選びました。

팔죽 할머니와 호랑이

『あずきがゆばあさんとトラ』

Dae In Cho • Sook Hee Choi, ill.

Borim Press, 2002

ある日、おばあさんの前に虎が現れ、おばあさんを食べようとしています。おばあさんは死ぬ前に虎のために一杯だけ小豆粥を作らせてほしいと虎に頼みます。おばあさんは大きな鍋で小豆粥を作り、その前で死を恐れて泣きます。夜になって虎が戻ってくると、卵、菰、亀、木工きりといった小さくて弱いものたちが力を合わせて虎を撃退します。怖い虎が小さなものたちに打ち負かされると、読者は大喜びします。この物語の教訓は、悪いことをした者は何らかの形で罰せられるということです。

Macao SAR 1

マカオ

K 星人的快樂之謎

「K 星人の幸せのなぞ」

羊猪老師 Lydia Leong • 尹應明 Leng Meng Wan

文化公所 Hall de Cultura, 2022

惑星 K は完璧な生命システムを持っており、K 星人には、
幸せ以外は生きるために必要なもの全てが供給されています。
三人の科学者は、「幸せの成分」を探す旅に出ました。
地球の M シティから帰ったとき、彼らの顔に笑顔が浮かび
ました。幸せの成分を見つけたのです。あなたはどうか？

Macao SAR 2

マカオ

丢失了松果

「松ぼっくりがなくなった」

羊猪老师 Lydia Leong • 周璇 ZHOUUUx, ill.

文化公所 Hall de Cultura, 2020

重陽の節句に松山で生まれたリスの重松は高所恐怖症ですが、両親の愛と励まし、松山灯台の光に導かれて恐怖を克服し、両親からごほうびに松ぼっくりをもらいました。ある日、重松は友達と遊んでいるときに、誤って松ぼっくりをなくしてしまいます。重松は松ぼっくりを見つけることができるのでしょうか？

Macao SAR 3

マカオ

澳門彈起

「飛び出すマカオ」

林發欽 Johnny Lam • 劉斯傑 Kit Lau, ill.

文化公所 Hall de Cultura, 2020

知識を得るだけでなく、立体で建築を見ることができる飛び出す絵本です。言葉と、紙で作られた建築物のレプリカで巡る、「飛び出すマカオ」の魅力的な旅路の中で、マカオの歴史、文化、偉人が生き生きと蘇ります。

Macao SAR 4

マカオ

圖塗澳門

「絵のように美しいマカオ」

羅樂 Joyce Luo • 梁文楊 Roderick Leong, ill.

澳門人出版有限公司 The Macanese Publishing Ltd, 2022

黒い顔の、スプーンのようなくちばしを持った、クロツラヘラサギは、あらゆる読者をマカオの隅から隅までを巡る旅へ連れて行ってくれます。この本では、渡り鳥の目を通して見えるマカオの美しさと、本物の家族愛が描かれます。

Macao SAR 5

マカオ

我和阿嫲的小故事

「大切な思い出」

張月敏 Chong Ut Man

澳門人出版有限公司 The Macanese Publishing Ltd., 2022

全てのページに、著者の祖母への慕情が描かれています。
これらの思い出は、祖母と孫娘がもっとも深い愛によって結びついていたことを示しています。

Macao SAR 6

マカオ

神秘的包裹

「ふしぎな小包」

張月敏 Chong Ut Man

澳門人出版有限公司 The Macanese Publishing Ltd., 2022

いじめは幼稚園に通う年齢の子どもの間でも起こります。そのため、いじめとは何か、どう対処すればよいのかを理解することは、子どもたちの成長にとって重要です。この本は、わかりやすいストーリーとコントラストの強い鮮やかな色づかいで、読者にいじめについての知識を与えます。

Macao SAR 7

マカオ

扁鵲醫師講故事

「扁鵲医師のお話」

馮煥景 Wun Keng Fong, 董百得 Baide Dong • Artaleo, ill.

澳門人出版有限公司 The Macanese Publishing Ltd., 2022

この本では、漢方は乾燥して苦いものばかりではないということが、一般的な漢方薬の起源と使い方についての短いお話を通して示されます。漢方医学について学ぶどの年齢の人にもおすすめです。

Macao SAR 8

マカオ

致賈梅士

「カモンイスに捧ぐ」

馬瑩瑩 Scarlett Ma

澳門濠扇文化創意發展有限公司 Companhia do Desenvolvimento
Cultural e Criativo Hou Fan Limitada, 2020

詩は文と、読者の朗読する声として、表れます。独自の音楽と美しい絵が合わさり、ポルトガルの偉大な詩人ルイス・デ・カモンイスへの敬意を表現すると同時に、読者に没入体験を与えます。この本は、文章、イラスト、音楽、朗読といった手段を通して、読者にルイス・デ・カモンイスの生涯を伝えます。

ABC di Kampung Saya 「わたしの村の ABC」

Safiyah Azizan

Safiyah Azizan, 2022

マレーシアの文化や環境と組み合わせてアルファベットを学ぶことができる、子ども向けのボードブックです。アルファベット一つひとつが、短い文章の中で主語と述語の頭文字として使われています。文章にはイラストがついており、マレーシアの村の生活になじみ深い動物や食べ物、日用品のかわいいキャラクターが登場します。イラストは手書きで、マレーシアの伝統的な染め物であるバティックの模様から着想を得ています。この絵本は、子どもたちの想像をかき立て、創造力を刺激し、好奇心を持って周囲の環境を楽しむように促すことを目的に書かれています。

Sentuh Sana Sentuh Sini

「ここも、そこも、どこでも触る」

Dillah Yahaya

Bagas Ilmu Resources, 2021

「ここも、そこも、どこでも触る」は、人に触ることについて早期性教育の観点から書いています。焦点が当てられているのは、安心な触り方と危険な触り方の違いです。子どもたちは、自分の体の自己決定権を持っており、触るときには同意が必要なこと、そして、同意なく触られるのをどう避け、触られてしまったときにどう行動すればいいのかを教わります。

Raksasa Menyerang Kampung 「村を襲う怪物」

Effy Sueffy

Self-published, 2022

Adam は村を襲った怪物に立ち向かいました。怪物の言葉から、人々の野焼きが襲撃の原因だと気づいた Adam は、村人たちに野焼きをやめるように言い、更なる襲撃から村を救いました。

Adi Bertemu Laksamana Pisang 「Adi、バナナ提督と出会う」

Effy Sueffy

Self-published, 2022

バナナが嫌いな Adi は、彼のもとに現れた Pisang（バナナ）提督に驚きます。提督はバナナの効能や、おいしいバナナミルクの作り方を Adi に教えてくれました。提督との出会いをきっかけに、Adi はバナナが好きになりました。

Plogging 「プロギング」

Tun 'AlialA Nadirah Binti Ahmad Suhaimi

Self-published, 2022

この本は、プトラジャヤのタマンボタニ公園でプロギング（ジョギングとゴミ拾いを合わせた催し）に参加する家族のお話です。「プロギング」という用語が生み出された背景についての情報も載っています。この本は、幼いころからきれいな環境を大切にし、維持する心を育みます。

Malaysiaku

「わたしのマレーシア」

Emily Goh, Edeline Go, Ang Hui Qing, Levant Yen, Jacqueline Yong,
Choong Kah Yan, April Wong
University Book Store (M) Sdn Bhd, 2021

この本では、多民族国家であるマレーシアの伝統的な遊びや、独自の文化について語られています。

Netherlands 1

オランダ王国

Het lammetje dat een varken is

『ぼく、ひつじじゃなくてぶたなんだ』

Pim Lammers • Milja Praagman, ill.

De Eenhoorn, 2017

ひつじたちが草を食べていると、不意に、一頭のコヒツジがぶたたちの中にいるのに気付きました。コヒツジは泥の中を転がり、自分はコブただと言い張ります。この絵本は近年関心の高まっている問題を取り上げています。もしも、自分の体がしっくり来なかったら？ 全て見開きで描かれたイラストでは、色彩が駆使され、ぶたとひつじが全く別の存在であることがはっきりと示されています。つまり、これはトランスジェンダーの人々についての興味深い絵本であり、最新的话题に簡潔かつユーモラスに取り組んでいるのです。おおむね4歳以上の子ども向けです。

Netherlands 2

オランダ王国

Kikker is Kikker

『かえるくんはかえるくん』

Max Velthuijs

Leopold, 1996

かえるくんはアイデンティティの危機を感じています。きれいな緑色（かえるくんの好きな色です）をしているし、ジャンプも泳ぎも得意なのですが、友達にできて、かえるくんにはできないことがたくさんあるのです。かえるくんは自分にとりえがないように思えて、悲しくなります。のうさぎくんが、かえるくんはかえるくんだからみんなから愛されているのだと説得するまでは。かえるくんの気持ちは、印象的かつ細やかに表現されており、そのために、不安が引き立っています。片ページもしくは見開きの絵は、額装されているように描かれることで、より魅力的になっています。2004年の国際アンデルセン賞を受賞しています。

We hebben er een geitje bij! 「こやぎが生まれたよ！」

Marjet Huiberts • Iris Deppe, ill.
Gottmer, 2014

Mik は生まれたてのヤギを見るために、ふれあい動物園へ行きます。新しい仲間の誕生に、農場で飼われている動物たちは大喜び。それ以外の動物たちもたくさん登場します。さわやかな色使いで、伸び伸びとして柔らかな素晴らしいイラストは、全て見開きで描かれており、きれいな光沢のある厚紙に印刷されています。2 行ずつで書かれた文は行末で韻を踏んでおり、イラストの中に黒の太いサンセリフ体で印刷されています。幼児を惹きつけるきれいな雰囲気印刷された、可愛くて素敵な物語です。おおむね 3 歳以上の子ども向けです。

Spelen tot het donker wordt

「暗くなるまで遊ぶ」

Hans & Monique Hagen • Marit Törnqvist, ill.

Querido, 2018

この絵本は、友情と、一緒に遊ぶことを讃える作品です。絵と詩が美しく組み合わせられています。作品は、朝、女の子が外へ出てくるところから始まります。隣のページに書かれた詩は、女の子と友達が遊ぶときにすること全てを語っています。文字のない見開きが9場面続き、どのページも可愛くて遊び心のある絵でいっぱい、詩で語られた内容が描かれています。女の子と男の子が砂浜やお風呂で一緒に遊び、お人形のためのレストランや、鉄道を作り、読者は退屈することはありません。本の最後には、また詩の続きが書かれています。子どもと一緒に読むのに最適な絵本です。2歳以上が対象。

Vosje

「キツネ」

Edward van de Vendel • Marije Tolman, ill.

Querido, 2018

年若いキツネが 2 匹の蝶を追って砂丘を走って、ひどい
転び方をしてしまいました。倒れたまま、キツネは初めて巣
穴の外へ出て兄弟姉妹と遊んだことや、父親から教えられた
ことを夢うつつに思い浮かべます。まぶしい月明かりが目
に入ったり、毛が逆立ったりと、いろいろな感覚を味わって、
キツネはとても敏感になっています。語り手が補足をして、
読者を導きます。写真とリソプリント、ペン画の技法を組み
合わせた表現力に富んだ絵は美しい情感を作り出し、現実
は古い写真のように、夢は砂色のデッサンのように描かれます。
蛍光色で書かれたキツネは、すぐに読者の心を奪います。お
おむね 6 歳以上の子ども向けです。

Boer Boris gaat naar zee

「農夫の Boris、海へ行く」

Ted van Lieshout • Philip Hopman, ill.

Gottmer, 2013

休暇が始まり、農夫の Boris は海辺へ旅行に行こうとしますが、何を持っていけばいいのでしょうか？ 最終的に、Boris はトレーラーに牝牛と子牛、雌鶏たちと雄鶏、家具全部と、弟、妹を乗せて、トラクターで旅に出ます。ページいっぱい描かれたユーモラスで色鮮やかなイラストは、子どもたちも気に入るでしょう。動物たちみんなが海の中を泳いでいる絵は、水中からの視点で描かれており、素晴らしく独創的です。文章は絵を忠実に再現し、すらすらと韻を踏んでいます。絵は精細で、見るべきところがたくさんあります。おおむね 3 歳以上の子どもの向けです。

Kom uit die kraan!!

『クレーンからおりなさい！！』

Tjibbe Veldkamp • Alice Hoogstad, ill.

Lemniscaat, 2015

バートは工事現場へ行くのが好きです。ある日、バートはロードローラー、コンクリートミキサー車、クレーンによじ登ることにしました。バートは大混乱を引き起こしますが、それにはちゃんとわけあることがわかるのです…。美しくユーモラスな絵本で、予測のつかない見事な筋書きです。イラストは見開きで細部まで描き込まれています。機械や埠頭、そしてバートが起こす大混乱に代わる代わるズームイン、ズームアウトする視点も見事です。動きと生き生きとしたセリフがたくさん登場し、読み聞かせに最適です。文章は深緑色の遊び心のあるフォントで印刷されており、イラストと相まって魅力的な作品になっています。4歳以上の子ども向けです。

Netherlands 8

オランダ王国

Prinses Arabella is jarig

「Arabella 姫の誕生日」

Mylo Freeman

De Eenhoorn, 2006

Arabella 姫は、お誕生日プレゼントにゾウをねだります。ですが、ゾウがとても悲しんでふさぎこむので、姫はプレゼントを返すことにしました。ゾウの子どもは、お誕生日プレゼントにサプライズでお姫さまと会えて大喜び！見開きで構成され、よく作り込まれたユーモラスな絵本です。王室の煌びやかさととてつもなさをうまく描いています。絵は色彩豊かかつ緻密で、画面に置かれた会話の多い文章とうまく結びついています。難しい言葉や観念は出てこず、くせのない文体で書かれているので、楽しく読めます。おおむね 4 歳以上の子ども向けです。

Netherlands 9

オランダ王国

Sneeuwwitje breit een monster

『シラユキさんとあみあみモンスター』

Annemarie van Haeringen

Leopold, 2014

白いヤギのシラユキさんは、ヤギの靴下を編むのが好きです。でもある日、シラユキさんは小さなヤギを編みました。ヒツジのおばさんはシラユキさんを妬んで、シラユキさんの作品はめちゃくちゃだと言います。そして、シラユキさんが編んだオオカミが、ヒツジのおばさんを食べてしまいます…。たくさんのおとぎ話のモチーフがユーモラスに組み込まれ、サスペンス風に仕上がった、美しく想像力豊かな絵本です。生き生きとした文章は音読にも向いています。どのページのイラストも、文と一体となっており、色づかいはアクセントになっています。物語の終わりはとても見事で、絵を見ることで、文に対して特別な解釈ができるようになっています。おおむね4歳以上の子ども向けです。

Alfabet

「アルファベット」

Charlotte Dematons

Hoogland & Van Klaveren, 2020

この文章のない絵本では、見開き一枚がアルファベット 1 文字に対応しています。よくある ABC 絵本ではなく、色彩豊かで緻密な絵と独特の切り口の、物語のある絵さがし絵本です。サル（Apen）だらけのモンキーロック（Apenrots）と救急車（Ambulance）付きのジェットコースター（Achtbaan）から始まり、砂浜（Zand）に置かれたビーンバッグ（Zitzak）にサングラス（Zonnebril）をかけた人魚（Zeemeerminnen）がたくさんいる黒海（Zwarte Zee）で終わります。A から Z までの各見開きには、たくさんの物が描かれている賑やかなページと、少しの物だけが描かれている静かなページがあり、それぞれに文字泥棒が登場します。約 3000 以上の生き物や物が描き込まれているこの作品は、誰でも楽しめるユニークな絵本です。読者は、美術、植物学、動物学の分野で自分なりの発見をできます。

New Zealand 1
ニュージーランド

Hairy Maclary From Donaldson's Dairy

『もしやもしやマクレリーおさんぽにゆく』

Lynley Dodd

Penguin NZ, 2010

この愛すべき犬がニュージーランドの子どもたちの前に登場したのは、今から 40 年ほど前のことです。もしやもしやマクレリーは、冒険を求めて町外れへと家を抜け出し、友達が一匹一匹と加わっていきます。突然、町でいちばん強い猫のクローが犬たちの前に立ちはだかり、クローの「イアーウーフーー!!!」といううなり声に、群れは慌てて安全な家へと逃げ帰ります。リンリー・ドッドの自然な韻とリズムは、犬たちの特徴とお話の盛り上がり完璧に捉えた熟練のイラストとよく合っています。この本以外にも、マクレリーと仲間たちが主人公の絵本や、ずる賢い猫の Slinky Malinky の冒険を描いたシリーズなど、20 冊以上の絵本を書いています。

The Kuia and the Spider 「おばあちゃんとくも」

Patricia Grace • Robyn Kahukiwa, ill.
Penguin NZ, 1982

作家の Patricia Grace とイラストレーターのロビン・カフキワという二人の尊敬に値するマオリ人アーティストが共同で制作した、この機知に富んだお話では、おばあさんとクモがどちらの織物が優れているかについて和やかに競います。二人は孫たちに選ばせることにします。クモが巣を上手に紡ぎ、揺れたり登ったりしてハエを捕まえている間に、おばあさんは食べ物を集めるための亜麻の道具袋や、座ったり横になったりするための亜麻の敷物を上手に作ります。やってきた子どもたちは、道具袋と敷物に大喜びし、クモの巣にも大喜びし、喜ぶのに大忙しでどちらかを選べません。1982 年にニュージーランド政府出版賞絵本部門最優秀賞を受賞しています。

How Maui Slowed the Sun

『マウイたいようをつかまえる』

Peter Gossage

Penguin NZ, 2011

太陽が空を駆け、日は短く、人々が仕事を終わらせるには時間が足りなかったころ、マウイは自分の兄弟たちを説得して、太陽の動きを遅らせる手伝いをさせました。マウイは亜麻で作った丈夫なロープを持って、太陽が昇る穴へ兄弟を連れていきました。マウイの合図で、兄弟は太陽にロープを結びつけ、マウイは魔法の力を持つ祖父の顎骨を使って太陽に打ち勝ち、もっとゆっくりと空を渡るよう命じました。これはゴセージが再話したマオリの伝統的な物語の一つで、赤、黄土色、黄色、茶色、黒といったマオリの色彩を用いた独特の表現で描かれています。

New Zealand 4
ニュージーランド

The Fierce Little Woman and the Wicked Pirate

「荒くれものの小柄な女と悪い海賊」

Joy Cowley • Sarah Davis, ill.

Gecko Press, 2010

気性の荒い小柄な女性が、桟橋の端にある家に住み、バグパイプを演奏し、船乗りに靴下を編み、床の跳ね上げ戸で釣りをしていました。ある嵐の夜、海賊が窓を叩いて中に入れるように言い、女性の独りの時間が妨げられます。女性は海賊が入ってくることを拒否します。知恵比べが繰り広げられ、最後には海賊は降参し、自分の船が行ってしまったこと、暗闇が怖いことを認めます。子どもたちは、海賊をはねつける強い女性の行動に喜び、訪れた幸せな結末を楽しみます。Sarah Davis の色彩豊かなイラストが素晴らしい物語を彩ります。

The House That Jack Built 「ジャックの建てた家」

Gavin Bishop

Gecko Press, 1999

Gavin Bishop はこの傑作絵本の歴史的背景を、「…1798年9月12日、この岸からはるか遠くの土地まで航海し、そこに暮らし、先住民たちと交易をした Jack Bull 氏の記録である…」という副題で説明しています。伝統的な童謡であるマザーグースをテキストに用い、Bishop は、ニュージーランドの植民者が先住民のマオリを少しずつ制圧していく歴史を、細部まで作り込まれた絵と見事な描画力で、双方の視点から描き、並べています。アオテアロア・ニュージーランド初期の歴史を描いた異例の作品です。原書は1982年に出版されました。

New Zealand 6
ニュージーランド

Mophead: How your Difference Makes a Difference

「モップヘッド あなたの違いが、どんな風に違いを生み出すか」

Selina Tusitala Marsh

Auckland University Press, 2019

アオテアロア・ニュージーランドで先住民族パシフィカとして育った著者の、強烈で感動的なグラフィックアート形式の自叙伝で、赤で強調された豊かな表現力の線画で描かれています。大きく広がる縮れ毛にちなんで「モップヘッド」というあだ名をつけられた彼女は、髪を結んで周りに合わせる努力をします。訪れた詩人が本当の自分であることの意義を気づかせてくれると、彼女は髪を解いて、自分の詩の才能を自覚し、パシフィカの女性として初の博士号を取得し、ニュージーランドの桂冠詩人の称号を与えられます。この称号には、モップのような毛が付いたトコトコ(杖)がついて来て、彼女は何度も自分の物語を語ることになるのです。

New Zealand 7
ニュージーランド

The Little Yellow Digger

「小さな黄色い掘削機」

Betty Gilderdale • Alan Gilderdale

Scholastic NZ, 1992

ある雨の日、小さな黄色い掘削機が建設現場のぬかるみにはまってしまい、大きな掘削機たちも次々と同じ運命をたどります。二日後に天気が良くなったとき、大きな機械たちをねばねばしたぬかるみから助け出すことができるのは、小さな黄色い掘削機だけでした。本書は、2002年に Storylines Gaelyn Gordon 賞の「愛された本」を受賞しました。この絵本は、児童文学の意欲的な擁護者である Betty Gilderdale による、小さな黄色い掘削機を主役にした絵本の一作目です。

Taniwha

『タニファ 海と空と大地の宝物 : ニュージーランド民話』

Robyn Kahukiwa
Penguin NZ, 1987

幼い男の子は、川の中の丸太が実はタニファであることを知っています。タニファはマオリ神話に登場する不思議な生き物で、何代にもわたってそこに住んでいるのです。タニファは時々昔の話をし、男の子を神話的な場所へ連れて行っては、大切な記念品をくれます。他の子どもたちにはわかりませんが、男の子のおじいさんはそれらの宝物がどんなに貴重かわかっています。カフキワの詩的な文章が、豊かな色彩と緻密なイラストに寄り添い歌う、ニュージーランドの名作です。1988 年にニュージーランド児童図書賞 を受賞しました。

A Lion in the Meadow

『はらっぱにライオンがいるよ！』

Margaret Mahy • Jenny Williams, ill.

Hachette NZ, 2018

マーガレット＝マーヒーの天才的な創造力は、The New Zealand School Journal に掲載された 5 つの物語が、1969 年にアメリカのフランクリン・ワット社とイギリスのデント社から絵本として出版されたことで、国際的に知られるようになりました。お隣の原っぱにライオンがいると言う、想像力豊かな少年を描いたマーヒーの代表作『はらっぱにライオンがいるよ!』は、すぐに大人気になりました。1986 年にジェニー＝ウィリアムズの新しい挿絵で再出版されましたが、「想像とは現実を使って創造すること」という言葉がしばしば引用されるマーヒーは、最後の一文に変更を加えて、この言葉を補強しました。マーヒーは 2006 年に国際アンデルセン賞を受賞しています。

Gorm er en snill orm

「やさしいへびの Gorm」

Camilla Kuhn

Cappelen Damm, 2013

Gorm は薬局で働く優しいへびです。 Gorm はとても優しいので、絶対にネズミを食べません。とてもお腹が空いているときにネズミを見ると、 Gorm は目を瞑ります。そうすると、急に空腹の感覚が消えるのです。ネズミもいつもいます。いつもそうです。不思議ですね！

Pølsetjuven

「ソーセージどろぼう」

Marianne Gretteberg Engedal

Samlaget, 2019

Kjell は泥棒一家の一人ですが、盗みが好きではありません。Kjell の親友の Pølse-Per は屋根の上にソーセージを載せた家に住んでいますが、その家族から、Kjell の家族がすべてを盗んでしまいます。そのため、Kjell は難しい決断を迫られることになります。これは、本当の自分を見つけ、自分の望む生き方を掴み取る物語です。

Norway 4
ノルウェー王国

Alle sammen teller

『75 億人のひみつをさがせ!』

Kristin Roskifte

Magikon forlag, 2018

『75 億人のひみつをさがせ!』は、人々を数え、目で追い、寄りそい、ひとりひとりかけがえのない彼らの物語がどんな風に交わっていくのかを目にすることができる絵さがし絵本です。この本には、好奇心が強く、目が利く人が見つけるであろう秘密がたくさん詰まっています。

Bukkene Bruse på badeland

『3 びきのヤギのブルーセ プールでおお さわぎ』

Bjørn F. Rørvik • Gry Moursund, ill.
Cappelen Damm, 2010

ある日、三匹のヤギが草場に向かっていました。ふと、ヤギたちはプールランドへの道を案内する標識に気づきます。

「おねがだよお」いちばん小さなヤギのブルーセが頼みます。今年の夏は、どうしてもプールランドに行きたいのです。

「そうしたら、あの はしを わたらなくてもいいし。あそこにいる トロルは すごく こわいんだもの」といちばん小さなヤギが言います。大きなヤギのブルーセがそれを聞き入れ、三匹はプールランドへ行くことにしました。ところが、三匹のヤギが橋を渡らなかったせいで、とても怒ったトロルがプールランドへやって来たのです！

Garmanns sommer

『ガルマンの夏』

Stian Hole

Cappelen, 2006

ガルマンは 1 年生になる準備ができていないせいで不安です。自転車に乗れないし、顔を水につける勇気もなく、歯だって一本もぐらぐらしていません。それなのに、学校は明日から始まるのです！夏休みの最後の日、三人の年寄りのおばさんたちが遊びにきます。ガルマンは、大人にも不安なときがあるということを知ります。おばさんたちは、歩行器を使わなければいけないことや、厳しい冬、そして、死が訪れれば、全てを置いていかなければならないことが不安なのです。物語の最後に、ガルマンは、学校が始まることを不安に思わなくなりますが、不安は人生の一部であるということも知ります。2007 年のボローニャ・ラガッツィ賞を受賞しました。

Odd er et egg

「Odd はたまご」

Lisa Aisato

Gyldendal, 2010

自分の頭が卵だったら、と想像してみてください。いつ割れてもおかしくありません。体育の授業や球技はどんなふうでしょう？松ぼっくりのたくさん落ちている森を歩くのを楽しめるでしょうか？車通りの多い危ない道を自転車で走るのは？ 大したことじゃない？ とんでもない、7 歳の Odd は、自分の頭が卵なので、どういうことかよくわかっています。毎朝、Odd は自分の頭をタオルでくるんで保護します。そんなある日、Odd は Gunn に出会います！

Jakob og Neikob 「Jakob と Neikob」

Kari Stai

Samlaget, 2008

Jakob と Neikob は一緒に住んでいて、全く違うけれども、仲良しです。Jakob はなんにでも YES と言い、Neikob は NO と言います。「なあ、Neikob、ドライブ旅行に行かないなんて言わないよな」「NO（言わないよ）」Neikob が答えます。旅の途中で、二人はなんと泥棒にあってしまいます！ 泥棒はマフィンを奪い、二人の車も欲しいと言います。

「YES」と Jakob は少し早口で答えます。考えなしに何回も「YES」と答えてしまったあげくに、二人はワニの餌にされて飲み込まれてしまいます。はたして、二人はワニのお腹の中から逃げ出すことができるのでしょうか？

Snill

「いい子」

Gro Dahle • Svein Nyhus, ill.
Cappelen Damm, 2002

ちっちゃなかわいい Lussi はとても、とてもいい子です。
とてもいい子なので、ある日消えてしまいました。誰も Lussi
を気にしないのです。お母さんは Lussi がいることを忘れて
いました。お父さんも、Lussi のことを忘れていました。先
生も、Lussi を忘れていましたし、お友達もみんな、Lussi の
ことを忘れていました。みんなが Lussi を見ておらず、何も
聞いていなかったとき、Lussi は壁の中に入り込んでしまい
ます。はたして、Lussi はそこから出ることができるのでし
ょうか？

Portugal 1
ポルトガル共和国

Cuquedo

Clara Cunha • Paulo Galindr, ill.

Livros Horizonte, 2008

Cuquedo とは誰なのでしょう？ どこに住んで、何を
しているのでしょうか？ スープは好きなのでしょう？
誰も Cuquedo の正体を知りませんが、顔を見せることす
らしなくても、ジャングルの野生動物たちから恐れられてい
ることは確かです。気を付けてくださいね。この本は、若い
読者も、その親や保護者も、病みつきになるかもしれません
から。この本は、読むのをやめられなくなる本の一つ、いつ
も戻ってきたくなるシェルターのような本の一つでもあり
ます。スペイン語とカタルーニャ語の訳書があります。

Se eu fosse um livro

『もしぼくが本だったら』

José Jorge Letria • André Letria, ill.

Pato Lógico, 2014

本は、あなたの想像を超えて、あなたの人生を変えるかもしれません。休息が必要なときの庭のベンチになったり、あなたを甘やかしてくれるペットや、秘密を分かち合う友達になったりするかもしれません。もし私が本だったら、あなたをお気に入りの読者に選ぶでしょう。アンドレ・レトリアが描く、本を凧やテント、船などに見立てた風変わりなイラストと、ジョゼ・ジオルジェ・レトリアによる読書の楽しみについての思慮深い思索が組み合わさって、本の持つ魔法と素晴らしさを讃えるこの本は、どんな年齢の読者も楽しめるでしょう。英語、フランス語、ノルウェー語、韓国語、ギリシヤ語、中国語に翻訳されています。

A contradição humana

「人間の矛盾」

Afonso Cruz

Editorial Caminho, 2010

「既知の宇宙全体の論理を覆す事柄を見つけてから、私はさらに奇妙なことに気づき始めた。人々の中には（隣人も含めて）最大の矛盾が潜んでいる。」 Afonso Cruz の言葉です。子どもの鋭い観察力は、刺すような皮肉で日々の暮らしの矛盾を暴きます。ですが、矛盾はまた、答えを探させようとする意地の悪い問いでもあります。だからこそ、矛盾を重要視すべきなのです。この作品は 2011 年、SPA（ポルトガル作家協会）の最優秀児童文学賞、ポルトガルイラストレーション賞の特別賞、Ler/Booktailors 賞の最優秀イラストレーション賞を受賞しました。ブルガリア語、スペイン語（コロンビア）に翻訳されています。

A Maior Flor Do Mundo

「世界でいちばん大きな花」

José Saramago • João Caetano, ill.

Porto Editora, 2002

ポルトガルのもっとも偉大な作家の一人であり、ノーベル文学賞を受賞したジョゼ・サラマーゴが、自分にとって子どものための物語を書くとはどういうことなのかを子どもたちに語ります。自身の能力のなさを認めながら、サラマーゴはまず、子ども向けの物語の書き方を学んだことはないと話します。しかし、彼は語り続けます……むかしむかし、あるところに、男の子と花がありました。作家は自分よりもはるかに大きなサイズのものを作り上げることができた、この男の子の話をしてします。まあ、そんなことは誰もがやっていることでしょうし、信じて挑戦するしかありません。さあ、物語を読みましょう。

A Menina Do Mar

「海から来た少女」

Sophia de Mello, Breyner Andresen • Sarah Affonso, ill.

Porto Editora, 2021

1958 年に書かれたこの物語は、現実感を失うことなく、あらゆる年齢の読者を魅了し続けるポルトガルの古典児童文学です。海辺に住む男の子と、魚のように水の中で息ができて、その上、他の子どもたちのように水の外で呼吸することもできる小さな女の子のお話です。二人の出会いは、たくさんの発見の始まりです。女の子は火や花、ワインといった地上のものに触れ、男の子はカニやタコといった、海の中に孤独そうに棲息する、賢く勇敢なたくさんの動物たちに出会います。それら以上に、二人は新たな気持ちや、お互いへの憧れ、一緒にいることの素晴らしさを経験します。「今や、あなたの住まいは海ね」と女の子が言います。

As Gravatas Do Meu Pai 「お父さんのネクタイ」

Pedro Seromenho

As gravatas do meu pai • Paleta de Letras, 2014

これは、早く大きくなりたかった男の子のお話です。男の子は、お父さんのネクタイを締めれば、背の高い立派な紳士になれると思ったのです！そこで、男の子は一本ずつ試してみることにしました。お父さんはとてもたくさんのネクタイを持っています。幸せなネクタイ、怠惰なネクタイ、情熱的なもの、冒険好きなもの、ぎこちないネクタイ。どんな気分や場面にもぴったりのネクタイがありましたが、男の子の目的にはどれも合いませんでした。

A Manta: Uma História Aos Quadrados

「ブランケット 小さな四角い布の物語」

Isabel Minhós Martins • Yara Kono, ill.

Planeta Tangerina, 2010

パッチワークキルトにはいくつかの物語が詰まっているのでしょうか？ おばあちゃんはとても小柄で痩せていましたが、いつも大きなベッドで、何百枚もの様々な小さな正方形の布で作られたブランケットにくるまって眠っていました。使われている布の一枚一枚に物語があり、おばあちゃんのお母さんのドレスだったものや、古いテーブルクロスだったもの、それからビーチバッグだったもの、何年も前に閉店した店で買ったものもありました。修繕が必要になるたびに、ブランケットには新しい小さな正方形の布が追加され、新しい物語が始まりました。そう、例えば、あなたの古いパジャマのように。フランス語（スイス）に翻訳されています。

A Guerra

「戦争」

José Jorge Letria • André Letria, ill.

Pato Lógico, 2018

父である José Jorge と息子の André は、多くの絵本を共同で制作してきました。この作品には、物語はありません。

「戦争を物語として語ることはできない」ためです。作中には、光がなく、人の顔と目も口も描かれておらず、動物の顔にさえもそれらがありません。銃や悪意、影があり、鈍い灰色がかった色調で、誰にも名前はなく、昼の光も決して見えません。そこにあるのは、無名の生者と死者の肉体の単調な色彩と、より大きなスケールで表現される力という孤独です。作者である父子は、「戦争はあらゆる恐怖の残忍な形となって現れる」ことを知っているからこそ、このような描き方をしました。そして、誰も隠したり忘れたりすることがないように、この本を作ったのです。

O meu Avô

『ぼくのおじいちゃん』

Catarina Sobral

Orfeu Negro, 2014

ぼくのおじいちゃんは毎朝 6 時に起き、ライトさんは 7 時に起きる。二人は毎日同じ時間にすれ違う。おじいちゃんは昔、時計屋さんだった。今は時間がたっぷりある。ライトさんは時計職人ではないし、無駄な時間もない。おじいちゃんはドイツ語とピラティスを習っている。おかしなラブレターを書いて、よく草の上でピクニックをする。とっても優しく、移り気で、忙しいおじいちゃん。

友達とのお茶や、水やり、絵画鑑賞、読書など、人生の小さな喜びを享受するおじいちゃんは、時間を忘れることもよくありますが（偉大な知恵）、孫を学校に迎えに行く時間は絶対忘れません。おじいちゃんと一緒にいると、時間はあっという間に過ぎていきます。

O Morcego Bibliotecário 「司書コウモリ」

Carmen Zita Ferreira • Paulo Galindro, ill.

Trinta por uma linha, 2016

事実に基づくこの物語は、さまざまな種類のコウモリとその生息地について、そして何よりも本と読書に対する愛について書かれています。コウモリには昆虫を捕まえる能力があり、コインブラ大学のキングジョン図書館やマフラ国立宮殿の図書館のような、もっとも古く、重要なポルトガルの図書館の本の保存に役立っていることが知られています。そのため、このお話の主人公であるコウモリの Franjinha は、家族や仲間たちの元を離れ、遠い宮殿で、司書の老 Ferradura の後を継ぐことになります。こうして、司書コウモリの華々しい系譜は続いていくのです。

Ježeva kućica

「ハリネズミの家」

Branko Ćopić • Dušan Pavlić, ill.

Kreativni centar, 2010

セルビア語史上もっとも有名かつ人気な児童詩であろう、Branko Ćopić 作の「ハリネズミの家」は、魅力的な詩であらゆる世代の読者を魅了し続けています。原語タイトルの一部にもなっている主人公の Ježurka Ježić は、何よりも自分の家を愛する気分屋の一匹狼。森での彼の冒険は、謙虚さ、勇気、内気さと知恵についての物語です。

Izabrane basne

「寓話集」

Dositej Obradović • Predrag Pedja Todorović, ill.

Zadužbina “Dositej Obradović”, 2011

Dositej Obradović は冒頭で、寓話の教育的重大性を説きます。あらゆる年齢や教育レベル向けの、読みやすく、わかりやすい本です。Obradović のシンプルで挿絵が付いた教訓は、短編文学としての寓話がもつ教育的価値と使命をとても雄弁に語ります。それらを通して、私たちは善と悪、誠実と狡猾、さらには嘘と真実をより簡単に見分けられます。この本は、“Dositej Obradović”財団が出版する「寓話集」3部作のひとつです。シカやハト、ウサギにカエル、キツネにサル、ワシにフクロウといった寓話の主人公たちが画家 Predrag Todorović の筆先から現れます。Todorović はウィットに富んだ想像力あふれる手法で寓話の美德をさらに強調します。

Mrnjavčevići 「Mrnjavcevic」

Dušan Pop Đurđev • Kosta Milovanović, ill.
Pčelica, 2016

セルビアでは Pop Đurđev 自身が決めたこの本の題名は誤解を生むでしょう。なぜなら、この名前は 14 世紀の有力なセルビア王家の名前だからです。しかし、この本はウィットに富み、他作品と関連づけながら Mrnjavčevićs について書いています。実は王族になぞらえた別の家族の話で、この韻文のメインは猫なのです。Đurđev と画家 Kosta Milovanović は愉快的詩と絵で、貧乏な黄色い猫と高貴な黒猫の恋にまつわる騒動を語ります。Đurđev は作家活動のほかに、セルビアで最も重要な児童文学祭の一つを開催しています。画家は母国でアイロニーの効いたコミック調のイラストで知られています。この本は、Pčelica の新シリーズの良作です。

Princ Nećko

「いやいや王子」

Svetlana Preradović • Nemanja Ristić, ill.

IP Laguna, 2018

この絵本の主人公は、65 番棟に住む、「やりたくない」を意味する「いやいや」がお気に入りの子供です。彼の「いやいや」の声はとても大きく、車の警笛や犬の鳴き声、近くにあるカフェの喧騒より大きいことも。幸いにも、お母さんとお父さんとお姉さんが彼の気に入らないことを見つけてくれます。語りや観察ゲームを通して、この楽しい絵本は、子どもたちが自分の気持ちを表現する助けとなり、親が自身の子どもとそれを話し合うように促します。子どもたちを惹きつける Nemanja Ristić の見事なイラストと面白い物語に加え、この本には、末尾にいくつかの課題が掲載されています。

Priče iz šume

「森のおはなし」

Nikoleta Novak • Aleksa Jovanović, ill.

Pčelica, 2015

「森のおはなし」は教育物語シリーズで、成長という問題を扱い、子ども向けの解決策をいくつか提示します。物語を読みながら、子どもは森や森の動物たちについて、わくわくするようなことをたくさん学べるでしょう。動物たちは賢いフクロウとそれぞれの物語について話し、すべての物語の終わりに謎解きがあります。多くの賞を受賞し、クロアチア語、マケドニア語、ブルガリア語、トルコ語、中国語といった多くの言語に翻訳されています。

Od čitanja se raste

「読書はきみを成長させる」

Jasminka Petrović • Dobrosav Bob Živković, ill.
Kreativni centar, 2016

Jasminka Petrović は、セルビアでもっとも児童文学賞を受賞している作家です。本は 30 冊以上あり、そのいくつかは 20 以上の言語に翻訳されています。「読書はきみを成長させる」は、学校に入学する子どもたちに読書を好きになるよう促し、その愛をほとばしらせることを意図した作品です。Tamara は学校に通い始めたばかりの 7 歳の少女で、読み書きの勉強にあまり関心がありません。公園やインターネットにいるオポッサムや老人のような、変わった登場人物たちの助けを借りて、読み書きの勉強に乗り気でない主人公はそれを知る恩恵を発見します。

Priča o dobroj metli 「良いほうきのはなし」

Dejan Aleksić • Boris Kuzmanović, ill.
Kreativni centar, 2010

Dejan Aleksić はセルビアの文学における名士のひとりです。Aleksić は多くの有名な文学賞を受賞している詩人であり、児童書作家です。「良いほうきのはなし」は感動的な物語で、妖精物語の要素を用いて、善の価値と真実の愛を説きます。ほうきの Martha は、小さな町でパン屋のそばでどこかに暮らしています。しかし、ある日、予期せぬ事態が起こり、Martha の生活は一変してしまいます。

Dar-mar

「Dar-mar」

Dragana Mladenović • Boris Kuzmanović, ill.

Kreativni centar, 2019

「Dar-mar」は「間違い」がある詩集です。あえて間違っていて、「間違い」はお邪魔虫なのです。それぞれの詩で間違いを見つけることで、この詩集を読むことが注意深さとやる気を求める複雑な冒険になります。読書は語彙を広げ、視野を広げ、批評的な考え方を成長させます。著者はこの本の冒頭で言います。「注意して読んでください。批判的になってください。予想を信じこまないこと。罣があると考えて、この詩を子守歌にして寝ないように。」画家はドローイングとコラージュを組み合わせた技法を使って絵を描いており、Dragana Mladenovic は子どもや若者向けの現代文学界で有名な新人で、近年、有名な賞を複数受賞しました。

Stilske igre 2

「文体であそぼ パート 2」

Simeon Marinković • Dušan Pavlić, ill.

Kreativni centar, 2016

大成功を収め、数多の賞を受賞した「文体であそぼ」パート 1 に続いて、第 2 巻を出版する度胸がこの本の作家と画家にはありました。「文体であそぼ パート 2」は、有名なイソップ寓話「キツネとカラス」の新たなバリエーションを 100 以上掲載しています。それぞれのバリエーションは独特な体験になっていて、現代的ですが、ワインの詩、短編現代小説、ソネット、ラップ、ブルース、カンツォーネなど珍しい文体が揃っています。すべての作家、画家、そして読者を想像力と創造性の海へ招待する本です。

Pura the Cat 「猫の Pura」

Tan Soon Meng • Ann Gee, ill.
Marshall Cavendish Children, 2013

Pura はシンガポールのボートキーでほかの猫たちと一緒に野良猫生活をおくっています。ある日、Pura は自分が「シンガプーラ」という、珍しくてとても価値のある猫の血統であることを知ります。自身の評判を新たに知った Pura は、友だちを無視するようになり——猫愛好家たちに捕まってしまう！

Pura は逃げて、改心するチャンスを見つけることができるのでしょうか？シンプルだけれども魅力的なこの物語は、幼い子どもたちに、友情と困っている者の真の友だちになることの大切さを教えてくれるでしょう。

Mabel Moves to Singapore

「Mabel シンガポールへ引っ越す」

Fleur Vella-Chang

Gus Books, 2017

ペンギンの Mabel と家族は、新天地へ引っ越さなければなりません。Mabel の悩みの種は、ほかのペンギンたちや、南極の氷のような冷たい気候が恋しくなること。しかし、徐々に Mabel は新たな環境に慣れ、新たに友だちを作ることがを学んでいきます。

シンガポールの様々な景色や響きを通して、明るいイラストで描かれた Mabel の冒険を追ってみましょう——そして、その過程で Mabel の家である熱帯の島についてさらに学んでいきましょう！

The Little Singapore Book 「小さなシンガポールの本」

Sim Ee Waun and Joyceline See Tully • Diane Ng Rose, ill.
Pepper Dog Press Pte Ltd, 2015

「むかしむかし、シンガプーラと呼ばれる小さな島がありました……」こうして始まるこの本は、シンガポールの歴史を縮約し、約 700 年前の神話的な王国から今日の現代都市に至るまでを描いています。鮮やかなイラストで、シンガポールとそこに住む人びとの発展が視覚的に旅するかのよう
に読者にもたらされます。一方で、シンプルだけれど魅力的な話には、ちょっとしたトリビアがあり、外部の情報源へのリンクを含んでいます。

各章末にあるゲームとアクティビティは、本を越えた学びの体験を広げるのに一役買っています。幼い子ども読者向けに、シンガポールの来歴を見事に紹介している本です。

Just a Little Mynah 「Little Mynah」

Evelyn Sue Wong • Dhanendra Poedjono, ill.
Epigram Books, 2020

Little Mynah（Mynah はハツカチヨウのこと）には、住んでいる公園にたくさんの友だちがいます。しかし、他の鳥のように美しくも印象的な見た目でもないことを残念に思っています。しかし、Heron（サギ）がトラブルに陥り、だれも助けられないなか、助け出せるかどうかは Little Mynah にかかっています！

多言語で書かれているこの絵本は、シンプルな単語とフレーズをシンガポールの公用語である 4 言語で読者に紹介し、もっとも小さく普通であるちっぽけな存在が、時々すばらしいことを成し遂げることを思い出させてくれます。

The Rock and the Bird 「岩と鳥」

Chew Chia Shao Wei • Anngee Neo. Ill.
Epigram Books, 2013

高齡の岩は何年も海のそばでのどかに生活をしています。しかしある日、若くてやかましい鳥が偶然、岩の上にやってきます。起こり得なさそうな友情や喪失を描き、生と死を映し出す、すばらしい話が続きます。作家 Chew Chia Shao Wei はたった 14 歳でこの物語を書き、2009 年王立連邦協会エッセイ大会で大賞を受賞しました。

「時を超えた寓話……予想がつかず、独特で、始めから終わりまで魅力的」と評されるように、この名作は 2015 年に Hedwig Anuar 児童文学賞、2016 年にシンガポール最優秀ヤングアダルト作品賞を受賞しました。

Karung Guni Boy 「カラングニの少年」

Lorraine Tan • Eric Wong, ill.
Epigram Books, 2016

Ming は意欲的な発明家ですが、ある問題を抱えています。それは、発明資金がないこと！ Ming は地元のカラングニ（廃品回収業）である男性の作業を見て、同じようにして、他の人びとがいらないものを自分で使うために集めようと決意します。しかし、このがらくたで彼は何を作れるのでしょうか？

発明と忍耐のこの話は、古い物だったとしても、想像力を飛翔させれば新たな活用の仕方を見つけられることを読者に示します。リサイクルできる物をミクストメディアの技法で楽しく描き出すイラストに加え、この本は、シンガポールのカラングニという仕事について簡潔に説明しています。

Agnes and Her Amazing Orchid: How Vanda Miss Joaquim Became Singapore's National Flower

「Agnes とすてきな蘭 どうしてヴァン ダ・ミス・ジョアキムはシンガポールの国花 になったか」

Linda Locke and James Wolf • Muhd Noh Arjuna, ill.
Epigram Books, 2018

19 世紀シンガポールで、ある若い女性が園芸へ情熱を注ぎ、蘭の新しい交配種を作る決意を燃やします。その花は、最終的に世界に知られ、シンガポールの国花として選ばれる花です。アグネス・ジョアキムとヴァンダ・ミス・ジョアキムの開発を描く感動的なこの本は彼女の孫娘たちによる共著で、シンガポールの興味深い遺産を読者に紹介します。

シンガポールの過去と現在を描き出す魅力的なイラストで、2019 年シンガポール文学賞最優秀絵本賞ショートリストに選ばれたことは不思議ではありません。

Jack and Jill at Bukit Timah Hill

「ブキ・ティマ・ヒルの Jack と Jill」

Gwen Lee • twisstii, ill.

Epigram Books, 2015

「ジャックとジル」や「メリーさんの羊」などの人気の童謡が、陽気なこの童謡集でシンガポール流になって登場します。観光的な魅力、例えば、シンガポールのナイトサファリや、書名にあるブキ・ティマ・ヒル、トウトウクエやアイスカチャンのような屋台料理、そして、一握りですが地元の神話を取り上げられます。古典的な童謡が掲載されるこの物語を読者は楽しみ、シンガポールの文化や歴史をさらに学ぶことになるでしょう。

末尾には、もととなった童謡の詩と、それぞれの詩で取り上げられるシンガポールの要素についての情報が掲載されています。

The Brilliant Oil Lamp 「すてきなオイルランプ」

Quek Hong Shin
Epigram Books, 2019

Asha と家族が新しいアパートへ引っ越した後にはまずすることは、新しい家で、オイルランプ——またの名をディヤ——に明かりを灯すこと。予期せぬ停電でどの家の明かりも消えてしまい、Asha は自分たち家族のつつましやかなオイルランプが、明かりを放ち、人々を喜ばせるのに大きな役割を果たすことに気がつきます。

このチャーミングな絵本は、シンガポールの多人種・多文化遺産を称賛する受賞シリーズの一つで、友情やコミュニティはあなたが何者であっても、どこに住んでいても見つけれられるのだ、ということを子どもに伝えます。

Little Wayang Kid

「ワヤンの小さな子ども」

Raymond Tan • Joey Ng Kai Woon, ill.

Brainchild Pictures, 2014

Raja は活発な男の子で、力がありあまっています。両親が何かスポーツをするよう提案すると、Raja は京劇を選びますが、お母さんは最初不安がります。Raja は自分が成功できるとお母さんとみんなを納得させられるのでしょうか？ 珍しくはありますが、幼い男の子が決意し成功するこの心温まる物語は Raymond Tan の短編映画の小説化で、英語と中国語で語られています。

シンガポールの他の公用語であるマレー語、タミル語でも、それぞれ英語との二か国語版が出版されています。

Kje si?

「ぜんぶのちいさな親切」

Marta Bartolj

Miszalozba, 2018

Marta Bartolj (1979-) のデビュー作であるこの絵本は、私たちがお互いに関連しあっていることを描く普遍的な物語です。この字のない絵本では、一つ一つはバラバラで、様々な人々が別々に知らずに行う親切が、最後には、迷子の犬を見つけることにつながります。詳細が豊かに描き込まれた絵は、多くの重要な要素をあらわにしており、セピア色とところどころ鮮やかな赤色で描かれる色の組合せの調和が特徴です。そして、ほかの人の生活に残す小さかったり大きかったりする痕跡の大切さを考えながら、繰り返し読み返すことを、注意深い読者に促します。

Deček in hiša 「少年と家」

Maja Kastelic

Mladinska knjiga, 2015

Maja Kastelic (1981-) は空間に特別な感情を抱いており、読者をリアリティのある幻想の世界へと連れて行きます。この字のない絵本では、少年が猫を追って不思議な家へ入っていきます。各部屋で少年は絵の描かれた紙を見つけ、猫は少年をどんどん奥へつれていきます。屋根裏部屋で、少年は絵を描いている少女を見つけます。見事かつ詳細に描き出される魅力的な絵は、子どもたちを、説明したり、この本についての物語を作ったり、質問をしたり、シンプルに幻想的なイメージを楽しんだりすることへ駆り立てるでしょう。子どもの、うっすらぼやけたスタイルで描かれた姿と、光と影のはたらきが、現実と想像世界のドラマティックな対話を生み出します。

Tu blizu živi deklica

「ここから近く」

Ida Mlakar Črnič • Peter Škerl, ill.

KUD Sodobnost International, 2019

有名な作家 Ida Mlakar Črnič (1956-) と著名なイラストレーター Peter Škerl (1973) は 12 部構成で巧妙に消失の物語を語ります。1 月から 12 月にかけて 12 の場所で、主人公の少女は、美しさ、豊かさ、家庭、友情、名前、声、目に見えるもの、体、歴史に記憶、そして最後は存在といった、彼女が物として所有できないものごとを手放し、最後に「あなたと私のような」人が消えた、と直接読者に語ります。忘れられないほど力強い文と絵が組み合わさって、物語は感傷に浸ることなく語られます。希望はない？いいえ、希望もまた、水彩の力強い筆運びで、壁の落書きとして、描かれます。「ここにあります。あなたのものです」と。

Luna in jaz 「月と私」

Andreja Peklar

KUD Sodobnost International, 2019

画家 Andreja Peklar (1962-) が書いたこの本は、月、すなわち地球の相棒についての物語です。この楽しい本は、濃いベルベットのような夜に始まります。子守唄のように強度を増したり減らしたりしながら少女と月（銀色の友）との遊びへ誘います。また、文と絵が作用しあって、満月や新月、三日月や下弦の月とは何か、といった空に関するいくつかの謎を解き明かします。月と遊ぶことは、ほかのおもちゃと遊ぶことと違います。人を含めすべての生き物は、地球の衛星の周期にいろいろな面で左右されます。したがって、この絵本は教育的でもあります。第一には、読者の好奇心を刺激し、神秘的な物語によって特別な美による喜びをもたらします。

Zakaj?

『 シマウマしましまなぜあるの？ なぜ？ どうして？ がおがおぶーっ！ の絵本 』

Lila Prap (Lilijana Praprotnik Zupančič)

Mladinska knjiga, 2002

リラ・プラップはスロベニアで人気かつ国際的にも有名な絵本作家です。この絵本は、動物に関する質問を提示し、それによって読者がより深く学ぶという、明快なコンセプトで作られたシリーズの1作目です。質問の答えはまずおどけていて、子どもの想像力に火をつけ、簡潔な説明が続きます。動物は明瞭に描かれ、平面的でシンプルかつ、柔らかさや親しみやすさ、楽しさを描き出します。情報提供とおもしろさ、真面目さと陽気さが見事に組み合わさった本です。未就学児と読書を始めたばかりの子ども向けで、家族の読み物としても理想的です。

Urška

「ウォーターマン」

Andrej Rozman Roza • Zvonko Čoh, ill.

Mladinska knjiga, 2010

スロベニアの名詩人 France Prešeren (1800-1849) の有名なバラッド「ウォーターマン」の、Andrej Rozman Roza (1955-) による再話です。この本は現代のスノップ Urška をメインに据え、今やオリジナルと同じくらい有名になっています。作家は、10 代の Urška の、名もなきバイク乗りとの出会いと川での悲劇的な最期を詳細に伝えます。ユーモアがあり、みずみずしい言葉やスラングを用いて、作家は悲劇的な雰囲気喜劇的なものに変え、女性と男性キャラクターの典型を乗り越えます。画家は生き生きとしたアクションを描き出す「カメラ」として、束の間の出来事のあらゆる詳細を捉えています。

Zgodba o sidru

「いかりの物語」

Damijan Stepančič

Mladinska knjiga, 2010

この絵本は有名な画家ダミャン・ステパンチチ（1969-）が書いた、スロベニア初の字のない絵本のひとつです。読者は主として観察者で、少なくとも部分的には、自身の想像力に頼る必要があります。見開きの絵は、一人ひとりに違って見え、さらにはおそらく読む度に違っているでしょう。数多くの楽しい解釈を与え、想像力（大人も子どもも）をたくさん刺激するだけでなく、どうしていかりがリュブリャナのコンGRES広場の真ん中に身を置くことになったのか、という疑問にも答えてくれる本です。

Molitvice s stopnic 「階段のいのりびと」

Peter Svetina • Ana Zavadlav, ill.
Mladinska knjiga, 2016

この絵本は、作家ペテル・スヴェティナー（1970-）と画家 Ana Zavadlav（1970-）の共作で、どちらも、毎日僅かな時間で行われる大切なことに対するすばらしい感性を持っています。この絵本の詩は子どもと神様との対話だと思われます。しかし、神は触れることのできない神聖な存在ではなく、子どもの幼い好奇心のおかげで、子どもにとって未だ自明でない世界のその他のものと同様に、神は子どもから質問される存在です。聖なるものに触れる本ですが、主として私たちの日常生活のすばらしさや子どもの世界の不思議さを描いています。鮮やかな色で描かれた楽しい絵は、描き出している瞬間の不思議な魅力と子どもたちの感情を捉えています。

Drobtine iz mišje doline

「mišje doline のうた」

Anja Štefan • Alenka Sottler, ill.

Mladinska knjiga, 2017

作家でありストーリーテラーでもある Anja Štefan (1969-) による魅力的なこの絵本は、イラストレーターであり画家の Alenka Sottler (1958-) との共作です。詩の力強いリズムと聞きとりやすさが、画家による革新的な手法と組み合わせられています。ネズミたちは生き生きとしたフィンガーペイントで描かれ、楽しい文章と作用しあっています。ネズミたちの詩は広い範囲の疑問を話し始めます。実存的なものから社会に関わること、生命のあらゆる関連性、生命の小さな喜びから老いと死を考えること……。この本の主なメッセージは、つまずいても、より良い明日のためにベストを尽くし、それを続けることが大切である、ということです。

**Liúsonglíng : Zijìnchéng li de
siluòwénníy rén = Ferdinand Avguštin
Hallerstein : Slovenec v Prepovedanem
mestu**

「Hallerstein 紫禁城の異国の天文学者」

Huiqin Wang • Natalija Toplišek, Translator.

Mladinska knjiga, 2014

中国系スロベニア人の画家 Huiqin Wang (1955-) は、18 世紀の教養あるスロベニアの宣教師 Ferdinand Augustin Haller von Hallerstein を描き出しました。中国語とスロベニア語で書かれ、画家は、哲学者であり神学者、数学者、天文学者、言語学者、地図製作者であるその生涯を中国の伝統画法で展開します。Hallerstein の若かりし頃のスロベニアでの生活から、中国の首都で中国人 Liú Sōnglíng として生き、敬愛される最期の日々が描かれます。事実に基づく文章の一方、イラストには象徴性が内包されています。この作品は過去の幸せな交流を称える小さな記念碑ではなく、文化間の連携を歓迎するものです。

Gropen

「くぼ地」

Emma Adbåge

Rabén & Sjögren, 2018

くぼ地があるのは体育館の裏。昔、誰かがくぼ地にあった大量の砂利をどけたので、今では低木の茂みと切り株があり、そこで過ごしたり遊んだりして楽しむことができます。みんなくぼ地が大好き——ただし大人は例外です。大人はくぼ地が大っ嫌いなのです！この本は遊びと想像力について書いています。それと、臆病な大人と、諦めないこと！だって、もし大人が全てを決めたとしたら、何が起こるのでしょうか？アラビア語、デンマーク語、ペルシア語、フランス語、イタリア語、ポーランド語、チェコ語、ドイツ語に訳されています。

Knacka på

『たたいてみよう！』

Anna-Clara Tidholm

Alfabeta, 1992

青い扉をノックして、家に入ってみましょう。読者は一緒にあらゆるドアをノックして、開けて、その先に何かあるかを見てみます。そして、部屋の中に見えたものに一緒に挨拶をします。アラビア語、英語、日本語、ペルシア語、フィンランド語、韓国語、オランダ語、ロシア語、ソマリ語、ドイツ語といった、いくつかの言語に訳されています。

Sagan om den underbara familjen Kanin och Godistrollet

『ひみつのおかしだ おとうとうさぎ！』

Jonna Björnstjerna
Bonnier Carlsen, 2010

おとうとウサギはおかしが大好き！できることなら、ずっとおかしを食べていたいくらいです。しかしお父さんは、おかしは土曜日にしか食べてはだめ、と言います。他の日は、おかしを食べる子どもたちをトロルが連れ去りにやってくるのです。けれど、それでも食べたい衝動はどんどん強くなっていき、おとうとうさぎはとうとうおかしを食べることを決意します……。日本語にも翻訳されています。

Pudlar och pommes

「プードルとフライドポテト」

Pija Lindenbaum

Lilla Piratförlaget, 2016

Ullis と Ludde と Katta はすてきな場所に暮らしていて、おなかがいっぱいになるのに十分な量のジャガイモがあります。しかしある日、庭の土が干上がってしまいます。ガラス瓶に入った最後のジャガイモを持って、3匹は海に繰り出し、新しい場所を見つけなければなりません。やっと陸地に近づくと、3匹は浜辺で数匹の犬に出会います。ここは彼らの新たな居場所になるのでしょうか？フライドポテトは食べられるのでしょうか？アラビア語、デンマーク語、フランス語、ポーランド語、ドイツ語に翻訳されています。

Dom som bestämmer 「決める者たち」

Lisen Adbåge

Bonnier Carlsen, 2018

裏庭には、「決める者たち」と「何もできない私たち」の2つのグループがいます。しかし、なぜ「決める者たち」は常に物事を決めるのでしょうか？そして、「何もできない私たち」は仲間に入れてもらうために何をすべきなのでしょう？あるいは、いや、待ってください……そもそも彼らは仲間になりたいのでしょうか？彼らはほうっておいてほしいだけかもしれません。アラビア語、アルバニア語、ダリー語、ペルシア語、クルド語、北サミー語、ルーマニア語、ソマリ語、スペイン語、ティグリニャ語に訳されています。

Vems syskon?

「誰の赤ちゃん？」

Stina Wirsén

Bonnier Carlsen, 2016

Gnis と Knatt のきょうだいに、ついにもうひとりきょうだいができました。とってもわくわく！Gnis と Knatt はずっと待ち望んでいたのです。今こそ一緒に遊ぶとき！しかしまず、赤ちゃんはとっても小さくて、小さくて、つまらない。そして、赤ちゃんが十分大きくなって Gnis とだけ一緒にいたいと思い、Knatt は一緒にいることを許されず……。アラビア語、デンマーク語、ペルシア語、韓国語に訳されています。

En sur citron

『ごきげんななめ』

Emma Virke

Lilla Piratförlaget, 2019

リンゴは歌を歌える？バナナは太鼓をたたける？レモンちゃんに聞いたら、できないというでしょう。けれど、どう思いますか？なぜレモンちゃんのごきげんななめなのでしょう？あなたならレモンちゃんのご機嫌を良くすることができるかも？

Historien om någon

「だれかの物語」

Åke Löfgren • Egon Möller-Nielsen, ill.

Rabén & Sjögren, 1951

床を濡らしたのは誰？おばあさんのテーブルをひっくり返して、2匹の魚を食べて、牛乳を飲んで、金魚をつかまえて、植木鉢をひっくり返して、ネズミを食べて、花瓶の中に滑り落ちたのは？この不思議な犯人は誰なのでしょう？どのページにも赤い毛糸が伸びているのが描かれており、ページをめくるごとにどんどんこのミステリーの答えへと近づいていきます。

Nämen Benny

『ベニーいえでする』

Barbro Lindgren • Olof Landström, ill.

Rabén & Sjögren, 1998

ベニーのお母さんは掃除中。まずはベニー。お風呂に入りたいのです！そして次は、ぶうちゃん。ぶうちゃんを洗濯機に入りたいのです。ベニーはもううんざり。ぶうちゃんと一緒にもっと良い家を探しに飛び出します。お母さんを必要とするのは誰なのでしょう？ベニーではないのでしょうか。それともベニーなのでしょう？オランダ語、英語、フィンランド語、日本語、韓国語、ポーランド語、ロシア語といった、いくつかの言語に訳されています。

Aydede Her Yerde

「お月さまはどこにでも」

Hacer Kılıçoğlu • Reha Barış , ill.

Günişığı Kitaplığı, 2022

この本は、児童書出版協会（ÇGYD）の 2012 年のベスト童話に選ばれたものですが、そこに収載されている 16 の物語の共通項はお月さまです。お月さまと一緒に、読者は様々な場所、国、都市、文化への印象的な旅に連れて行かれます。どれほど生活が違えども私たちは皆同じ地球に生きていることを思い出させ、愉快的調子で笑わせてくれます。ペルーからスペイン、ベトナムからフィンランド、ボスニアからエジプト、トルコから中国に至る物語には、アタテュルクやバルシュ・マンチョ、アンネ・フランクといった、人々に愛されている人物が登場します。物語は、言葉遊びや独特なフレーズ、頭韻で彩られており、読者の言葉と表現を富ませます。

Atatürk'ü Tanıyalım 「アタテュルクを知ろう」

Mavisel Yener • Esin Güler, ill.

Bilgi Yayınevi, 2020

「アタテュルクを知ろう」は絵本で、トルコ共和国の初代大統領ムスタファ・ケマル・アタテュルクの生涯と自然や動物に対する愛を子どもたちにマンガ形式で語ります。驚きもたくさんあり、マンガの世界へ楽しく誘います。Mavisel Yener は、トルコ児童文学の名士ですが、M・ケマル・アタテュルクの家族、子ども時代、頭の良さ、学生時代、祖国解放の闘いの信念や先見の明を描いています。アタテュルクは、本を愛し、動物や自然を愛し、芸術を重視し、平和的かつ情熱的で、陽気な性格であることもうかがえます。

Ayşe'nin Kilimleri

「Ayşe のラグ」

Sevtap Sarıca

Nesin Yayınevi, 2020

Ayşe のお母さんはラグを織ります。植物の根を色へ、模様を言葉へ変換する魔法の世界で、独自の言葉と音楽があるのです。Ayşe は謎めいた言葉を学び、この魔法の秘密を解き明かせるのでしょうか？ Sevtap Sarıca 作・絵の「Ayşe のラグ」は、アナトリアで育つ少女の物語です。家族とのコミュニケーション、ジェンダー平等、過去・現在・未来、伝統芸術、社会文化的意識、労働、技術、専門性、時間管理、勤勉が描かれています。

Nice Ninenin Zeytinleri

「おばあちゃんのすてきなオリーブ」

Şafak Okdemir

Çınar Yayınları, 2022

この、同じ朝を描く 5 つの物語は、世界は自分たちのものだと考える人類に対して、オリーブの木々は友達だと考える人々の物語です。Şafak Okdemir は、忘れえない絵との格闘を語り、世界の真の所有者について自己欺瞞に陥っている人間の残虐行為に待ったをかけます。読者は、最初にオリーブの木の話を聞きます。地域最古のオリーブの木は、太古から今に至るその歴史を語ります。実が成るからオリーブの木を愛し守るべきだという考えよりもむしろ、オリーブの木が自然の一部であり、生息している平原の利害関係者であることを、この物語は強調します。人間、動物、木々が相互に作用していることが語られています。

Galata'nın Tembel Martısı

「ガラタのなまけものかもめ」

Behiç Ak

Günüşiği Kitaplığı, 2022

兄の Emre と違って、Hülya はインターネットにもテクノロジーにも興味なし。彼女がメッセージを送るときは、ハトに託します。しかし、彼女は隣のガラタ塔が改修工事のために防護カーテンを敷かれてしまうことを聞き、とても心配になります。なぜなら、石造りの塔の石の隙間にはアマツバメの巣があるからです。兄妹は赤ちゃんアマツバメを助けるために手を取りあい、自治体である市に理解してもらえよう様々な方法を考え出します。近所に住むカモメの Murteza は、赤ちゃんアマツバメを助けるために行動を起こしてくれるだろうか、とみんなは考えます。この本の著者は 20 冊以上の児童書を書き、多くの賞を受賞しています。初版は 2011 年です。

Yavru Ahtapot Olmak Çok Zor 「赤ちゃんタコは大変」

Sara Şahinkanat • Feridun Oral, ill.

Yapı Kredi Yayınları, 2021

作家 Sara Şahinkanat は、子どもと過ごしたりやりとりしたりするのも好きです。この物語は、小さい頃「服を着ることが難しかった」息子 Tan に書いた物語で、すべての子どもに共通する問題に光を当てています。日々、自分にはまならないことをしなければなりません。大人社会と歩調を合わせるために、温かいベッドから出て、学校へ行き、朝食を食べ……とても大変なことなのです。家が壊れそうになったウナギとその卵を、Nino が、タコであるからこそ救って、物語が終わります。そして、Nino はタコであることは悪いことではなく、誇りなのだと気づきます。Şahinkanat の詩的な物語は、物語にぴったりな Feridun Oral のイラストで補われています。

Lori'nin Masalı

「Lori の話」

Züleyha Ersingün • Müjde Başkale, ill.

Kırmızı Kedi Çocuk, 2022

現代児童文学の人気作家 Züleyha Ersingün は、文学の持つ癒しの力で子どもが抱く学校への不安を晴らします。Müjde Başkale の夢と現実の狭間のような絵が、古都の通りへと読者を誘います。Lori には鳥やアプリコットの木や元気の出る歌があり、おばあちゃんにはおとぎ話と深いしわ。毎晩一番星が現れる時、おばあちゃんは Lori に話をし、Lori はおばあちゃんの顔の皺について尋ねます。しかし、日々は過ぎ、秋がやってきます。Lori はしぶしぶ学校に行きますが、おばあちゃんはおとぎ話を忘れ、2 人は話さなくなります。ある日 Lori が先生の机にある本を見てクジャクの話を出すと、恐怖は消え、再び彼女の声が聞かれるようになります。

Kemancı Ayı Masalı

「バイオリン弾きのクマの話」

Fatih Erdoğan

Mavibulut, 2021

この本はクマの Bingo のバイオリンを弾けるようになる過程を描いた話です。目標に至るまでにたくさんの障害が立ちますが、もし本当にしたいことがあるのなら、めげずに一生懸命頑張れば成し遂げることができるという示されています。がさつなクマの Bingo は、考えられる限りもっとも優雅な楽器の 1 つであるバイオリンを弾けるようになることに夢中になります。最初はあまりうまくいかず、否定的な意見やがっかりするような反応を森の仲間の動物たちからもらいますが、彼は諦めません。批判されてもあきらめないクマの Bingo は、冬がやってきて、自身の性質と戦わなければならなくなります。冬眠で目を閉じそうになる Bingo は、誘惑に耐えてバイオリンの練習を続けます。

Kirpi ve Sergi

「ハリネズミと展覧会」

Özge Bahar Sunar

Redhouse Kidz, FB page, 2017

ある日学校が始まる前、小さなハリネズミは森を歩いている、ちょっとした事故にあい、指を怪我します。ハリネズミは非常に張り切って学校に行き、注意深く授業を聞きますが、包帯を巻いた指で字を書く練習に参加することはできませんでした。先生は来週「a」の文字の展覧会があること、その展覧会に最も美しい「a」を作って参加しなければならないことを、森中の全ての動物に対して告げました。これが小さなハリネズミの冒険のはじまりです。指を怪我したにもかかわらず、小さなハリネズミは希望を失わず、すばらしい3つの「a」を何とか作り上げました。そして、彼はクラスメートたちに、次の展覧会に向けての刺激を与えたのでした。

United Arab Emirates 1

アラブ首長国連邦

يونس

Younis

Amal Naser • Anita Barghigiani, ill.

Kalimat Group, 2019

Younis はダウン症の子ども。趣味の料理をするのが好き。自分のトレードマークとして、作ったお菓子すべてに青い鳥の絵を添えます。そして、村にある家全てのドアの前に、子どもたちへの贈り物としてお菓子を置くのです。ある日、Younis が病気になり、お菓子が消えてしまいます。子どもたちは青い鳥の秘密を探り、みんなが彼の様子を気にかけるようになります。今では Younis の夢は叶い、有名な青い鳥ベーカリーに！心温まるこの物語は、内面から人を知ろうとすることや、見た目に惑わされないこと、すなわち、人々の間で愛が広まっていくことを促します。

بطاع

「夢売り屋」

Mohanned Alakouse • Agata Wojakowska, ill.

Kalimat Group - The Dream Vendor, 2015

夢売り屋は夢のキャンバスに、車いすを描きます。彼と父親は子どもたちに風船を売っており、夢売り屋は風船を持って立ち、子どもが近づくと、夢を尋ね、風船にそれを描いて夢が大きくなるように風船を膨らませます。彼は風船を売り、たくさんお金を稼ぎ、母親に車いすを買うことに成功します。この物語は、子どもに自分の夢の実現に向けて粘り強く努力することを促し、夢の実現におけるお金の節約とその道徳的及び物質的価値の重要性を強調しています。

United Arab Emirates 3

アラブ首長国連邦

خضرراء جلول

「緑のおさげ」

Mohanned Alakouse • Ashley Choukeir, ill.

Kalimat Group, 2017

Amal は平凡な女の子。しかし、髪の毛が全て抜け落ちてしまいました。頭は銀のように光り、人々は見慣れていません。Amal はお母さんと一緒に植物やハーブを売る仕事をしており、空き時間には、髪のある頭と全く髪のない頭を絵にかきます。他人とは違う頭であるがゆえに、彼女は面白い冒険をしています。Amal の髪の毛は愛の花を売ると生えてきます。癌に苦しむ人々にとっても、実は愛が治療法であることが読者に示されます。

United Arab Emirates 4

アラブ首長国連邦

والوحش أنا

「かいぶつとぼく」

Aisha Al Harthi • Baraa Awoor, ill.

Ashjar Publishing House, 2020

愛する者を失うと、悲しみのかいぶつがやってくる……。そして愛する者がいなくなった心のすきを、かいぶつが埋めていく……。友達や時間、喜びといった私たちがもっているものすべてを、かいぶつは少しずつ奪っていきます。この物語の主人公は、どうやってかいぶつを倒せたのでしょうか？そして、（どうやって、）勇敢にも人生に再び立ち向かったのでしょうか？！

United Arab Emirates 5

アラブ首長国連邦

الحين

「なつかしさ」

Aisha Al Harthi • Hassan Manasrah, ill.

Ashjar Publishing House, 2019

Hasan は旅に出ます。すべてから逃れることが、自分を幸せにすると、考えながら。しかし、実際に起こったことはこうです。ある夜、なつかしさにおそわれ、Hasan の人生は一変しました……。なつかしさの扉を開いたら、そこから逃れることはできないのです。

United Arab Emirates 6

アラブ首長国連邦

تكشيرة

「しかめっ面」

Dr. Naseeba Alozaibi • Hatem Ali, ill.

Ashjar Publishing House, 2013

しかめっ面をしているのは誰？何があったのでしょうか？
そして、どんなすてきなサプライズが待っているのでしょうか？
さあみなさん、すべての疑問にお答えしましょう。この
わくわくする物語、「しかめっ面」がね。

United Arab Emirates 7

アラブ首長国連邦

خير علقص بحون

「おやすみなさい」

Ameera Bu Kadra • Aly Elziny, ill.

Al Hudhud publishing House, 2019

今ではもう両親は一緒に暮らしていませんが、私は今でも2人に愛されています。私は2つの家に住んでいて、けれど毎晩言うのです。「おやすみ、ママ。おやすみ、パパ。」両親が別居していても、この物語の主人公は一方に偏らない生活を送っています。家族の優しさに包まれながら起きて眠り、別々に暮らす両親のもとで、彼女は生活しています。この物語は、人間たちの喫緊の問題である両親の離婚を、子どもに向けて、穏やかに、かつ、教育的に示しています。

United Arab Emirates 8

アラブ首長国連邦

میتن افی وحش

「家のなかのかいぶつ」

Noura Al Khoori • Hussein Sonmez, ill.

Al Hudhud Publishing House, 2020

ぼくの大好きなゲーム「危険なジャングル」を完成させるために、ママはぼくに恐竜をさらに 2 頭買うことを許してくれる。「ママ……車も 5 台買って、おねがい!」。ママは言います。「そうしたら、どうやってかいぶつを倒すの?」この物語の肝は、時間と空間を奪う、散らかったものを減らすというアイデアが、子どもが親しみやすく、かつどの子でも実践できる方法で、楽しく示されていることです。

United Arab Emirates 9

アラブ首長国連邦

لُمْدُ هِشْ

「すごいいきもの」

Amal Farah • Amira El Tabey, ill.

Wow for Publishing and Educational Services, 2021

これは、作家が「すごいいきもの」と呼ぶ不思議な生き物との旅。28 枚のイラストを通して、作家はこのすごいいきものを説明します——場所は、寒いところなのか、それとも砂漠なのか。陸、それとも深い海が好きなのか。何歳で、どんな特徴があるのか。誰と住んでいるのか、何の動物と友達なのか、ペットなのか、野生なのか。感染するものなのか。注目されるものなのか。見えるのか、見えないのか。そうして、読者はこの本で、誰が、あるいは何が、「すばらしいもの」なのかを模索します。

United Arab Emirates 10

アラブ首長国連邦

أخضر رمل أهل فارب حر

「黄色の海……緑の砂」

Nadia Al Najjar • Heidi Farouk, ill.

Wow for Publishing and Educational Services, 2021

「色覚多様性」という主題を扱っており、その特徴を描いています。この本を通して、幼い読者は現実と想像のなかの、周囲にあるものの色を学びます。白と黒と灰色で描かれた絵は読者の想像力を刺激し、異なる見方でものを見ることになります。この特性を持つ子どもが物事を別の見え方で見えるように。

United Kingdom 3

英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）

Luna Loves Library Day

「Luna は図書館の日が大好き」

Joseph Coelho • Fiona Lumbers ill.

Andersen Press, 2018

Luna は毎週 1 日、図書館でパパと一緒に過ごす日を楽しみにしています。一緒に本を探し、魔法やミステリーや家族の物語を読み、Luna が借りる本を選んで、家に帰ります。このすばらしい絵本は、図書館と、家族や地域の生活における図書館の役割を楽しくたたえます。お父さんが読んでくれる物語の 1 つは、トロルの王と人魚の女王の話。2 人は別れますが、娘である姫を深く愛して大事にしており、Luna と両親の状況を穏やかに反映しています。この物語は本の中で別冊として現れます。世界本の日で調査でイギリスの人気絵本の 1 つに選ばれており、ジョセフ・コエローは 2022～2024 年の「子どものためのローリエット」です。

Elmer

『ぞうのエルマー』

David McKee

Andersen Press, 1998

この本は、カラフルなゾウのエルマーのシリーズ 1 作目です。灰色の他のゾウと違って、パッチワークのようにカラフルな自分を変だと思うエルマー。しかしすぐに、違うことは良いことで、違うからこそ他のゾウから自分が好かれていることに気づきます。カラフルで元気なユーモアいっぱいの絵と文が組み合わさって、全世界の子どもに大人気の傑作となりました。広く読まれている有名な児童書シリーズの 1 つで、1989 年の出版以降 1,000 万部以上売られています。電子でも読め、50 以上の言語で出版、テレビシリーズにもなっています。毎年 5 月にはエルマーの日が祝われ、学校や図書館は関連した様々なアクティビティなどに参加します。

My Name is Not Refugee

『なんみんってよばないで』

Kate Milner

Barrington Stoke, (The Bucket List), 2017

幼い少年は母と故郷を去り、安全な地を探す旅に出ます。この物語ではその道のりで出くわす、別れを告げる悲しみ、長時間の歩行や待機、新たな食べ物や言葉や眠る場所が描かれます。そして、この旅をしなければならないとはどういうことなのかを力強く感動的に描き出します。

各ページの質問を通して、この家族がしなければならない決断を「あなただったらどうしますか？」と読者に考えさせ、問いかけます。本の終わりでは、難民と呼ばれるだろうけれども、「あなたの なまえは なんみん じゃないのよ」と強く示されます。2016年ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館イラストレーション賞、2018年にクラウド・フリュッグ賞を受賞しています。

United Kingdom 10

英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）

You're Snug with Me

「一緒にごろごろ」

Chitra Soundar • Poonam Mistry ill.

Lantana Publishing, 2018

冬の始め、凍てつく北の洞穴深くで生まれた 2 頭のクマの子は母親に洞穴の外に何があるか尋ね、母親は「氷と雪の大地」を語ります。好奇心旺盛な子どもたちはさらに質問し、自分たちの住む場所と地球について学びます。母親は子どもに恐れることはない伝え、「一緒にごろごろしよう」と安心させます。

インドの伝統芸術に影響を受けた美しい絵は、美しい文を完璧なほどに補完し極寒の感覚や降雪地の広大さを捉え、母親が子どもに与える心地よさや温もりを描きます。2020 年 ケイト・グリーンウェイ賞ショートリスト、2018 年にキルクス絵本賞とタイムズ教育誌児童文学賞に選出されました。

The Day You Begin

『みんなとちがうきみだけど』

Jacqueline Woodson • Rafael López, ill.

Nancy Paulsen Books, 2018

「そしてとつぜん、／せかいが　ほんの　すこしだけ
ひろくなって／きみの　いばしょが　あらわれます。／みんなが　きみとは　ちがっている／きょうしつで。」（都甲幸治訳）自分の居場所がないと少しでも感じるすべての人にとって普遍的な物語で、繋がりを持つ勇気についての作品です。ジャクリーン・ウッドソンは私たちに内在する美しさと個性を描き出し、みんな似た者同士であることを示します。

画家はアクリル絵の具で木に描いたものやペンやインクなどで描いたものを Photoshop で組み合わせて絵を描いています。NY タイムズベストセラーの第 1 位に選ばれ、2019 年ジェーン・アダムズ平和ブック賞を受賞しました。

Last Stop on Market Street

『おばあちゃんとバスにのって』

Matt de la Peña • Christian Robinson, ill.

G.P. Putnam's Sons Books for Young Readers, 2015

この絵本は、ニューベリー賞、コールデコット賞オナー賞、コレタ・スコット・キング賞画家部門などに選出され、瞬く間に現代の傑作となりました。毎週日曜日、ジェイとおばあちゃんはバスに乗りますが、あるとき、ジェイはそれを不満に思い、なぜ車がないのかぼやきます。

すると、おばあちゃんは日々の美しいものを教えてくれます。いつもジェイに手品を披露してくれるバスの運転手や、演奏をするギタリスト——その音に、ぶち犬も含めみんなが目をつむって聴き入ります。何より、最後にジェイとおばあちゃんは他の人たちに美しいものを共有するのです。

Thank You, Omu!

『ありがとう、アーモ！』

Oge Mora

Little, Brown Books for Young Readers, 2018

モーラの生き生きした絵は、アクリル絵の具、チャイナマーカー、パステルなどを組み合わせて作られています。とても魅力的で、アーモが緋色のシチューを煮ている時には匂いがしそうなほど。近所のみんなが一杯分けてほしいと家にやってくることも不思議ではありません。最後、アーモはシチューをあげすぎて、自分の分がなくなってしまう。

するとみんなが自分たちのご馳走を手に戻ってきて、アーモの心は「幸せと愛」で満たされます。モーラは2019年コールデコット賞オナーに選ばれ、コレタ・スコット・キング賞新人部門、エズラ・ジャック・キーツ賞イラストレーター賞などを受賞しました。

The Undefeated 「屈しない者」

Kwame Alexander • Kadir Nelson, ill.
Versify Books, 2019

Kwame Alexander が書く、黒人の生命へのラブレターであり、Kadir Nelson が劇画チックな油絵でイラストを描いています。この詩は英雄たちの旅路の遍歴を描き出し、奴隷制度の恐ろしさと、ブラック・アメリカンのアイコン的な人々が成してきた貢献に対する賞賛をつないでいます。政治、文学、改革活動、陸上競技に至るまで、Alexander の詩は奴隷制度の野蛮さを描き出し、生き残った人々の忍耐に注目させ、未来への行動を呼び起こします。「屈しない者」は 2020 年にコールデコット賞、同年、コレタ・スコット・キング賞 画家部門を受賞しました。

We Are Water Protectors

「水のまもりびと」

Carole Lindstrom • Michaela Goade, ill.

Roaring Brook Press, 2020

北米の先住民による運動、特に 2016 年から 2017 年にかけて行われたダコタ・アクセス・パイプラインの抗議運動に着想を得た作品です。若い読者に環境、すなわち全てを繋ぐ水の保護に対する支持を促し、なぜそれを守るために戦わなければならないのかを明らかにします。Carole Lindstrom は先住民族オジブワのタートル・マウンテン・バンドに、Michaela Goade はアラスカのトリンギット・ハイダ・インディアン部族中央評議会に部族として登録しています。本書は、2021 年にコールデコット賞とジェーン・アダムズ児童図書賞を受賞しました。

We All Play

「ぼくらはみんなあそぶ」

Julie Flett

Greystone Books, 2021

この本はとても幼い子どもにも、楽しく自然との類似点を見つけさせます。頭韻を踏む言葉と土色の絵を通して、森の動物たちの日々の行動を観察し、子どもが遊ぶなかにその類似点を見出します。最終的に寝つくまで、ね。北米の先住民族の言語の 1 つであるクリー語で書かれた文章も登場します。

用語集には、物語に登場する動物をクリー語でどう呼ぶかも含まれています。高評価を多数得ており、5 つの大きな出版社からその年のもっとも素晴らしい児童書として名前を挙げられました。

Owl Moon

『月夜のみみずく』

Jane Yolen • John Schoenherr, ill.

Philomel Books, 1987

長年読者に愛されてきた『月夜のみみずく』は、自然の中で体験を共有する素晴らしさを描き出します。少女は初めて、見つけるのが難しいみみずくを見に、暗くなってから父親と一緒に家の周りにある森へ出かけます。この本が描くのは、我慢強く、穏やかに、そして静かに観察するなかで味わうことができる不思議さです。

画家は光と影を巧みに使い、静寂と月夜が慣れ親しんだ土地を神秘的なものに感じさせます。この本は、コールデコット賞など多くの賞を受賞しており、作家は、この本がおそらく自身の最高傑作であると述べています。

A Big Mooncake for Little Star 「Little Star の大きな月餅」

Grace Lin

Little Brown Books for Young Readers, 2018

神秘的なこの物語では、受賞作家 Grace Lin が人々に愛されている中秋節のお菓子、月餅を使って、月の満ち欠けを説明します。Little Star と母親は、天空のキッチンで大きな月餅を作ります。Little Star は寝ようとしますが、月餅の美味しさが頭から離れなくなります。

母親には食べるのを待つように言われましたが、毎晩つまみ食いをして、布団をこっそり抜け出すのは、きっと大丈夫でしょう！くすんだ色合いの水彩画は広大な輝かしい星夜を呼び起こし、シンプルな物語と相まって家族愛のぬくもりを作り出しています。

Dreamers

「夢見る人びと」

Yuyi Morales

Neal Porter Books, 2018

記憶に残る、美しいこの回想絵本は、作家とその幼い子どもがメキシコからアメリカへと移住してきたときを旅します。Morales と子どもは英語を学び、公共図書館で見つけた絵本で世界を知っていきます。詩的で魅力的で、幻想的でもあり親しみも感じられるミクストメディアの手法で描かれた絵が添えられるこの物語に、世界を驚きと希望を持って見る子どもたちはみな、惹きつけられます。

すぐさまベストセラーとなり、多くの有名な賞を受賞し、州のリーディング・プログラムにも含まれ、今や図書館の定番となっています。

Julián is a Mermaid

『ジュリアンはマーメイド』

Jessica Love

Candlewick Press, 2018

祖母と一緒にプールから帰る途中、ジュリアンは世界で一番好きな生き物である人魚の恰好をした 3 人の女性を目にします。愛らしい水彩画とインクで描かれる、ジュリアンが海の中で身体的に変身する夢を読者は追っていきます。しかし、夢を実現するために家のものを使ったジュリアンを、祖母は理解してくれるのでしょうか？2019 年ストーンウォール賞大賞のこの物語は、子どもたちと祖父母の愛と受容を描いています。

ありのままの身体をポジティブに愛すること、想像力、選択家族、多様性やジェンダー表現の価値といったテーマに触れ、読者に力強いメッセージを示します。